

県単道路改良（一）古間（停）線  
埋蔵文化財発掘調査報告書

—信濃町内—

ふき の はら  
**吹野原 A 遺跡**

2002.3

長野県長野建設事務所  
長野県埋蔵文化財センター

県単道路改良（一）古間（停）線  
埋蔵文化財発掘調査報告書

—信濃町内—

ふき の はら  
**吹野原 A 遺跡**

2002.3

長野県長野建設事務所  
長野県埋蔵文化財センター



吹野原Ⅰ 石器文化の主要な石器



基本層序 (TP11南壁)

# 序

信濃町は黒姫山麓にあって新潟県と境を接し、併入小林一茶の里として知られる高原の町です。観光地として知られる野尻湖は、全国から参加者が集まる野尻湖発掘調査団によって継続されている湖底の発掘でも知られています。この発掘によりナウマンゾウやオオツノシカなどを狩った人々の生活のようすや当時の自然環境が明らかにされつつあります。また、化石が発見される湖底の遺跡だけではなく、湖の周辺に広がる野尻湖遺跡群も、日本の旧石器時代を代表する遺跡の密集地として知られています。

当センターにおきましても信濃町を縦断して建設された上信越自動車道の工事に先立って、平成5年から7年まで発掘調査を実施しました。日向林B・貫ノ木遺跡他多くの旧石器時代遺跡の調査が行われ、重層するいくつものブロック群や礫群、他を圧倒する出土数を数える石斧・砥石などから成る豊富な石器群が検出されました。これらの報告書は平成11年度に刊行されております。

本書では、次野原A遺跡における始良丹沢火山灰降灰前～降灰時期の石刃石器群を報告しています。良好な資料を十分に生かしたとは言えないかとも思いますが、基本的な資料の提示においては責を果たしたものと思います。当該湖の旧石器時代の遺跡の調査は数少なく、貴重な資料となるでしょう。上信越道関連調査報告書と併せて、永く活用されることを願うものです。

最後となりましたが、発掘調査から本書刊行に至るまで、深いご理解とご協力をいただいた長野県長野建設事務所・信濃町・同教育委員会など関係機関、地元の地権者・関係者の方々、発掘・整理作業にご協力いただいた多くの方々に、心より感謝申し上げます。

平成14年3月29日

財団法人 長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

所長 深瀬弘夫

## 例　　言

1. 本書は長野県信濃町の所在する吹野原A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は県単道路改良事業に伴う事前調査として実施し、長野県長野建設事務所からの委託事業として、財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 上記遺跡の概要是、長野県埋蔵文化財センター刊行の『長野県埋蔵文化財センター年報』18他で紹介しているが、内容において本書と相違がある場合は、本書の記述の方が優先する。
4. 本書に掲載した地図は、信濃町作成の都市計画図をもとに作成したほか、国土地理院発行の数値地図200000を使用した。
5. 黒曜石の産地分析は沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に依頼し報告をいただいた。
6. 本書の執筆・編集・校正は谷 和隆がおこない、土屋 積が全体を校閲した。
7. 発掘調査から本書の刊行に至るまで多くの方々のご指導・ご協力を得た。本文中にお名前を掲げさせていただいたが、厚く感謝申し上げたい。
8. 本書で報告した各遺跡の記録および出土遺物は、信濃町教育委員会が保管する。

## 凡例

1. 石器実測図についている番号を報告番号とする。報告番号は本文・挿図・挿表・写真のすべてに共通する。
2. 挿表の各種組成表内の欄の取り扱いは以下のとおりである。  
遺構別出土層位組成・遺構別器種組成・石材別器種組成と遺構別石材重量組成についてはすべて縦を除いた組成となっている。  
遺構別石材組成・遺構別石材重量組成については、石器と縦を別に扱っている。
3. 挿表中の重量の単位はすべてgとなっている。
4. 本文中で用いた石器の呼称については第1章5節に記した。折れていて接合した石器の名称は片方に正式な器種名を、もう片方は該当器種の破片ということで、器種記号に破を付けて表現をした。表中の法量の計測値は接合しない個々の状態を示してある。
5. 本文および表中で、石器石材となる黒色で緻密な安山岩の呼称には、地元信濃町での呼称にならい「無斑晶質安山岩」を用いた。この石材は佐久市八風山付近で採集されるガラス質黒色安山岩とほぼ同質である。
6. 本文中の加工の表現は下記のとおりである。  
正方向の剥離（加工）：石器の腹面を打面とした背面側への剥離（加工）。  
反方向の剥離（加工）：石器の背面を打面とした腹面側への剥離（加工）。  
強剥離（加工）・強い剥離（加工）：縁辺が鋸歯線状になるような素材を強く断ち切る剥離（加工）。  
中剥離（加工）：強剥離と弱剥離の中間的な剥離（加工）。プランティング。  
弱剥離（加工）・弱い剥離（加工）：素材の形状をほとんど変えない弱い剥離（加工）。  
平坦剥離（加工）・平坦な剥離（加工）：器面内部まで入り込む剥離（加工）。  
折れ：偶発的な折れと意図的な折れの両者を含む。
7. 本書に掲載した実測図は原則として下記のとおりである。また、それぞれの図版右下隅にスケールを付した。

## 主な遺構実測図

全体図 1:400 ブロック 1:40 1:50 1:80 藤群・土坑・溝跡 1:40

## 主な遺物実測図

中・小形石器 3:4 大形石器 3:4 1:2

8. 本書に掲載した遺物写真的縮尺は下記のとおりである。

1:1-3:4で、それぞれのプレートのキャプション中に示した。写真的亞みのため縮尺はおおよそである。

9. ブロック別の遺物分布図（第18～24図）に付した石器実測図の縮尺はすべて1:2である。

10. ブロック別の遺物分布図・石器実測図・挿表・挿図の器種・石材の記号・略称は以下のとおりである。それぞれの器種の破片については、記号は同じものを、器種略称については通常の略称に「破」の文字を付した。また、ブロック別分布図中の遺物に付された番号、および写真図版の石器に付された番号は遺物実測図の番号（報告番号）と対応する。

記号	略称	器種	記号	略称	器種	記号	略称	器種
○	Kn	ナイフ形石器	☆	Sc	削器	●	UF	地縫剥離のある剝片
▽	Tr	台形石器	■	Pe	楔形石器	□	Co	石核
◎	CF	折断剝片	○	B1	石刃	*	F1	剝片
★	BS	骨器	○	BP	2次加工のある剝片	*	Ch	跡片
◇	■	標						

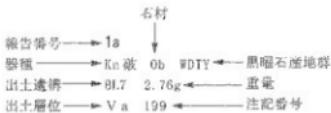
略称	石材	略称	石材	略称	石材	略称	石材
Ob	黒曜石	An	鄭板晶質安山岩	Tu	鶴灰岩	SS	珪質頁岩
Ag	玉髓	As	安山岩	On	チャート	GT	滑色隕灰岩
ST	珪質凝灰岩	Sa	砂岩	TS	凝灰質頁岩	Se	蛇紋岩
WP	石英斑岩						

11. ブロック別の遺物分布図中の垂直分布図の記号は以下の出土層位を表す。

△IV層（IV層上部～下部） ○V a層

□V b層 \*その他の層位

12. 石器実測図に付したキャプションの見方は以下のとおりである。黒曜石産地群の記号は第4章、第18表中の新記号を用いている。



13. 石器実測図中のスクリーントーンは主要剥離面以外のポジ面および、石核にみられるポジ面を表す。発掘調査時と思われる新しい剥離面は黒く塗りつぶしてある。

14. 石器の長さ・幅・厚さの計測方法は以下のとおりである。

長さ・幅：石器の主軸方向を上下の基準として方眼紙に置き、長方形を想定し、上下（綫方向）長さ、左右（横方向）を幅とした。

厚さ：最も厚い箇所を、主要剥離面から垂直方向で計測した。

## 本文目次

序	
例言	
凡例	
本文目次	
挿図目次	
挿表目次	
写真図版目次	
第1章 調査の概要	1
第1節 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査体制と調査期間	1
3 調査の経過	2
(1) 調査日誌抄	
4 指導者・協力者	2
5 発掘および整理作業参加者	2
(1) 発掘調査参加者 (2) 整理作業参加者	
第2節 遺跡周辺の環境	2
1 遺跡の地理的環境	2
2 遺跡の歴史的環境	4
3 石器石材と产地	8
(1) 黒曜石 (2) 無斑晶質安山岩	
(3) 珪質質岩・凝灰質質岩・質岩・珪質凝灰岩・凝灰岩・綠色凝灰岩	
(4) チャート (5) 蛇紋岩 (6) その他	
第3節 調査の方法	9
1 発掘調査の方法	9
(1) 試掘と調査区の設定 (2) 遺跡名称と遺跡記号 (3) グリッドの設定と呼称法	
(4) 遺構記号 (5) 遺物の取り上げと記録方法	
2 整理作業の方法	12
(1) 遺物の整理方法と管理収納	
第4節 基本層序	12
1 基本層序	12
第5節 石器の器種分類	14
1 素材の線辺を機能部とする石器	14
2 加工部を刃部とする石器	15
3 碎石器	15
4 剥片・碎片・石核	15
第2章 旧石器時代	16
第1節 旧石器時代の概要	16
1 地形と遺物の分布	16
2 遺物の出土層位	16
3 器種組成	17
4 石材組成	18
第2節 旧石器時代の遺構	20

1 遺物の分布.....	20
(1) 石器の分布 (2) 磨の分布	
2 ブロック.....	27
(1) 第1号ブロック～(11) 第11号ブロック (12) 遺構外遺物	
3 磨群.....	37
(1) 第1号磨群 (2) 第2号磨群 (3) 第3号磨群	
第3節 旧石器時代の遺物.....	42
1 石器.....	42
(1) ナイフ形石器 (2) 台形石器 (3) 折断剥片 (4) 撥器 (5) 削器 (6) 墓形石器 (7) 石刃 (8) 石核 (9) 打面再生剥片 (10) 斧形石器 (11) 敷石 (12) 膜石	
2 石材・母岩分類.....	70
(1) 黒曜石 (2) 無斑晶質安山岩 (3) 凝灰岩 (4) 建質質岩 (5) 玉髓 (6) 安山岩 (7) チャート (8) 珪質凝灰岩 (9) 硅質質岩 (10) 蛇紋岩 (11) 石英斑岩	
3 接合資料.....	72
4 刃片剥離技術.....	73
5 積.....	73
第3章 縄文時代以降.....	74
第1節 縄文時代以降の遺構と遺物.....	74
1 縄文時代以降の遺構.....	74
(1) 土坑 (2) 滝跡	
第4章 自然科学分析.....	79
第1節 吹野原A遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定.....	79
1 はじめに.....	79
2 分析法.....	79
3 分析試料と試料調整.....	79
4 測定.....	81
5 産地推定法.....	81
6 産地推定結果.....	83
7 まとめ.....	84
第5章 成果と課題.....	89
第1節 検出された石器群.....	89
1 はじめに.....	89
2 各石器群の様相.....	89
3 検出された石器群の評価.....	91
第2節 吹野原I石器文化の位置付けと問題点.....	91
1 吹野原I石器文化の層位的位置付け.....	91
2 吹野原I石器文化のナイフ形石器.....	91
3 吹野原I石器文化の台形石器.....	91
4 吹野原I石器文化の斧形石器.....	92
5 吹野原I石器文化の問題点.....	92
引用参考文献 .....	95
第6章 結語 .....	96
写真図版	
抄録	

## 擇國目次

第1図 野尻湖周辺の地形	3	第31図 旧石器時代 石器実測図3(楔形石器1)	47
第2図 信濃町の遺跡分布図	7	第32図 旧石器時代 石器実測図4(楔形石器2・石刃1)	
第3図 吹野原A遺跡周辺の地形とTPの配置	10	第33図 旧石器時代 石器実測図5(石刃2)	49
第4図 吹野原A遺跡の調査範囲とTPの配置	11	第34図 旧石器時代 石器実測図6(石刃3)	50
第6図 石器分布図(石器全点1)	21	第35図 旧石器時代 石器実測図7(石刃4)	51
第7図 石器分布図(石器全点2)	21	第36図 旧石器時代 石器実測図8(石刃4・石核1)	52
第8図 石器分布図(黒曜石)	22	第37図 旧石器時代 石器実測図9(石核2)	53
第9図 不器分布図(麻呂谷・蓼科冷山群)	22	第38図 旧石器時代 石器実測図10(石核3)	54
第10図 石器分布図(黒曜石・利和魔山群)	23	第39図 旧石器時代 石器実測図11(石核4)	55
第11図 石器分布図(黒曜石・その他産地群)	23	第40図 旧石器時代 石器実測図12(石核5)	56
第12図 石器分布図(無灰高品質安山岩)	24	第41図 旧石器時代 石器実測図13(石核6)	57
第13図 石器分布図(凝灰岩)	24	第42図 旧石器時代 石器実測図14(打面再生剥片・斧形石器1)	58
第14図 石器分布図(頁岩・凝灰岩類)	25	第43図 旧石器時代 石器実測図15(斧形石器2・石核1)	59
第15図 石器分布図(黒曜石・その他石材)	25	第44図 旧石器時代 石器実測図16(戴石2・磨石)	62
第17図 織分布図(織全点)	26	第45図 織文時代以降の遺構分布図	74
第18図 BL1・BL3 遺物分布図	28	第46図 織文時代以降の土坑	75
第19図 BL2 遺物分布図	30	第47図 第1・2号摺跡	77
第20図 BL4・BL5 遺物分布図	32	第48図 寛永通宝	78
第21図 BL6 遺物分布図	33	第49図 隆岐以東の主な黒曜石產地分布図	80
第22図 BL7 遺物分布図	34	第50図 判別図1	82
第23図 BL8・BL9・BL10 遺物分布図	36	第51図 判別図2	82
第24図 BL11 遺物分布図	38	第52図 吹野原I石器文化の石器	93
第25図 連構外遺物分布図	39	第53図 蓼ノ山II石器文化の石器	93
第26図 SH1 遺物分布図	39	第54図 蓼ノ山I石器文化(第3地点)の石器	94
第27図 SH2 遺物分布図	40	第55図 日向林I石器文化の石器	94
第28図 SH3 遺物分布図	41	第56図 東裏II石器文化の石器	95
第29図 旧石器時代 石器実測図1(ナイフ形石器・台形石器・折断削片)	43		
第30図 旧石器時代 石器実測図2(振器・削器)	45		

## 擇表目次

第1表 信濃町の遺跡一覧	6	第14表 石器属性表5	68
第2表 造構別出土層位分布	17	第15表 石器属性表6	69
第3表 造構別10g以上の中石器出土層位分布	17	第16表 母岩分類基準	71
第4表 造構別石器種組成	18	第17表 黒曜石母岩別产地群組成	72
第5表 石材別不器種組成	18	第18表 產地群石判別群	80
第6表 遺構別石器石材数量組成	19	第19表 黒曜石产地組成	83
第7表 造構別石器石材產地組成	19	第21表 石器ブロック別產地組成	83
第8表 造構別黒曜石产地数量組成	19	第20表 石器種別產地組成	83
第9表 遺構別黒曜石产地重複組成	20	第22表 岩尻湖遺跡群黒曜石原地推定結果まとめ	84
第10表 石器属性表1	64	第23表 產地指定結果1	84
第11表 石器属性表2	65	第24表 產地指定結果2	85
第12表 石器属性表3	66	第25表 產地指定結果3	86
第13表 石器属性表4	67		

## 写真図版目次

PL1 調査状況1(塗跡遠景 溝跡 土坑)	PL8 旧石器時代の石器4(石刃)
PL2 調査状況2(南西区遺物出土状況)	PL9 旧石器時代の石器5(石刃)
PL3 調査状況3(南北区・北区遺物出土状況 北区作業風景)	PL10 旧石器時代の石器6(石核)
PL4 調査状況4(北区遺物出土状況 疊群 北区作業風景)	PL11 旧石器時代の石器7(石核 打面再生剥片)
PL5 旧石器時代の石器1(ナイフ形石器 台形石器 折断削片)	PL12 旧石器時代の石器8(斧形石器)
PL6 旧石器時代の石器2(振器 削器)	PL13 旧石器時代の石器9(破片 磨石 実測図のない石器)
PL7 旧石器時代の石器3(楔形石器)	PL14 旧石器時代の石器10(実測図のない石器)

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査の経過

### 1 調査に至る経緯

現在の県道古間停車場線は野尻湖南西部にある鍋山から北に延びる尾根を東西に貫いている。道路は約10m掘り下げられているが、造られたのが戰後間もない頃のため発掘調査はおこなわれていない。その後、この切り通しから石器が採集され、旧石器時代の遺跡として周知されるようになった<sup>(注1)</sup>。

平成8年度には信濃町教育委員会による広域農業地帯整備事業（以下、広域農道）に伴う緊急発掘調査が始まり、9年・11年・12年度に調査がおこなわれている。この調査により、多数の旧石器時代の石器が検出されている。また、少量だが縄文時代早期、平安時代の遺物も検出されている。

広域農道は県道古間停車場線に接続しており、この接続部と国道18号の間を拡幅することとなった。拡幅のため削平される南側の道路切り通し部は、遺跡発見時に石器が採集された地点である。また、広域農道の調査では県道接続部際まで遺物が分布しており、今回の工事区域にまで広がることが予想されたため、緊急発掘調査を実施することとなった。

本書ではこの県道古間停車場線の拡幅工事に伴う発掘調査報告を収録する。

本遺跡の発掘調査および報告書作成のための整理作業は、長野県長野建設事務所から委託を受けて、財團法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターにより実施された。

発掘調査の契約面積は下記の通りである。

平成13年度　吹野原A遺跡　　　　　　　1600 m<sup>2</sup>

### 2 調査体制と調査期間

調査・整理体制および調査期間は以下のとおりである。

所長	深瀬弘夫
副所長	春日光雄（兼管理部長）
調査部長	小林秀夫
管理部長補佐	田中照幸
調査第2課長	土屋 穎
調査研究員	谷 和隆
同	西山克己（調査のみ）

調査期間 平成13年9月13日～同年11月26日

整理期間 平成13年11月27日～平成14年3月29日

整理作業内容 遺物実測、写真撮影、遺物・遺構図のトレース・図版組み、原稿執筆、編集・校正

(注1) 1987年の野尻湖人類考古グループの報告では吹野跡として報告されている（野尻湖人類考古グループ 1987 P26）。

### 3 調査の経過

#### (1) 調査日誌抄

9月13日	重機搬入	10月18日	南西区拵張部より黒曜石製ナイフ形石器出土
9月14日	表土剥ぎ開始	10月23日	南西区拵張部より緑色凝灰岩製斧形石器出土
9月17日	作業員初日 県道南側のテストピット（以下TP）の掘り下げ開始 右刃出土	10月24日	作業員11名増員、北区の面的調査開始
9月20日	TP2より黒曜石剥片を多數検出	10月25日	南西区の掘り下げほぼ終了 北区で礫群2基検出
9月26日	県道南側のTPの掘り下げ終了 中央付近以外は面的調査が必要と判断 南西区の面的掘り下げ開始	10月26日	縄文時代の陶しへ3基検出
10月2日	県道北側（北区）に18ヶ所のTPを設定	11月7日	南西区単点測量をおこない調査ほぼ終了
10月4日	北区のTP掘り下げ開始	11月9日	北区Vb層の掘り下げに入る
10月15日	北区のTP掘り下げ終了 ほぼ全面的な調査が必要となる 南東区より斧形石器出土	11月14日	Vb層掘り下げ終了
10月16日	南西区は漁獲密度が高いため、切り廻し際に残したベルトをはずすことにする	11月16日	北区単点測量および地形測量
		11月22日	北区VI層の掘り下げ終了 右器はなし 調査終了
		11月26日	ブレハブ・重機搬去

### 4 指導者・協力者

発掘調査と整理作業にあたり、下記の方々や機関にご指導ご協力を得た。お名前を記して感謝したい。（敬称略・五十音順）。

安藤政雄　内田鶴一郎　岡村秀雄　小野 昭　小菅将夫　佐藤雅一　須藤隆司　堀 隆  
中村由克　野口 淳　三木陽平　望月明彦　山本 克　渡辺哲也

### 5 発掘および整理作業参加者

#### (1) 発掘調査参加者

荒井けさ子　大沢ともえ　大橋里奈　岡田幸子　荻原啓藏　荻原千代子　奥戸トモエ　木村ミヨシ  
木村嘉光　黒田敏夫　佐藤 厚　小林英子　小林幸雄　高遠香代子　高山義郎　永野勝子  
永原定子　永原春男　永原宗夫　服部恵美子　羽入田キク江　羽入田辰之　深津豊晴　森山キミ江  
山崎実華　染 恵蘭

#### (2) 整理作業参加者

小林山貞子　竹内富美子　渡辺恵美子

## 第2節 遺跡周辺の環境

### 1 遺跡の地理的環境

野尻湖は長野県の北端、新潟県妙高高原町との境に位置する上水内郡信濃町にある。この湖の西側から南部の丘陵地帯には旧石器時代から縄文時代末期の遺跡が約40ヶ所集中している。その範囲は北西南東方向に約8km、北東南西方向に約4kmにおよび、野尻湖遺跡群と呼ばれている。

野尻湖は周囲を山に囲まれている。西側には北から妙高、黒姫、飯綱の火山が並び、東側には斑尾山が存在する。水面標高654m、面積3.96km<sup>2</sup>である。

野尻湖西岸から流れ出る池尻川は北へ向かって流れ、黒姫山と妙高山の間を流れる関川に合流してさらに北へと流れ、高田平野を経て日本海へと注ぐ。



第1図 野尻湖周辺の地形

0 (1 : 400,000) 20km

鳥居川は黒姫山と飯綱山の間から、本遺跡の北約200mの地点へ東へと流れ、そこから南西、南へと向きを変え約14km下流で千曲川と合流する。千曲川は北西に向かって流れ、新潟県境で信濃川と名を変えて新潟平野を経て日本海へ注いでいる。本遺跡の排水はすべて鳥居川へと流れる。

関川と信濃川の分水嶺は貫ノ木遺跡や上ノ原遺跡内にあるが、現地での確認が難しいほどなだらかな地形である。そのため、野尻湖周辺の高原は今日まで、高田平野と長野盆地をつなぐ交通の要所として利用されている。

野尻湖周辺には火山の影響によりローム層が堆積している。主たる火山灰の給源とそれぞれの火山の活動期は次のとおりである（地学団体研究会1996）。飯綱火山の活動期は約34万年前と約20万年～15万年前で、約6万年前に水蒸気爆発を2回起こしている。黒姫火山の活動開始年代は約25万年前で最新のマグマ噴火は約4.3万年前である。妙高火山の活動開始年代は約30万年前で、最新のマグマ噴火は約4200年前である。焼山火山の活動開始年代は約3000年前で現在も活動中である。斑尾火山は約70万年前と55万年前頃に活動をしていた。したがって、遺跡が形成された頃には飯綱、黒姫、斑尾火山はすでに休止しており、活動している火山は妙高火山ということになる。また、焼山の活動は縄文時代以降となる。

野尻湖は約7～6万年前に起こったと思われる黒姫山からの池尻川泥流が、斑尾山西麓からの川を堰き止めたことによって誕生した。その後湖西側の仲町丘陵の隆起と湖東側の沈降により、形を変化させながら現在の野尻湖へと変化していく。貫ノ木遺跡の北西部にある池尻川低地は遺跡が形成された約3万～1万年頃前には野尻湖の一部であったことが確認されている。

野尻湖周辺は丘陵地帯となっている。旧石器時代の遺跡は丘陵の様々な場所に立地している。丘陵頂部、中腹の緩斜面やテラス状の場所、丘陵の裾部など比較的平坦な地形に遺跡が形成される場合が多い。また、現在の水田域となっている部分の多くが、かつては池や湖、湿地であったことが確認されており、野尻湖以外にも多くの水場が存在していたこととなる。これらの丘陵地形と水場環境の良さから、多くの狩猟対象動物が生息していたと考えられる。これら丘陵地帯では隆起・沈降が激しく旧石器時代には現在の地形とはかなり異なる様相を示していたと思われる。7～6万年前頃の野尻湖底堆積物である貫ノ木層が貫ノ木遺跡の丘陵頂部と、低地部において約50mの比高差が見られることから、単純に割ると1万年で10m近く隆起していたことになる。したがって、旧石器時代の人々が活動していた当時は、現在の地形よりも起伏が緩やかであったと考えられる。

## 2 遺跡の歴史的環境

1948年に野尻湖岸でナウマンゾウの化石が発見されたことがきっかけとなり、1962年から野尻湖発掘調査団による14回の湖底（立ヶ鼻遺跡）の発掘がおこなわれている。立ヶ鼻遺跡の調査では、ナウマンゾウやオオツノシカの化石が発見されている。

1953年には芹沢長介、麻生優により杉久保遺跡深集の石器が旧石器時代の遺物と確認され、杉久保型ナイフ形石器の標識遺跡として知られることとなる。杉久保遺跡は1966年に町営駐車場の建設に伴う緊急発掘調査が実施され、森嶋稔らにより4つの石器文化が想定されている（林他1970）。1976年からは野尻湖発掘調査団による陸上発掘が始まり、仲町遺跡、貫ノ木遺跡、仲町向新田遺跡、照月台遺跡が調査された。ナイフ形石器文化期～細石器文化期の遺跡が確認されている。その他、伊勢見山遺跡（樋口他1964）の調査などもあり、野尻湖周辺に多くのナイフ形石器文化以降の旧石器時代遺跡が確認され、野尻湖遺跡群として評価されている（織笠他1986）。

1989年からいわゆる「行政発掘」が始まる。これらは破壊を前提とする記録保存であるが、それまでの調査がトレンチ中心であったのに対し、平面的に広い調査がおこなわれるようになり、野尻湖遺跡群の性格がより明らかになる。特に平成5年～7年におこなわれた上信越自動車道建設に伴う発掘調査面積は数万m<sup>2</sup>におよぶ。

整理が進められている遺跡も多い中で、遺跡群の評価は刻々と変化しているが、現時点では以下のようにまとめられよう。

現在確認されている野尻湖周辺における最古の遺跡は立ヶ鼻遺跡とされている。立ヶ鼻遺跡からは、ナウマンゾウなどの動物化石が多く発見されている。これらは全身骨格ではなく、ばらばらになった状態で大量に出土するために、人為的に破碎されたもので、キルサイトに關するものと予想されている。これらは湖底堆積の水成層から検出される。しかし、水底に遺跡があったとは考えにくいため、化石は2次的に動いているものと考えられている。また、動物化石と共に、石器や骨角器が出土しているが、これらは自然物で人類遺物ではないとする意見も存在する。出土層準が約3.8万年～5万年前であり、湖底以外でこの時期の遺跡が見つかっていないことも評価を難しくしている。

ナイフ形石器文化期に入ると遺跡が激増し、野尻湖遺跡群が形成される。全国的に見ても遺跡数、遺物密度が非常に高い遺跡群として評価されよう。

ナイフ形石器文化期初頭の遺跡から多くの斧形石器が出土する。その数は野尻湖遺跡群だけで200点を上回り、日本国内で検出されている斧形石器の半数前後におよんでいる。また、極めて高い形態的齊一性を持つ台形石器も他地域には見られないものである。遺跡規模も大きく、貫ノ木遺跡や仲町遺跡での該期の遺物数は1万点をはるかに上まわっている。

その後、約2.5～2.4万年前の始良丹沢火山灰(AT)噴灰後には、系統が異なると思われる複数の石器群が存在するようになる。東裏II2石器文化のように黒曜石やチャート、無斑晶質安山岩などを石材とし、2側縁加工のナイフ形石器や楔先形尖頭器、搔器などを主な組成とする石器群、貫ノ木Ⅲb石器文化(第1地点)や七ツ栗Ⅱ石器文化のような珪質貫岩や珪質凝灰岩、無斑晶質安山岩を主な石材とし、基部加工のナイフ形石器、彫器を組成する石器群、西岡Ⅲb石器文化のような無斑晶質安山岩を主な石材とし横長削片を素材とするナイフ形石器を特徴とする石器群などが存在する。それぞれの石器群がある程度の時間幅をもって登場し、異なる系統の石器群が同時期に存在していた可能性が高い。

旧石器時代終末期には断片的に神子柴型石斧や細石器関連の遺物が見られるものの、それ以前と比較すると遺跡数は少ない。しかし、縄文時代草創期の遺跡数が多い。星光山荘B遺跡では隆起線文土器片とそれに伴う石器類が多量に発見されており、仲町遺跡には爪形文土器、円孔文土器が多く見られる。特に草創期末～早期にかけての表裏繩文土器の出土量は多い。その後、縄文時代前期頃までの遺物は多く発見されているが、中期以降になると少なくなり遺物が断片的に出土する程度になる。現在のところ縄文時代遺跡からの住居跡の発見はなく、土坑や陥落穴、集石遺構などが残されているのみである。

弥生時代・古墳時代の遺跡は非常に少なく、断片的に土器片などが出土するのみで、平安時代になると再び遺跡数が増える。大規模な集落は発見されていないが住居が数件程度の小規模な遺跡が点在するようになる。その後、中世には野尻湖周辺に集落が点在するようになる。また、高田平野から長野盆地を結ぶ経路となっていたようだ(各遺跡の位置、時期については第2図、第1表を参照)。





第2図 信濃町の遺跡分布図

### 3 石器石材と産地

野尻湖遺跡群では大量の石器が出土するが、石器石材となりうる緻密な岩石の産地は存在しない。地元で採集できる岩石は多孔質で粗粒な岩石が多く、礫石、台石等の礫石器に使用されることはあっても、剥片石器に使用されることはほとんどない。剥片石器に用いられる主要石材には、黒曜石、珪質頁岩、無斑晶質安山岩、チャート、凝灰岩などがあげられる。上信越自動車道建設に伴う野尻湖遺跡群の発掘調査のデータを例に、これら石材の使用状況と推定される産地を以下にあげる。

#### (1) 黒曜石

黒曜石は理化学的な分析により産地推定がおこなわれている石材である。上信越自動車道建設に伴う野尻湖遺跡群の調査では、旧石器時代～縄文時代草創期の11遺跡から検出された黒曜石12,642点に対して、蛍光X線分析装置を用いた産地推定をおこなっている（長野県埋蔵文化財センター 2000）。

そのうち12,156点から有効な数値が得られ産地が推定された。わずかであるが、青森県木造町・深浦町、秋田県男鹿市、栃木県矢板市・塙原町、東京都神津島村の長野県外産地が推定された石器が16点あった。青森県木造町までの直線距離は約460kmだが、直線上には日本海があり陸路で行くには500km以上の距離がある。神津島への直線距離は約300kmだが、必ず海を渡らないと行けない。これらは旧石器時代の石器石材が非常に遠くまで動いていることを示した貴重なデータとなった。

圧倒的多数を占めるのが長野県内の産地である。の中でも7割強を占めるのが「和田峠」「星ヶ峠」がある和田村・長門町内の産地である。野尻湖遺跡群までの距離が直線で約75kmだが間には険しい山がある。鳥居川を下り、千曲川、依田川を上る川沿いのルートをたどると100km以上の道のりで黒曜石産地にたどり着ける。県内だが広い長野県の北端に位置する野尻湖遺跡群と黒曜石産地の距離は遠いといえよう。

和田村・長門町内の産地の次に多いのが「星ヶ塔」「星ヶ台」がある下諏訪町・諏訪市内の産地で全体の約2割弱を占め、なかには主体となる石器群も存在する。距離的には、和田村・長門町内の産地とあまり変わらないが、分水嶺を越えることとなる。

「麦草峠」「冷山」が存在する茅野市内の産地が全体の4%弱となっている。和田村・長門町、下諏訪町・諏訪市の産地より10km以上遠い上に、岩石の質的に劣る茅野市内産の黒曜石が遊び込まれる背景がどのようなものであったか興味深いところである。

#### (2) 無斑晶質安山岩

野尻湖から最も近い産地としては、長野県飯山市北部の関田山地から長野県栄村と新潟県津南町との境を流れる志久見川周辺までの長野・新潟県境一帯が知られている。野尻湖から産地までの直線距離は30～40kmで、在地石材とはいえない距離がある。また、長野・群馬県境にはガラス質黒色安山岩の産地の八風山が存在する。このガラス質黒色安山岩と無斑晶質安山岩は酷似しており、岩石学的には同じものと思われる。八風山までの距離は直線で約70kmで、黒曜石が多量に持ち込まれていることを考慮すると、野尻湖遺跡群で無斑晶質安山岩としているものの中に八風山のガラス質黒色安山岩が含まれている可能性が十分に考えられる。

主要石材としては産地が最も近くにあるためか、最も多い数の石器が検出されている。また、大形の石核や分割剥片が持ち込まれている例もあり、剥片も他の石材と比べると大形のため、重量比は高くなる。しかし、黒曜石や珪質頁岩と比べると鋭利さに欠けるためか製品になる比率は低い。

貫ノ木追跡高速道路地点では石器総数約34,000点中16,000点が無斑晶質安山岩となっておりその総重量は200kgを超える。

### (3) 珪質頁岩・凝灰頁岩・頁岩・珪質凝灰岩・凝灰岩・綠色凝灰岩

泥や火山灰の堆積岩であるこれらの岩石（以下頁岩系石材と記す）は螢光X線等を用いた理化学的な産地分析法が確立していないため、厳密な産地がわからぬのが現状である。また、珪化の進み具合や、火山灰の含有比率は漸移的でありそれぞれの中間的な岩石がある点も注意が必要である。

最も近くにある産地は新潟県津南町周辺が知られている。頁岩系石材のうち比較的粗粒で風化面が白色もしくは灰色となるものは、津南周辺では在地の石材として認識されている<sup>11)</sup>。野尻湖遠跡群においてもこれと同質の頁岩系石材が數量、重量ともに最も多く用いられている。しかし、製品類の中にはよく珪化した褐色の珪質頁岩が多く見られる。これらは、山形県や秋田県で採集できる珪質頁岩によく似ている。秋田・青森産の黒曜石が持ち込まれている事実もあることから、新潟県北部・山形・秋田方面の頁岩の搬入の可能性も十分に考えられよう。

### (4) チャート

チャートも頁岩系石材同様に理化学的分析による産地推定ができない石材である。長野県内には佐久地方の関東山地・南アルプス南部から木曾や伊那地方が産地として指摘されているが、野尻湖から比較的近くの千曲川でも採集でき、最も近くに産地のある石材の可能性も考えられる。遺跡に持ち込まれているものは範囲が多く、大きさも小さい。

### (5) 蛇紋岩

蛇紋岩で作られるほとんどの石器が斧形石器である。長野県内の白馬村や小谷村にも産地が存在するが、遺跡に持ち込まれている蛇紋岩の礫面形状や、透閃石・透綠閃石や曹長石が多く含まれていることから、糸魚川市内の姫川下流域から富山県境付近の日本海岸が産地として予想される。野尻湖までの距離は約50kmであるが、黒曜石や無斑晶質安山岩、頁岩系石材の産地とは別の方向にある。

### (6) その他

玉髓、碧玉などその他の石材も見られるが、いずれも野尻湖周辺では採集できない。

## 第3節 調査の方法

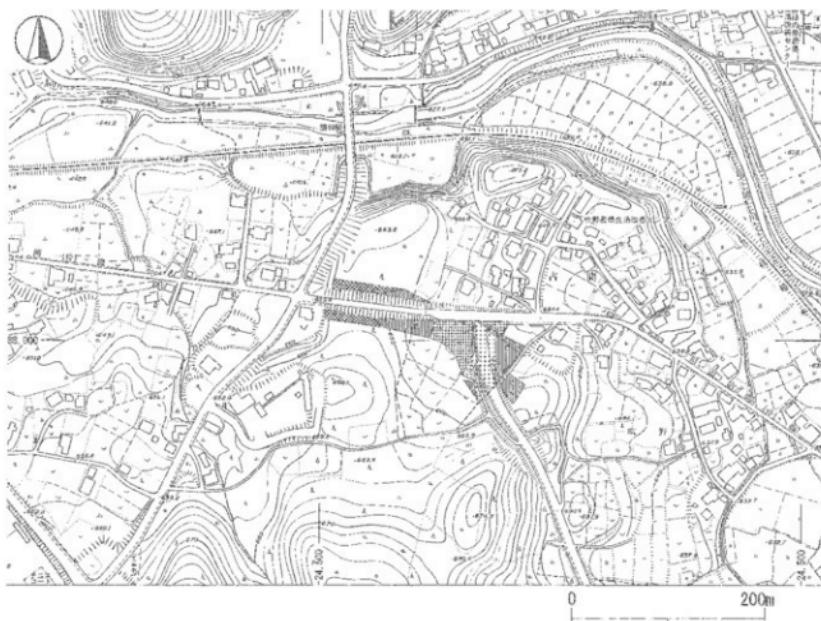
### 1 発掘調査の方法

#### (1) 試掘と調査区の設定（第4図）

信濃町教育委員会の平成12年度調査区は東西に走る県道古間停車場線の南北両側に位置しており、その両側は今回調査がおこなわれた調査区と接している。町教育委員会の調査区と今回調査区の位置関係を第3図に示した。町教委による調査ではその調査区にまで遺物が分布しており、今回の調査区内に遺物の分布域が広がることが予想された。また、遺跡発見の経緯となった遺物は今回調査区内の切り通しから採集されたものである。そのため、今回の調査区ほぼ全面が遺物分布域と予想されたことから、急斜面を除くほぼ全面が調査の対象となった。

調査区は全面カラマツの植樹林となっており、調査直前に伐採され、開始時には根が残っている状態だった。樹木根は重機を用いて土をよく振り落としてから抜いた。この中から検出された遺物は壊乱層出土とし、平面的には検出位置の単点を測量した。

註1：津南町教育委員会山本 克氏のご教授による。

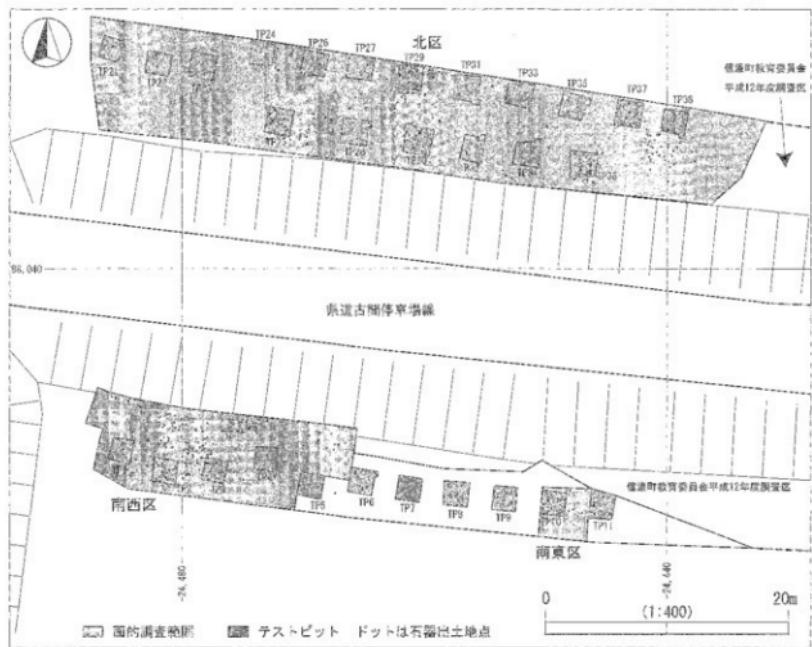


■ 平成13年度調査区（長野県埋蔵文化財センター） ■ 平成12年度調査区（信濃町教育委員会）  
 ■ 平成11年度調査区（信濃町教育委員会） ■ 平成8・9年度調査区（信濃町教育委員会）

第3図 次野原A遺跡周辺の地形と調査区

発掘調査区は現道により南北に分断されている。現道南側を南区、北側を北区として調査をおこなった。南区は道路に平行して縦長く、長さが約55m、幅約7mとなっている。まず、危険防止のため道路側の切り通し部を約1m残して、重機により表土からⅢ層中位まで掘り下げた。この面で人力による縄文時代以降の遺構検出をおこなったが、遺構は検出されなかつた。その後旧石器の確認のため、調査区の長軸に沿って2m×2mのテストピット（以下TP）を11ヶ所設定した。TPは人力によりⅣ層上面まで薄く削りながら掘り下げをおこなった。その結果、南区中央部以外から石器が検出されたため、西側を南西区、東側を南東区と細分して面的調査をおこなつた。南西区に関しては、安全確保のために廃した、切り通し側のベルトにも遺物分布域が広がることが確実視されたため、ベルトをはずして調査区を拡張した。

北区の調査は表土剥ぎをおこなう前に、第4図のように18ヶ所のTPを設定した。TP番号は南区とダブルがないように21からの連番とした。南区と同様にTPを人力により掘り下げた結果、多くのTPから石器が検出されたため、全面を面的調査の対象とし、Ⅲ層中位までは重機で、それ以下は人力による掘り下げをおこなつた。Ⅳ層上面まで掘り下げた時点で、陥れ穴と溝状の遺構が検出されたため、旧石器の掘り下げと並行して調査をおこなつた。



第4図 吹野原A遺跡の調査範囲とTPの配置

#### (2) 遺跡名称と遺跡記号

木蔭で報告する遺跡の名称と遺跡記号は下記のとおりである。遺物・写真他の記録類の注記などもすべてこれによる。

吹野原A遺跡 MFH

#### (3) グリッドの設定と呼称法

当センターでは従来、国上座標を基準として大々地区・大地区・中地区・小地区の4段階のグリッドを設定して調査をおこなっている。しかし、今回の調査では調査範囲が狭いことと、光波トランシットによる測量のため特にグリッドの設定はおこなわなかった。測量は国土地理院の定める平面直角座標系の原点（長野県第VII系、X=0.000, Y=0.000）を基準点としている。

#### (4) 遺構記号

記録・注記等の便宜を図るために遺構名称は記号を用い、遺構番号は時代等にかかわらず種類ごと、検出順に付した。遺構記号は原則として検出時に決定するため、主として平面的な形態や遺物の分布状況等指標としたもので、必ずしも遺構の性格を示すものはない。整理段階で遺構名称変更の必要が生じた場合は、発

掘時の遺構記号・遺構番号は欠番とし、新しい遺構記号の最終番号に追加した。本書で報告する遺構番号は前述の理由から飛び番号が生じているが、混乱を避けるため発掘時の遺構記号・遺構番号をそのまま使用した。したがって最終遺構番号=遺構数とはならない。

なお、本書の遺構記号は当センターで共通して用いているもので、以下のとおりである。

[BL] 旧石器時代の石器・剥片集中

[SK] 単独もしくは他の掘り込みと関係が認められないSB(住居跡等)より小さな掘り込み(土坑、陥し穴、貯蔵穴、井戸等)。

[SD] 滝跡

#### (5) 遺物の取り上げと記録方法

旧石器時代の遺物が主体となったため、遺物の取り上げに際しては、測量業者に委託して、光波トランシットを用い端点測量をおこなった。成果品として編集図面、観測成果簿、観測データの3種で管理している。

遺物の取り上げ番号は、遺構<sup>(注1)</sup>に帰属する遺物については、遺構ごとに1番から番号を付し、包含層・遺構外の遺物については遺跡全体に1番から番号を付した。注記については以下のとおりである。

遺構外遺物 (BL所属遺物を含む) の例 : MFH55

遺構出土遺物の例 : MII・SH1・55

## 2 整理作業の方法

### (1) 遺物の整理方法と管理収納

遺物の注記終了後、石器・礫を分別し、それぞれに作業を進めていった。

石器の整理では最初に器種判別作業をおこなった。石器属性の観察項目は以下のとおりである。

器種／材質／長さ／幅／厚さ／重量

器種判別後、石器実測作業と並行しながら、母岩判別、接合作業をおこなった。作業の結果得られた母岩別資料および、接合資料は石材をまちいで1から番号を付けて台帳に登録した。

礫の整理では、礫の計測・観察をおこなった後接合作業をおこなった。礫の観察項目は以下のとおりである。

材質／礫形状／遺存度／焼け面／付着物／長さ／幅／厚さ／重量

遺物管理は、石器、礫の大別に従いそれぞれ収納している。

遺物は信濃町教育委員会が管理をおこなう。

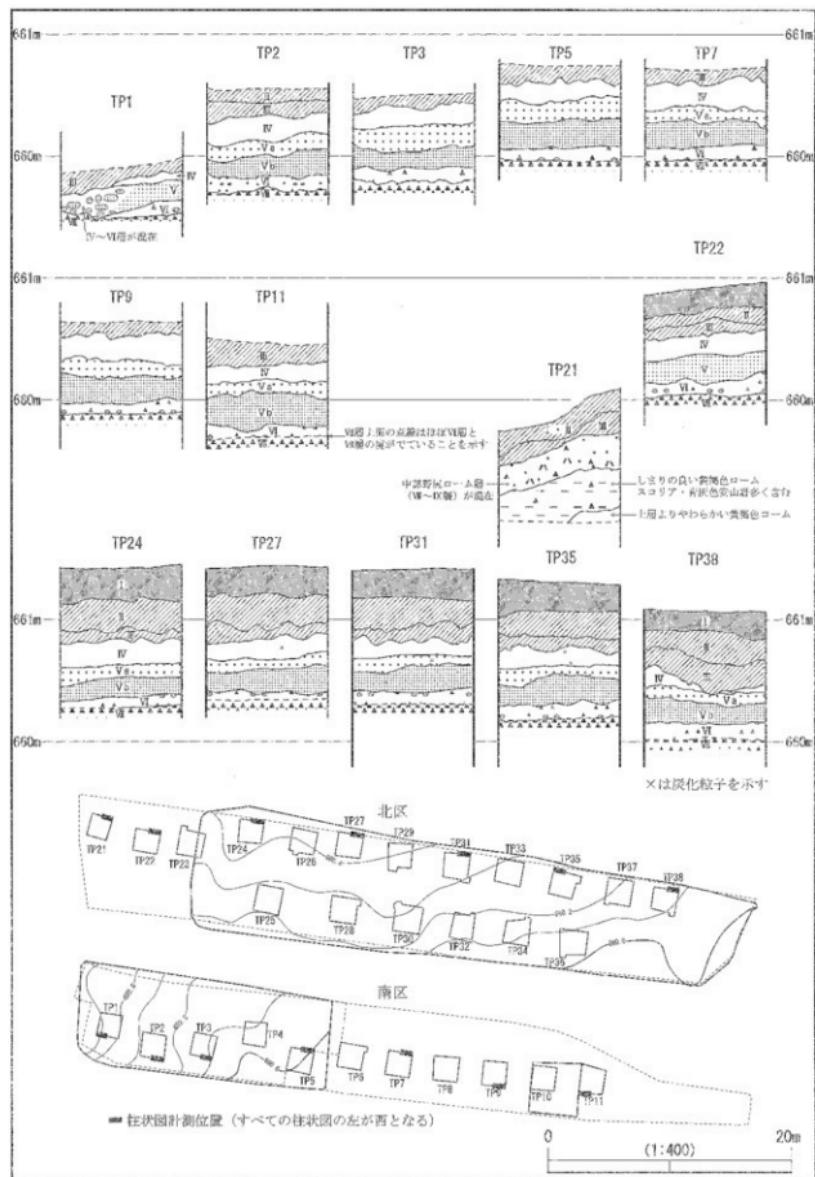
## 第4節 基本層序

### 1 基本層序

斜面および落ち際に堆積が薄く不安定となっているが、丘陵上の平坦面の堆積は安定しており、野尻湖遺跡群の中では厚い方になろう。

層名は地表より、ローマ数字で I, II, III... の順でつけており、各層が細分される場合には上から a, b, c... としている。この層名は上信越自動車道埋文化財発掘調査報告書15等で用いた当センターでの信濃町内標準層名に準拠している。

(注1) BLは整埋段階で設定したため、石器の大部分は包含層、遺構外遺物の取り扱いで番号を付け、注記を行っている。



第5図 層IVとVI層上面の地形

以下に各層の特徴を示す。土層注記はTPJ I の断面観察でおこなっている。なお、色調観察には新版上色帖を用いた。

- I層：表土 黒色腐植土層 厚さ25cm前後
- II層：柏原黒色火山灰層 Hue10YR2/3 貫ノ木遺跡など比較すると色調が明るい 厚さ約25cm
- III層：漸移層 モヤ層 Hue10YR4/2 色調は均質ではなく、黒色土とロームが混在しており、上部ほど黒色土の比率が高い 厚さ約20cm
- IV層：明黄褐色ローム層 Hue10YR6/6 粘性なくしまりが悪い 平均的な遺跡より層厚が薄く乱れが多い 厚さ15～20cm 上部野尻ローム層 II上部～下部に対応
- Va層：黄褐色ローム層（黒色帯漸移層） Hue10YR5/6 IV層とVb層が混在 上半部にATの極大値があるとされている 厚さ10～15cm 上部野尻ローム層 II最下部に対応
- Vb層：褐色ローム層（黒色帯） Hue10YR4/6 粘性がややあり、縮まりが良い 下部にはスコリアが多く Vc層に対応すると思われる。 上部野尻ローム層 Iの上部に対応
- VI層：黄褐色ローム層 Hue10YR5/8 粘性がややあり縮まりが良い 赤褐色スコリアおよび青灰色安山岩の小砾が見られる
- VII層：赤褐色スコリア層 Hue2.5YR4/6 中部野尻ローム層 IIIに対応

## 第5節 石器の器種分類

本書でおこなった石器の器種分類の基準を示す。第1のレベルとして、石器は石器（製品）、石核、剥片・碎片に区分される。石器（製品）は剥片を素材とする剥片石器と礫そのものを素材とする礫石器に、その下位のレベルとして素材の縁辺を機能部とする石器、加工部位を機能部とする石器に分けられ、さらに下位のレベルとして個別の器種名が存在する。

### 1 素材の縁辺を機能部とする石器

剥片の持つ鋭い縁辺をそのまま刃部として利用する石器。大きさは基部が作り出されるナイフ形石器、組み合わせが予想される礫石器、加工による形状変化が少ない石刀・貝殻状刀器等に分けられる。

#### (1) ナイフ形石器

剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器。台形石器もこの定義にあてはまるが、全体の形状で尖端を尖らせているものをナイフ形石器とした。

#### (2) 台形石器

剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器のうち、石器長軸（主軸）に直交もしくは斜交する刃部を持つ石器。基本的にはナイフ形石器の一部と考えるが、特徴的に存在しているため器種を分けた。AT降灰以前の時期を代表する「台形様石器」の一部や、AT降灰以降の「切出形石器」や「台形石器」と呼称されていた石器を含む。

#### (3) 折断剥片

剥片の鋭い縁辺と、意図的な折れ面により側縁が構成されている石器。意図的な折れと偶発的な折れとの区別が難しいため、本書では平面形状が台形石器に近いものを折断剥片として扱っている。

**(4) 石刃**

規則的に連続して剥離された、左右側縁が平行する細長い石器。そのものが使用される他、ナイフ形石器等の素材となる。連続性、規則性が認められないものは含まない。また、組成表上では縦付き剥片も石刃としている。

**2 加工部を刃部とする石器****(1) 撃器**

連続する加工により、厚い刃部が作り出されている石器。平面形は円形、拇指状を呈するものが多い。刃部の角度が45度以上のものを撃器、以下のものを削器とし分別することとする。

**(2) 削器**

連続する加工による刃部を持つ石器。形態や加工は様々である。

**(3) 楔形石器**

相対する2端に反対向からの剥離が認められる石器。剥離は加工だけではなく、使用の結果生じた可能性も考えられる。

**(4) 斧形石器**

石器の長軸と平行する2側縁に主として平坦な加工が施され、石器の長軸に直交するような刃部を持つ石器。刃部には研磨が施されるものが多い。従来、「局部磨製石斧」と呼ばれているものがこれに含まれるが、研磨の認められないものや、用途が木材の伐採以外にもあったと考えられる点から斧形石器という呼称を用いる。剥片ではなく礫を素材とする斧形石器も存在するため、礫石器の範疇に含まれるものがある。

**3 磨石器****(1) 敲石**

人為的な敲打痕のある石器。石器製作のためのハンマーと思われる。

**4 剥片・碎片・石核****(1) 2次加工のある剥片**

2次加工が認められるが器種名がつけられない石器。製品の破片で、器種名が判別できなかつたものが大半を占める。

**(2) 微細剥離のある剥片**

微細な剥離を有する剥片。使用の痕跡の可能性が考えられる。

**(3) 剥片**

石核や原石から意図的に打ちはがされた石片。

**(4) 碎片**

剥片剥離時や石器の2次加工をおこなう時に生じる非目的的な細かい石屑。剥片との厳密な区別が難しく、本書では1cm以下のものを碎片とした。

**(5) 石核**

剥片が剥離された石塊。

## 第2章 旧石器時代

### 第1節 旧石器時代の概要

#### 1 地形と遺物の分布

調査区は鍋山から北に向かってのびる舌状の平坦な尾根の上、標高約660mに位置している。尾根は南北約200m、東西約100mの平坦部を持ち、当センター調査区と町教委調査区が南北中心付近を横断している。東西の見晴らしがよく、東は黒姫山から裾に広がる低地部を一望でき、西は日向林B遺跡の東側に広がる低地部の南端付近を見下ろせる。

調査区のはば全域が遺物分布域となっており、調査区外に遺物分布域が広がることが予想される。調査区の西側は斜面落ち際となるためこれ以上の遺物分布域のひろがりはないと思われるが、東側は町教委調査区となっており、すでに遺物分布域が確認されている。また、調査区の南北隣接地と、現道切り通しのある南北調査区間は調査区壁際まで密に遺物が分布しているため、確実に遺物分布域が広がっていたものと思われる。

これまで調査がおこなわれた範囲は遺跡のごく一部に限られるため、遺跡全体像はかなり大規模になることが予想される。

#### 2 遺物の出土層位（第2表）

482点の石器はII層からVI層で検出されており、Va層が最も多い。表中のIV層は、上部・中部・下部・一括に分層されており、IV層全体では165点でVa層の146点を上回るが、上下に偏ることなく分散して分布している。そのため、全体的に垂直方向への拡散が大きい傾向があるといえる。

そこで、比較的2次の移動の少ないと思われる重量10g以上の石器の分布を第3表に示した。その結果、南区にあるBL7～11に関しては、Va層に集中が読み取れる。また、BL2・6でも上下に散るもの、Va層前後に遺物が集中している。また、BL3～5では依然として、IV層からVb層に分散している。BL1ではIV層下部の分布がなくなるため、他のブロックより層位的に上位であることが予想される。このようにブロックにより層位分布の状況は異なるため、すべてのブロックが同時期とはいえない状況にある。

石器の平面的分布にはまとまりがあり、ブロックとして認識できる。また、石材構成に矛盾もないため、各ブロック内の大部分の石器は同一時期のものが上下に拡散していると考えるのが妥当であろう。遺物が下層へ沈み込む場合が少ない事を考慮すると、BL1以外のブロックの生活面はVa層上部からVb層の上面付近にあると評価できようか。

上信越自動車道の調査では、ATのピークがIV層下部からVa層にあるとの分析結果が得られており（長野県埋蔵文化財センター2000）、野尻湖発掘調査団の見解とも一致している。野尻湖遺跡群内でのロームの堆積は、武藏野台地・相模野台地に比べると薄い。そのため、本石器群が含まれるVa層はAT降灰前後であり、武藏野台地立川ローム層に対比すると、VI層～V層の幅を持つと思われる。

891点検出された縄の多くは3基の縄群に属する。これらはIV層に分布するものが圧倒的に多く、IV層堆積中の縄群と評価することができる。そのため、AT降灰以降に残されたこととなり、石器群と時期は異なる。

地點	遺構番号	E	W	IV	IV上	IV中	IV下	Va	Vb	VI	複数	合計	比率
古 都	BL1	3		2	6	1		1				13	2.7%
	BL2	8		13	9	15	10	8				61	12.7%
	BL3	3		6	7	8	11	5			2	4.2	0.7%
	BL4	4		5	3	1	9	3			1	21	4.4%
	BL5	2		2	4	5	6	3				22	4.6%
	BL6	8		2	3	5	7	19			5	49	10.2%
	BL7	20	2	19	13	18	7	29	1	1	175	36.3%	
	BL8	1		1	4		12	14			72	44	9.1%
	BL9	3		1	1	1	12	6				22	4.6%
	BL10	3		1			1	4				9	1.9%
	BL11	1		1				6	2			10	2.1%
	SH1			2								2	0.4%
	SH3	1										1	0.2%
外	1	1		2	1	1	1	1	3		1	11	2.3%
合計	1	55	4	55	51	55	146	89	1	22	482		
比率	0.25	12.0%	0.8%	11.4%	10.6%	11.4%	30.3%	18.5%	0.25	4.0%			
新	BL1	3		1	10	1						14	1.6%
	BL2	8		13	18	7	1	2				49	5.5%
	BL3	2		4	9	1	2					18	2.0%
	BL4	1	2	1	2		1	2				9	1.0%
	BL6							1	2			4	0.4%
	BL7							1	1			1	0.1%
	BL9	1										1	0.1%
	SH1	1	13	261	1		13	2				291	32.7%
	SH2	12	172		2	4	5	1			1	197	22.1%
	SH3	8	249	1	2	2	10					272	30.5%
外	2		7	10	7	4	1				21	35	3.7%
合計	3	59	882	37	65	21	38	11	6	4	891		
比率	0.3%	5.0%	76.5%	4.2%	5.1%	2.4%	4.3%	1.2%	0.0%	0.4%			

第2表 遺構別出上層位分布

遺構番号	E	W	IV上	IV中	IV下	Va	Vb	複数	合計	比率
BL1	1		1	2	1			5	3.8%	
BL2	3		2	2	6	6	4		23	16.2%
BL3			1	3	3	5	1		13	9.2%
BL4			4	3		3	2		12	8.3%
BL5	1			1	2	2	1		7	4.2%
BL6	3			3	1	4	9	3	23	16.2%
BL7	3		3	4	1	17	6		34	23.9%
BL8						2	1		3	2.1%
BL9				1		4			5	3.5%
BL11						6	2		8	5.6%
SH1		2							2	1.4%
SH3	1								1	0.7%
外	1		1		1	1	2		6	4.2%
合計	13	2	12	19	15	50	28	3	142	
比率	9.25	1.4%	8.5%	13.4%	10.6%	26.2%	19.7%	2.1%		

第3表 遺構別 10g 以上の石器出土層位分布

## 3 器種組成（第4・5表）

石器482点が出土した。器種組成はナイフ形石器3点、ナイフ形石器破片1点（ナイフ形石器と接合）、台形石器4点、折断剥片1点、搔器2点、削器3点、楔形石器15点、石刃30点、2次加工のある剥片4点、微細剥離のある剥片8点、石核17点、剥片300点、碎片86点、斧形石器2点、磨石1点、敲石5点、原石1点となつた。

すべてが同時期とはいえない出土状況から、組成も1時期の様相を表すものではない。しかし、前記したとおり大部分は近い時期に残されたと考えられる。

遺構	ナイフ 他石器 破片	ナイフ 台形 石器	台形 石器	断面 剥片	縫隙 部	崩部	楔形 石器	石刃	2次加 工剥片	微細剥 離剥片	石核	剥片	碎片	斧部 石器	麻石	鐵石	磨石	合計	比率	
BL1						1						1	8	3					12	2.5%
BL2							1	1	1	1	2	47	6						58	12.0%
BL3	1							11	1	1	1	23	2					42	8.7%	
BL4											1	2	16	1					19	3.9%
BL5												17	2					22	4.6%	
BL6	1	1									1	4	38	3				49	10.2%	
BL7	1	1	3	1	1		1	22	1	3	6	92	43					177	36.7%	
BL8												22	21	1				44	9.1%	
BL9									2		1	16	2					22	4.6%	
BL10									2			5	2					9	1.9%	
BL11								2				7						10	2.1%	
SH1															1	1		2	0.4%	
SH2																1		1	0.2%	
外								1	1			9						15	3.1%	
合計	3	1	4	1	2	3	15	30	4	8	17	300	85	2	1	5	1	482		
比率	0.6%	0.2%	0.8%	0.2%	0.4%	0.6%	3.1%	6.2%	0.8%	1.7%	3.5%	62.2%	17.6%	0.4%	0.2%	1.0%	0.2%			

註：ナイフ破片＝ナイフ形石器、台形石器＝2次加工剥片～2次加工のある剥片、微細剥離剥片＝微細剥離のある剥片

第4表 遺構別石器種組成

石材	ナイフ 他石器 破片	ナイフ 台形 石器	台形 石器	断面 剥片	縫隙 部	崩部	楔形 石器	石刃	2次加 工剥片	微細剥 離剥片	石核	剥片	碎片	斧部 石器	麻石	鐵石	磨石	合計	比率	
基盤石	3	1	2				3	14	2	6	7	136	67						241	50.0%
無斑晶質安山岩					2	1		6			1	65	11						86	17.9%
凝灰岩						1	1		1		5	59	4						52	12.9%
鈷灰岩質					1			9	5		1	14	1						32	6.6%
玉髓						1	2					14							17	3.5%
紫山鱗											1	9	1						15	3.1%
チャート		1									1	8	1				1	1	13	2.7%
緑色凝灰岩								3			2		1						6	1.2%
珪質凝灰岩					1			1				1							3	0.5%
砂岩																3		3	0.6%	
珪質凝灰岩								1			1								2	0.4%
蛇紋岩														1					1	0.2%
芳香葉岩												1							1	0.2%
合計	3	1	4	1	2	3	15	30	4	8	17	300	85	2	1	5	1	482		
比率	0.6%	0.2%	0.8%	0.2%	0.4%	0.6%	3.1%	6.2%	0.8%	1.7%	3.5%	62.2%	17.6%	0.4%	0.2%	1.0%	0.2%			

註：ナイフ破片＝ナイフ形石器破片、2次加工剥片～2次加工のある剥片、微細剥離剥片＝微細剥離のある剥片

第5表 石材別石器種組成

177点の石器が検出された南区のBL7では、22点の石刃が組成し、ナイフ形石器、台形石器が伴っている。石刃石核も組成していることから、石刃製作の痕跡が残るブロックとして評価できる。また、BL7に隣接し層位分布や石材組成に共通性が見られるBL8には斧形石器が伴っている。場所がやや離れるもののBL11でも斧形石器が検出されている。BL7の石刃石器群に斧形石器が共伴する可能性が高いといえよう。

北区では定形的な石器が少ないため特徴がつかみづらい。そのような中BL3で楔形石器が11点も組成している点が注目される。

#### 4 石材組成（第6・7表）

石器の石材組成は黒曜石241点、無斑晶質安山岩86点、凝灰岩62点、珪質頁岩32点、玉髓17点、安山岩15点、チャート13点、緑色凝灰岩6点、凝灰岩質岩2点、珪質凝灰岩3点、砂岩3点、蛇紋岩1点、石英斑岩1点となっている。石材分類の詳細については第3節2石材・母岩分類の項に記述する。

北区では無斑晶質安山岩、凝灰岩が主体を占め、南区では黒曜石が主体となっている。これら3種の石材には石核、剥片、碎片が数量的にまとまって見られ、剥片剥離がおこなわれている痕跡が見られる。それ以外の石材は数量が少ないと想定され、あるいは剥片剥離の主体が調査区外にあるものと思われる。

遺物番号	縞理石	縞理高麗 安山岩	凝灰岩	珪質頁岩	玄武岩	安山岩	チャート	緑色 凝灰岩	凝灰岩 頁岩	珪質 類灰岩	砂岩	蛇紋岩	石英閃片	合計	比率
BL.1	1	0	1	1	1				1					12	2.7%
BL.2	2	40	9	3	5	2								91	22.7%
BL.3	10	1	3	17		8	3							42	9.7%
BL.4	2	5	8	1		1	3							1	2.1%
BL.5	1	8	4		6	1	1							22	4.8%
BL.6	8	1	32		5		2							49	10.2%
BL.7	142	19	3	2			1	5	1	2				175	38.3%
BL.8	45							1						44	9.1%
BL.9	17		2		1		2							22	4.6%
BL.10	8													9	1.9%
BL.11														10	2.1%
SH1						1								2	0.4%
SH3						1								1	0.2%
外	7	3					1							11	2.3%
合計	241	86	52	32	17	15	13	6	2	3	3	1	1	482	
比率	50.0%	17.0%	12.9%	6.9%	3.5%	3.1%	2.7%	1.2%	0.4%	0.6%	0.6%	0.2%	0.2%		

第6表 遺構別石器石材数量組成

遺構番号	縞理石	縞理高麗 安山岩	凝灰岩	珪質頁岩	玄武岩	安山岩	チャート	緑色 凝灰岩	凝灰岩 頁岩	珪質 類灰岩	砂岩	蛇紋岩	石英閃片	合計	比率
BL.1	18.19	51.42	3.10		110.26			31.04						222.31	3.2%
BL.2	7.20	593.55	167.07	169.49	19.84	6.93								863.88	12.9%
BL.3	57.34	16.71	37.89	95.41		175.06	301.12							692.52	9.9%
BL.4	10.17	54.48	230.13	3.91		36.25	18.30							16.14	4.1%
BL.5	0.98	83.48	63.17		27.03	1.53	6.85							291.26	4.3%
BL.6	30.00	24.63	802.28		24.95			7.54						1009.40	14.6%
BL.7	833.09	349.63	8.27	8.97			5.36	95.04	19.13	77.31				1207.60	20.2%
BL.8	55.74							66.12						153.86	2.2%
BL.9	103.66		21.20		1.62		194.53							321.91	4.6%
BL.10	27.45			4.05										31.50	0.5%
BL.11			313.34						42.89					466.41	6.7%
SH1						100.24								542.91	7.9%
SH3						350.95								350.95	5.1%
外	66.25	46.78				29.02								142.05	2.1%
合計	1241.57	1179.88	1333.91	535.17	72.44	871.74	621.72	163.16	50.14	170.20	97.19	110.18	16.74	6913.34	
比率	18.0%	17.1%	19.3%	7.7%	1.0%	12.5%	9.0%	2.4%	0.7%	1.7%	8.0%	1.0%	0.2%		

第7表 遺構別石器石材重値組成

※最高値

遺構番号	縞理 安山岩	和田 鹿島岩	和田 小深沢部	和田 二尾根西側	和田 土屋根南側	和田 土屋根北側	和田 高松沢側	勝野 葛ヶ台層	風化	合計	比率
BL.1	1									1	0.6%
BL.2		1								2	1.2%
BL.3	3							6		10	9.8%
BL.4	2									2	1.2%
BL.5										1	0.6%
BL.6		3						4		7	4.0%
BL.7	62	23	1				2		1	90	57.2%
BL.8	19	1							2	22	12.7%
BL.9	13	3								16	9.2%
BL.10	1	5								6	3.5%
外	5	2		1		1				7	4.0%
合計	104	45	1	2	1	1	2	11	3	173	
比率	60.1%	27.7%	0.6%	1.2%	0.6%	0.6%	1.2%	6.4%	1.7%		

第8表 遺構別黒曜石産地数量組成

遺構番号	蓼科 冷山群	和田 鷹山群	和田 小堀虎跡	和田 土屋横西跡	和田 土屋横南跡	和田 土屋横北跡	和田 高松沢跡	諏訪 黒ヶ台跡	風化	合計	比率
BL1	18.19									18.19	1.5%
BL2		1.80		5.30						7.20	0.6%
BL3	15.61				0.77					57.34	4.7%
BL4	10.17									10.17	0.8%
BL5								0.88		0.88	0.1%
BL6		12.52						17.75		30.27	2.5%
BL7	387.02	377.31	26.76				24.89		2.09	818.07	67.2%
BL8	71.58	5.97							1.91	79.40	6.5%
BL9	79.69	23.61								103.30	8.5%
BL10	2.59	24.50								27.09	2.2%
竹	23.45	10.46		30.83		1.51				66.25	5.4%
合計	608.30	456.21	26.76	36.13	0.77	1.51	24.89	59.59	4.00	1218.16	
比率	49.9%	37.5%	2.2%	3.0%	0.15%	0.1%	2.0%	4.9%	0.3%		

東信新道

第9表 遺構別黒曜石産地重量組成

黒曜石では產地推定がおこなわれており、すべての黒曜石が長野県内産と推定されている（第8・9表：詳細は第4章参照）。碎片を除く器種を分析対象としており、162点から產地群が推定された。最も多いのは蓼科冷山群で103点、次いで和田鷹山群の44点となっており、その他は10点以下となっている。

上信越自動車道建設に伴う調査資料では10遺跡、約12,000点について同様の分析をおこなっているが、蓼科冷山群が主体となったのは上ノ原1石器文化で全体の5割強を占めていた例のみである。蓼科冷山群の原石採集地として麦草峠や冷山が知られているが、これら產地は和田エリアおよび諏訪エリアのより良質な黒曜石採集地の同一方向により遠い。そのため、なぜ蓼科冷山群の黒曜石が主体となるのか注目される。

## 第2節 旧石器時代の遺構

### 1 遺物の分布

空白部に閉まれている複数の石器の集まりをブロックとして認定した。そのため本書で認定したブロックはあくまで石器の平面的まとまりであり、住居跡等の遺構的性格や遺物の同時性を示すものではない。ただし、分析を進めた結果として、ブロックが石器製作場等の意味を持つことがある。

石器のブロック同様に礫の平面的なまとまりを礫群とした。

北区に第1～6号ブロックおよび第1～3号礫群、南西区に第7～10号ブロック、南東区に第11号ブロックの合計11ヶ所のブロック、3基の礫群を設定した。

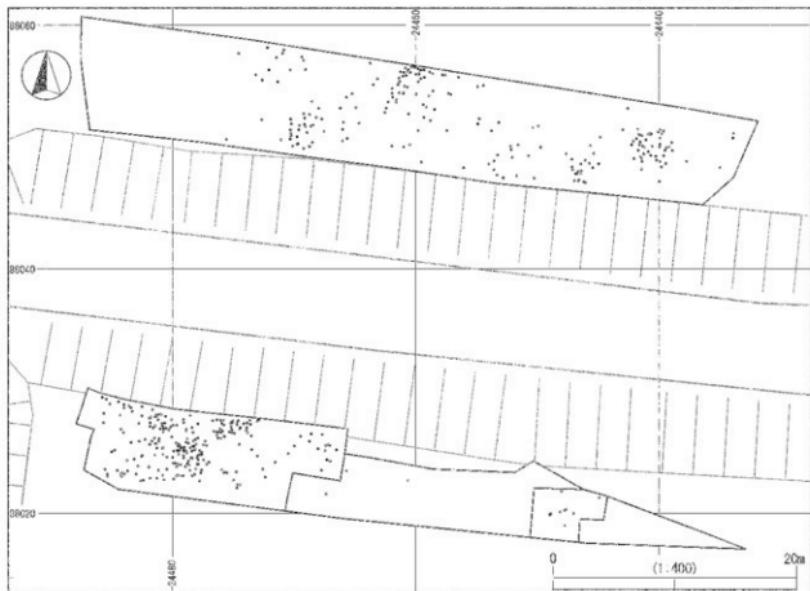
#### (1) 石器の分布（第6・7図）

北区に217点、南西区252点、南東区に10点、南西区と南東区の間に1点、出土位置不明2点の石器が検出されている。これら石器の平面的まとまりを基に北区に6ヶ所、南西区に4ヶ所、南東区に1ヶ所のブロックを設定した（第7図）。

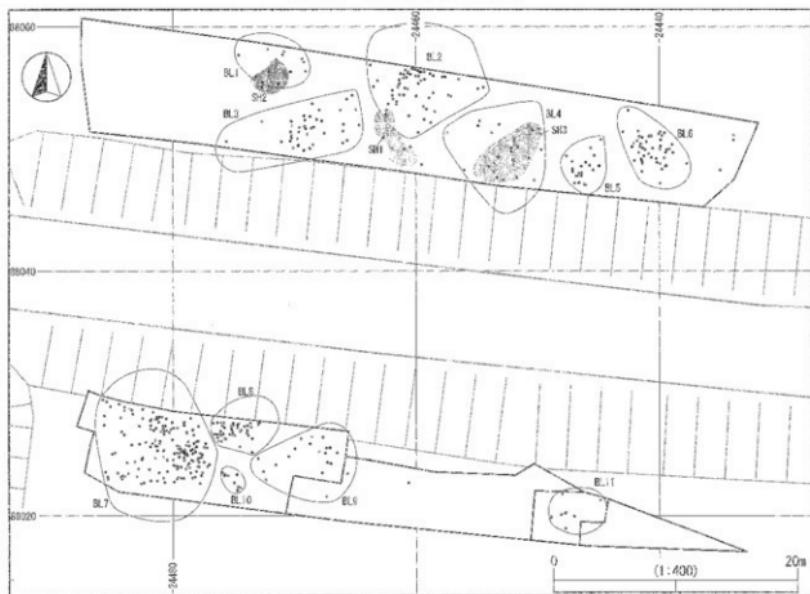
北区は剥片剥離の痕跡が見られるものの、作業頻度は低いようで石器分布密度は低い。一方南西区は分布密度が高く、盛んに剥片剥離作業がおこなわれている。南東区の石器は単独で持ち込まれたと思われるもののみで構成されており、石器製作の痕跡は残されていない。

#### 1. 黒曜石の分布（第8図）

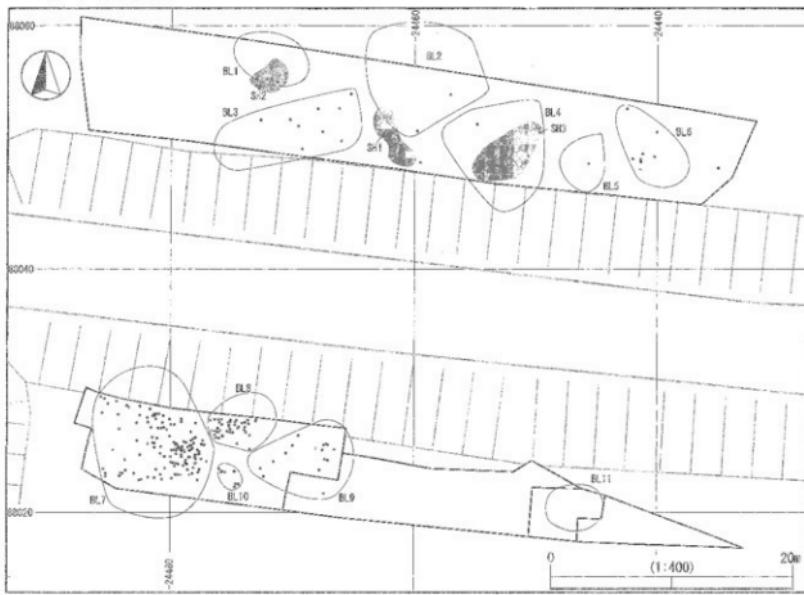
分布は南西区に大きく偏っている。北区の黒曜石製石器の多くは製品、もしくは素材としての利用が想定されるものが多く、単独で持ち込まれたと考えられる。



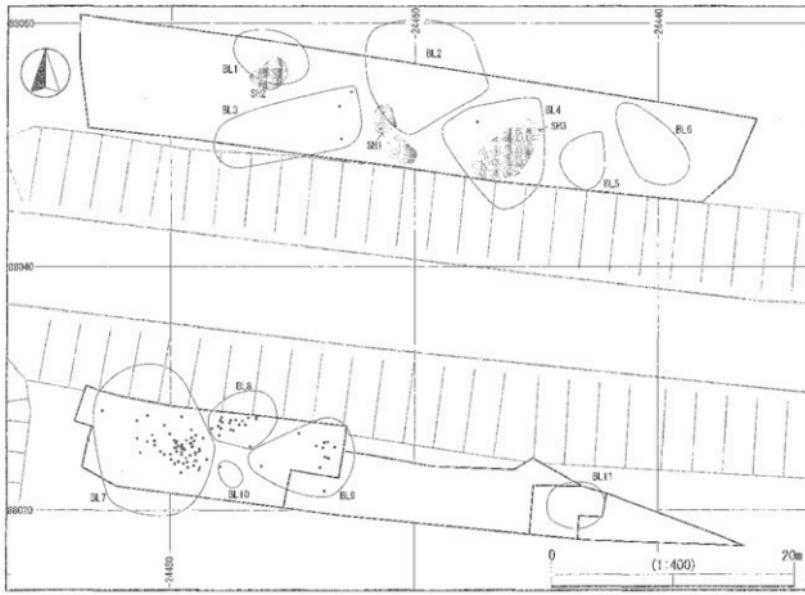
第6図 石器分布図（石器全点1）



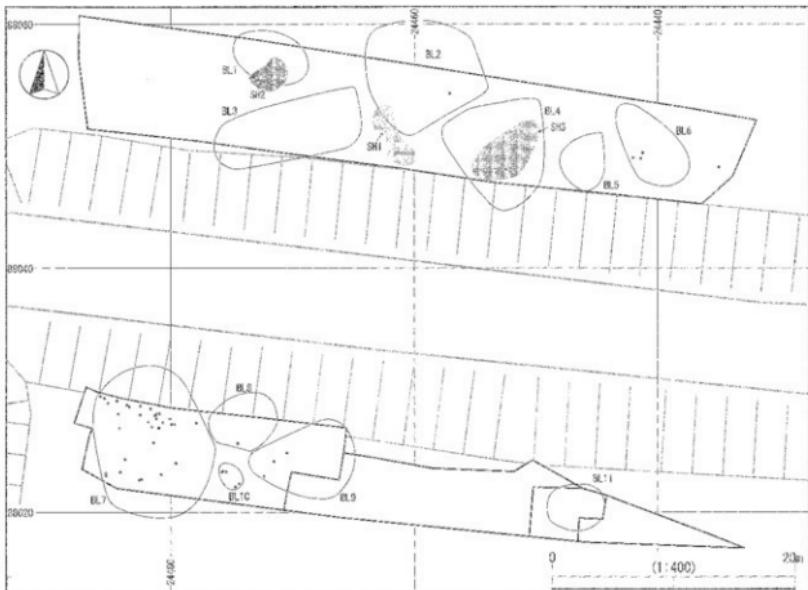
第7図 石器分布図（石器全点2）



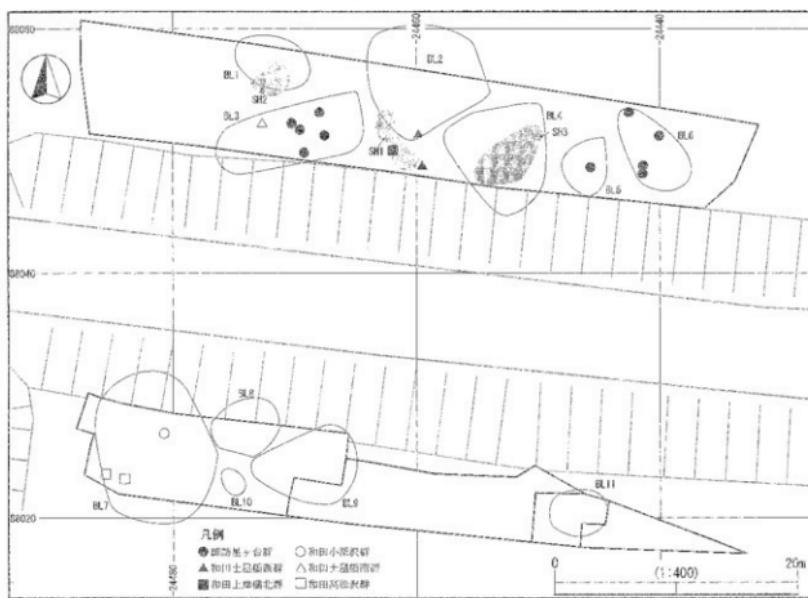
第8図 石器分布図（黒曜石）



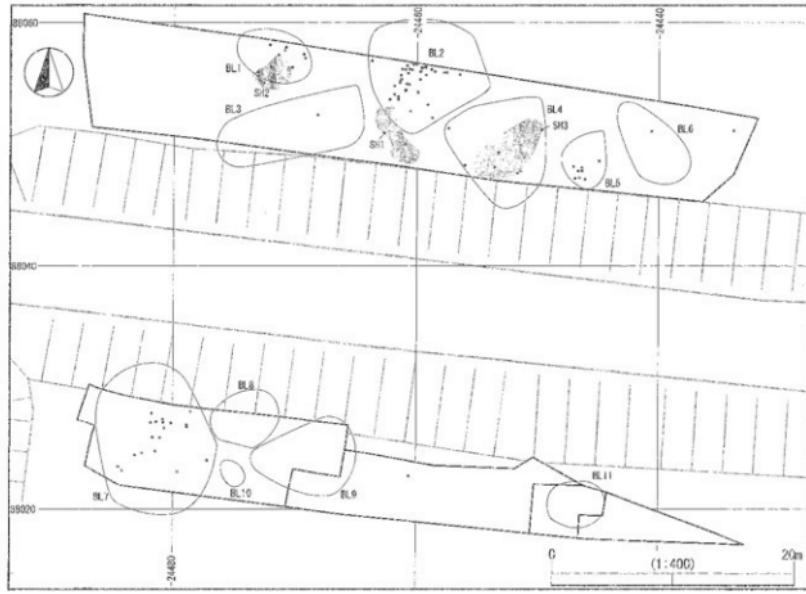
第9図 石器分布図（黒曜石・蓼科冷山群）



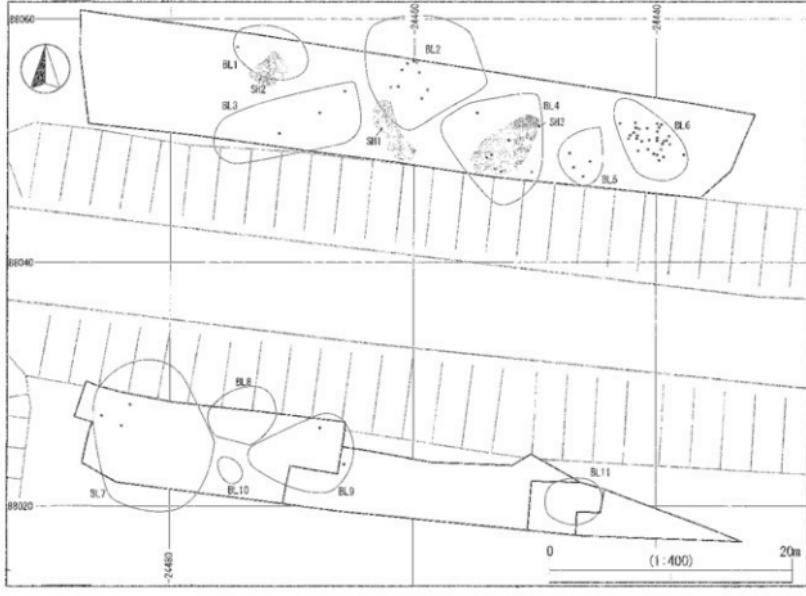
第10図 石器分布図（黒曜石・和田鷹山群）



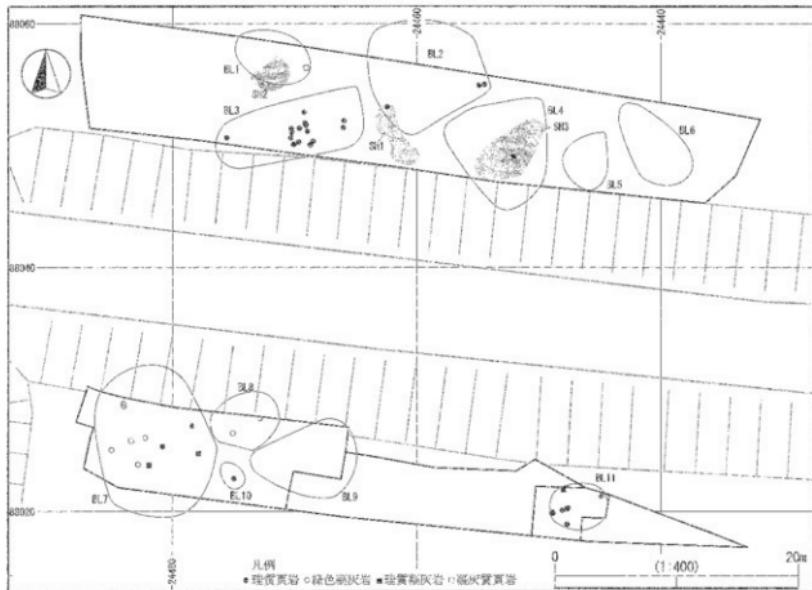
第11図 石器分布図（黒曜石・その他遺地群）



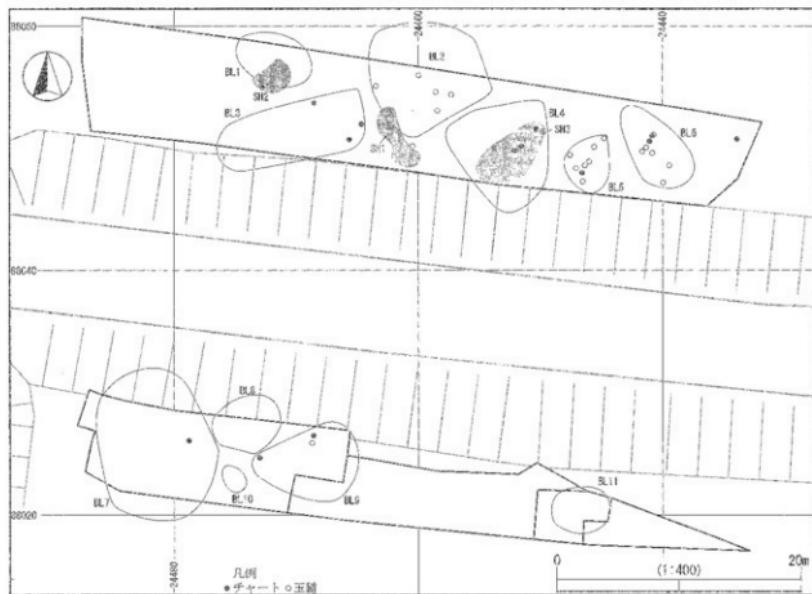
第12図 石器分布図（無斑晶質安山岩）



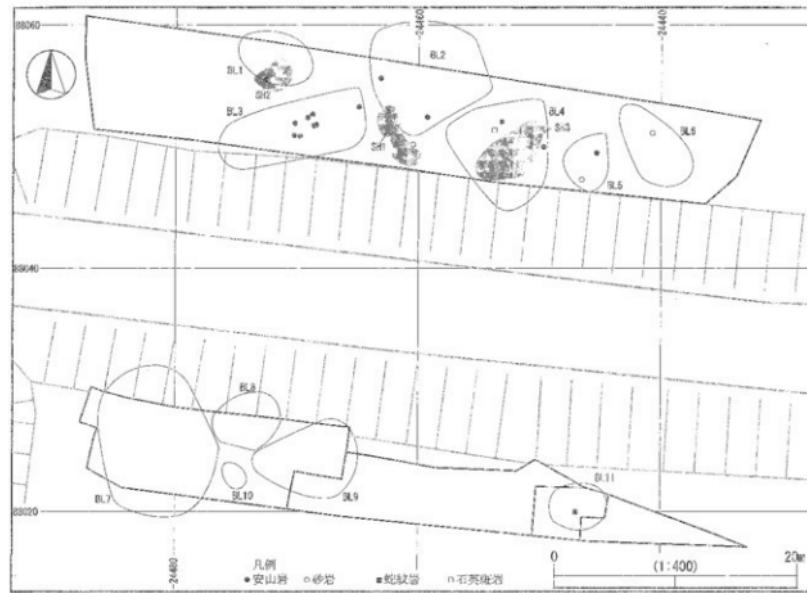
第13図 石器分布図（凝灰岩）



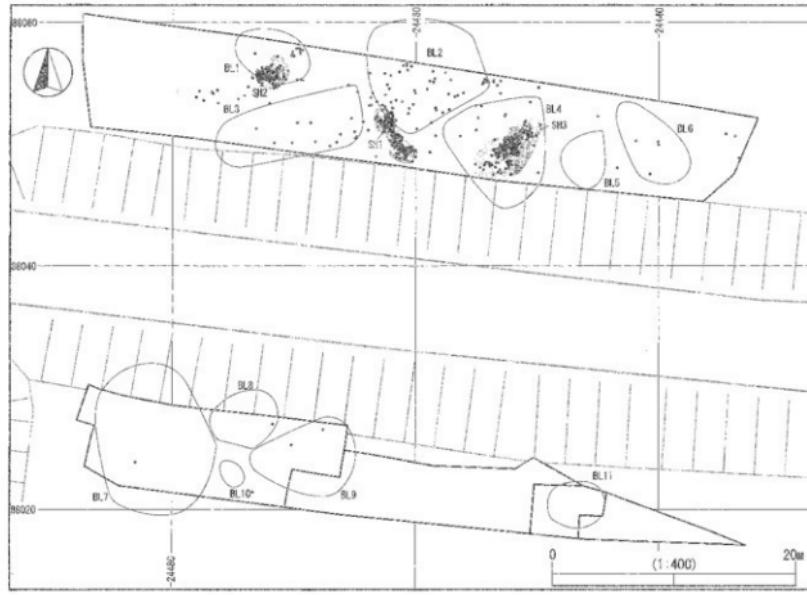
第14図 石器分布図（黄岩・蘚灰岩層）



第15図 石器分布図（チャート・玉髓）



第16図 石器分布図（その他石材）



第17図 磚分布図（集合点）

南西区では剥片、碎片、石核の数も多く剥片剥離がおこなわれた痕跡が残されている。南東区では黒曜石が検出されなかつた。

碎片を除く器種のほとんどの黒曜石で螢光X線分析装置を用いた産地推定がおこなわれている。推定された産地群ごとの分布図を第10～12図に示す。単独出土が多い北区のブロックにおいて、諫訪星ヶ台群などの数量の少ない産地群が分布する特徴が見られる他は、特に産地群の違いによる分布の偏りはないと判断されよう。

## 2. 無斑品質安山岩の分布（第12図）

BL1・BL2・BL5で主体となっている。BL7に分布する数値も多いが、こちらでは黒曜石が主となるため比率は低い。

## 3. 凝灰岩の分布（第13図）

BL6で主体となる他は、散在している。BL6では剥片剥離の痕跡が見られるものの規模は小さい。

## 4. その他の石材（第14～16図）

珪質頁岩・緑色凝灰岩・珪質凝灰岩・凝灰質頁岩の分布を第14図、チャート・玉髓の分布を第15図、その他の石材を第16図に示す。これらの石材での剥片剥離の痕跡は遺跡内にはほとんど残されていない。

## （2）礫の分布（第17図）

圧倒的に北区に偏り、南区では5点検出されたにすぎない。これらの礫は自然状態では地山中に存在しないため、人為的に持ち込まれたと思われる。

北区に3基の礫群が存在し、礫群周辺および、礫群に隣接するブロック範囲内にも礫の散らばりが認められ、礫群礫との関係が予想される。しかし、礫群検出順序がIV層なのに対し、Va層以下で検出される礫もあるため、すべての礫が礫群に関連するとはいえない。

## 2 ブロック

### （1）第1号ブロック（第18図）

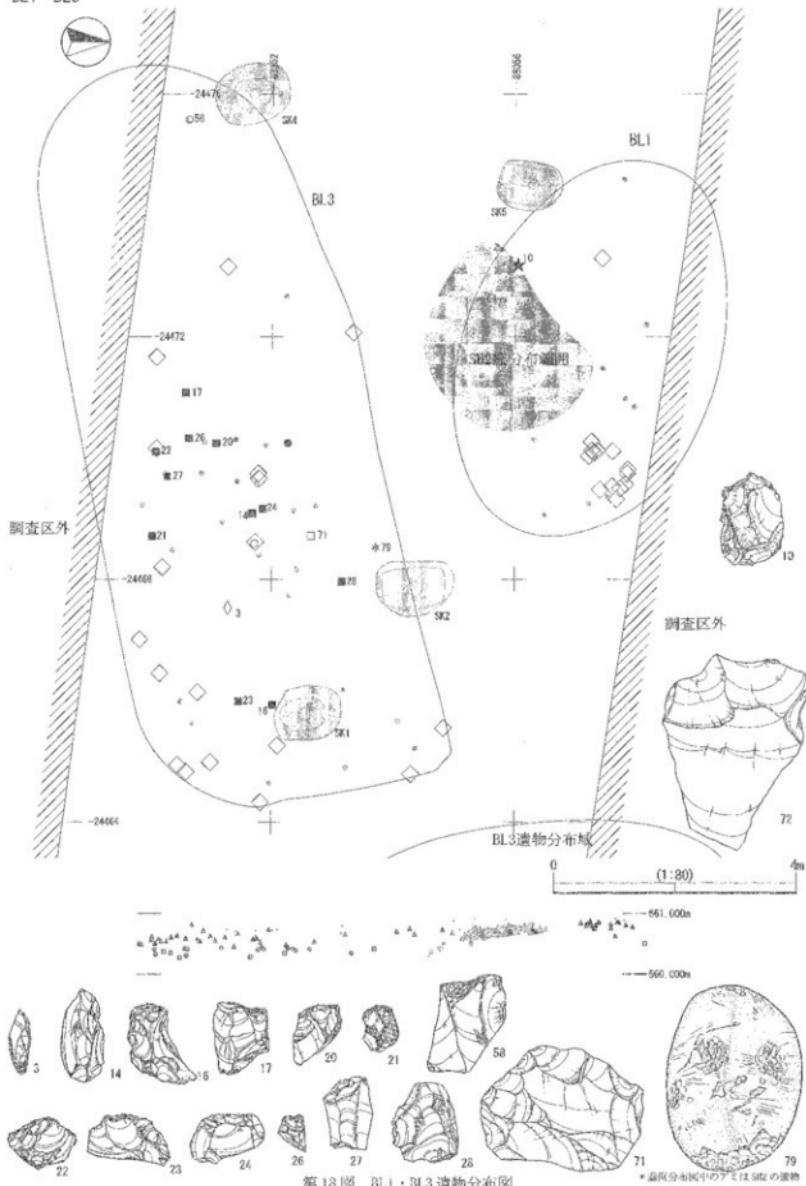
北区西端に位置し、X=88057、Y=-24472 座標付近を中心に北一南約6m、東一西約4mの梢円形の広がりを持つ。西側は尾根下方に続く斜面となっており、遺物の分布が途切れるが、北側には調査区塊があり調査区外に遺物分布域が広がる可能性が考えられる。遺物数が少なく散漫な状況を示しているため、遺物分布域の主体が北側の調査区外にある可能性も考えられる。南に第3号ブロックがありその間には約2mの遺物空白部が存在する。また、第2号礫群の遺物分布域の大部分が本ブロックの遺物分布域と重なっている。南西縁に接している第5号土坑による擾乱の影響はほとんどない。

III層からVb層に遺物が分布しておりIV層が最も多い。10g以上の石器に限定すると、V層以下の遺物はなくなるため、本ブロックの生活面はIV層にあるといえよう。しかし、石器と礫で比較すると石器がIV層中部に集中するのに対して礫はIV層上部が多くなっている。第2号礫群の出土層位は大部分がIV層一括になっているが、垂直分布を見ると上半に集中しているようである。このように本ブロックの礫は第2号礫群と関連があることが予想されるが、石器に関してはやや深い層に集中する傾向があり、時期が異なる可能性が残される。

石器13点、礫14点が検出されている。14点の礫のうち13点はブロック東端に集中しており、小規模な礫群もしくは紀石的な分布をしめしている。

器種組成は搔器1点、石核1点、剥片8点、碎片3点となっている。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少ないので、剥片剥離がおこなわれた痕跡が残されているとはいえない。1点の搔器は典型的なものとは

BL1・BL3



異なり、時期や性格付けができるような器種ではない。石材は無斑晶質安山岩、黒曜石、凝灰岩、安山岩、珪質頁岩が見られ、無斑晶質安山岩が最も多い。黒曜石の産地は蓼科冷山群と推定されている。

### (2) 第2号ブロック（第19図）

北区中央のやや西よりに位置し、X=88054, Y=-24458 座標付近を中心直径約10mの円形の広がりを持つ。北側には調査区境があり調査区外に遺物分布域が広がると思われる。遺物の集中度合いは低く、ブロック全域にはばらばらと散らばる散漫な状況を示す。南東に第4号ブロックがありその間には約1mの遺物空白部が存在するが、両ブロックとも散漫な分布状況のため境界は不明瞭である。また、第1号礫群が南に接しており、一部が本ブロックの遺物分布域と重なっている。南東縁には第6号土坑が接しているが、周囲の遺物密度が低いためほとんど影響を受けていないと思われる。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しており、IV層が最も多いためVa・Vb層中の遺物も多く上下に拡散している。10g以上の石器に限定すると、IV層下部からVb層の比率が高くなる。一方ではIV層中部前後が多くVa層以下は少ない。そのため、礫と石器では時期が異なる可能性も考えられる。隣接する第1号礫群の出土層位がIV層主体であることから、礫の多くは第1号礫群に関連するもので、石器にはより古い一群が存在する可能性が考えられる。

石器61点、礫49点が検出されている。礫はブロック全域に分散しているが、散点まとまる場所も見られる。

器種組成は削器1点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、微細剝離のある剥片1点、石核2点、剥片47点、碎片6点となっている。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少なく、明瞭な剥片剥離の跡はみられない。削器、楔形石器、石刃に型式名がつけられるようなものはない。石材は無斑晶質安山岩、黒曜石、凝灰岩、珪質頁岩、玉髓、安山岩が見られ、無斑晶質安山岩が最も多い。黒曜石2点の産地は和田廬山群と和田土屋橋西群が推定されている。

### (3) 第3号ブロック（第18図）

北区西端に位置し、X=88051, Y=-24470 座標付近を中心北一南約5m、東一西約12mの椭円形の広がりを持つが、大半は東半分に分布している。南側は現道切り通しの調査区境があり、外に遺物分布域が広がっていたと思われる。北には約2mの遺物空白部を挟んで第1号ブロックと第2号礫群が存在する。遺物の集中度合いは低く、ブロック全域にはばらばらと散らばる散漫な状況を示す。

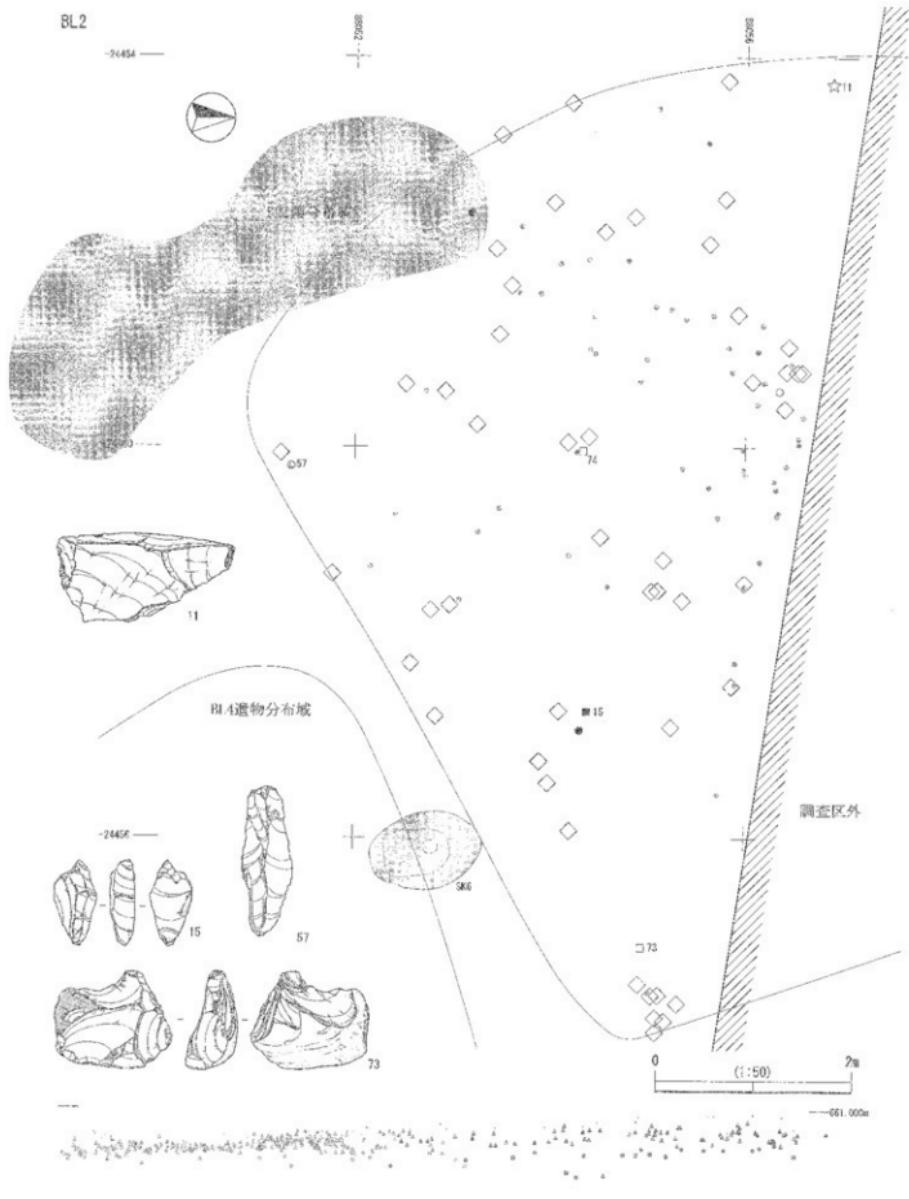
一部に繩文時代以降の上坑との切りあいがみられる。縁に接している第2・4土坑による擾乱はほとんどないと思われるが、第1号土坑はブロック範囲内にあり、周囲に遺物の分布も見られることから、擾乱を受けた可能性が高い。しかし、土坑は陥れ穴と思われる小さなものため、その影響は少ないとと思われる。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しており、IV層下半からVa層に多いが上下に拡散している。10g以上の石器に限定すると、IV層中部からVa層の比率が高くなる。一方、Va層以下の礫は少ない。本ブロックの礫も隣接する第2号礫群と関連するものが含まれていると思われる。

石器42点、礫18点が検出されている。礫はブロック全域に分散しているが、外縁に多い傾向がある。

器種組成はナイフ形石器1点、楔形石器11点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、微細剝離のある剥片1点、石核1点、剥片23点、碎片2点、鐵石1点となっている。楔形石器が11点と突出して多い。ナイフ形石器の出土層位はⅢ層で浅い。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少なく、逆に製品の数が多いため剥片剥離の痕跡はあまりみられない。

石材は珪質頁岩、黒曜石、無斑晶質安山岩、凝灰岩、安山岩、チャートが見られ、珪質頁岩が最も多い。楔形石器10点は表面が白色に風化する珪化が進んだ珪質頁岩製である。黒曜石の産地推定は他で蓼科冷山群が多いのに対し、諏訪尾ヶ台群が多くなっている。



第19図 BL2遺物分布図

## (4) 第4号ブロック (第20図)

北区中央からやや東よりに位置し、X=88050, Y=-24453座標付近を中心に直径約8mの円形の広がりを持つ。南側は現道切り通しの調査区境があり、外に遺物分布域が広がっていたと思われる。北西には連なるように第2号ブロックが、東には約2mの遺物空白部を挟んで第5号ブロックが位置している。第3号礫群のすべての遺物分布範囲は本ブロックの範囲と重なっている。遺物の集中度合いは低く、ブロック全域にばらばらと散らばる散漫な状況を示す。

第6号上坑と第1・2号溝との切り合いが認められるが、第6号上坑は遺物分布域の隅であり、第1・2号溝は掘り込みがIV層上面前後までしか達していないため、それぞれの影響は小さいと思われる。

III層からVb層に遺物が分布しており、IV層上部～中部と、Va層～Vb層の2ヶ所に集中が分かれる。分布の重なる第3号礫群はIV層から集中して検出されるため、IV層上部～中部の一帯は礫群に隣接する可能性が考えられる。一方、Va層～Vb層の一帯は確実に礫群より下層にあることが垂直分布から読み取れる。

石器21点、礫9点が検出されている。第3号礫群がブロックほぼ中央にあり、その周囲の羅が本ブロックの羅となっている。

器種組成は削器1点、微細剥離のある剥片1点、石核2点、剥片16点、碎片1点となっている。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少なく、剥片剥離の痕跡はあまりみられない。削器は刃部のみに加工が施されるもので、その他の器種にも定形的なものがないため、時期や性格付けが難しい。

石材は凝灰岩、無斑晶質安山岩、黒曜石、珪質岩、安山岩、チャートが見られ、凝灰岩が最も多い。黒曜石2点の産地は蓼科冷山群が推定されている。

## (5) 第5号ブロック (第20図)

北区東よりに位置し、X=88049, Y=-24446座標付近を中心に直径約4mの円形の広がりを持つ。南側は現道切り通しの調査区境があるが、大部分は調査区内に収まっていると思われる。西に第4号ブロックが、北東に第6号ブロックがそれぞれ約2mの遺物空白部を挟んで存在する。遺物の集中度合いは低く散漫である。

III層からVb層に遺物が分布しており、Va層前後が最も多いが上下に拡散している。

石器22点が検出されており礫はない。器種組成は削器1点、楔形石器1点、剥片17点、碎片2点、敲石1点となっている。剥片、碎片の数量が少なく剥片剥離の痕跡はあまりみられない。削器は刃部のみに加工が施されるもので、その他の器種にも定形的なものがないため、時期や性格付けが難しい。

石材は無斑晶質安山岩、玉髓、黒曜石、凝灰岩、安山岩、チャート、砂岩が見られ、無斑晶質安山岩が最も多く玉髓の比率は他より高い。黒曜石の産地は諫防星ヶ台群が推定されている。

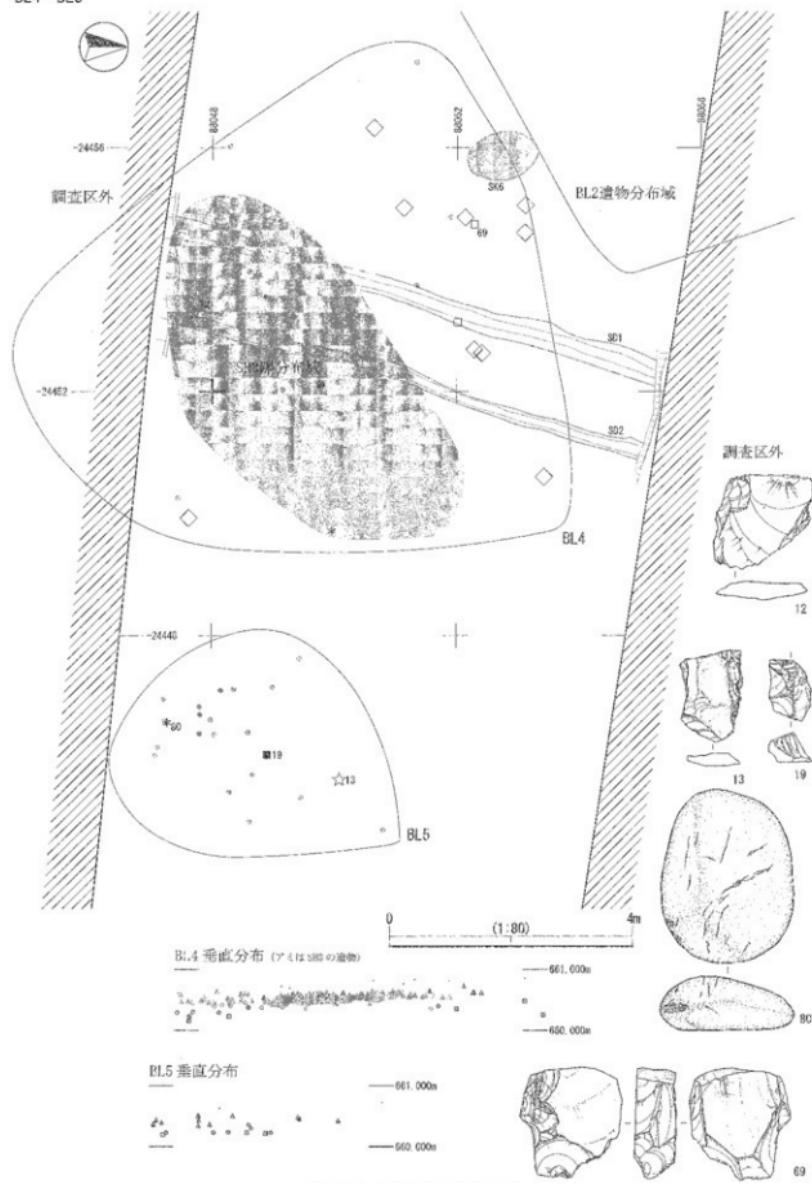
## (6) 第6号ブロック (第21図)

北区東端に位置し、X=88050, Y=-24441座標付近を中心に北西～南東約8a、北東～南西約4mの楕円形の広がりを持つ。北側に調査区境が、南側に現道切り通しがあるが、それぞれの窓の間には遺物空白部が認められるため、遺物分布域は調査区内に収まっていると思われる。西に第5号ブロックが約2mの遺物空白部を挟んで存在する。遺物の集中度合いは低く散漫である。

III層からVb層に遺物が分布している。Vb層が最も多いが、上に多く拡散している。

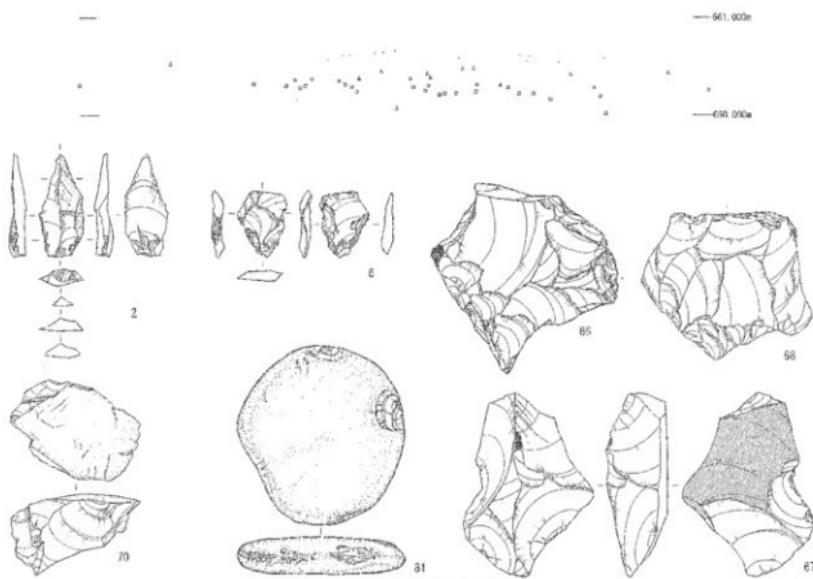
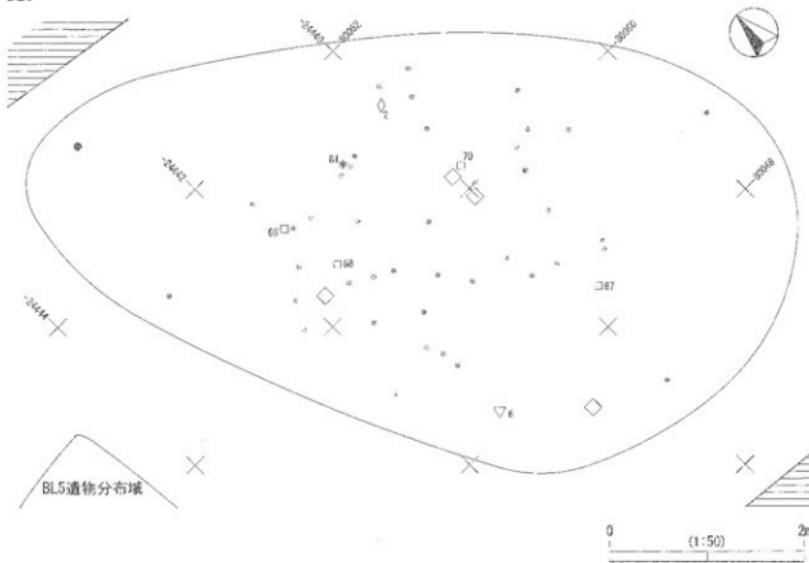
石器49点、礫4点が検出されている。器種組成はナイフ形石器1点、台形石器1点、微細剥離のある剥片1点、石核4点、剥片38点、碎片3点、敲石1点となっている。剥片、碎片の数量が少なく剥片剥離の痕跡はあまりみられない。ナイフ形石器はIII層、台形石器はIV層下部から検出されているが、形態的にはVa層以下のものと思われる。

BL4 • BL5



第29図 BL4・BL5遺物分布図

BL6



第21図 BL5 遺物分布図

BL7



第22図 BL7遺物分布図

石材は凝灰岩、黒曜石、無斑晶質安山岩、玉髓、チャート、砂岩が見られ、凝灰岩が過半数を占める。黒曜石の産地は和田鷹山群が3点、諫訪星ヶ台群4点となっており、遺跡内で最もも多い蓼科冷山群はみられない。

#### (7) 第7号ブロック（第22図）

南西区西端に位置し、X=88026, Y=-24481座標付近を中心に直径約10mの円形の広がりを持つ。西側は尾根下にむかう斜面落ち際で遺物の分布が途切れる。北側に現道切り通しが、南側には調査区境があり、それぞれに遺物分布域が広がっていたと思われる。東側に第8号ブロックと第10号ブロックが存在するが、間に明白な空白部はないため第9号ブロックも含めて、1つの大きなブロックとしての認識も可能と思われる。遺物の集中度合いは比較的高い。

Ⅲ層からⅥ層に遺物が分布しており、Ⅴa層に最も多く分布している。ただし、他のブロック同様に上下の拡散が大きいようで、Ⅲ層・Ⅳ層からも多くの石器が出土している。

石器175点、礫1点が検出されている。器種組成はナイフ形石器1点、台形石器3点、折断削片1点、搔器1点、楔形石器1点、石刃22点、2次加工のある剥片1点、微細剥離のある剥片3点、石核6点、剥片92点、碎片43点となっている。同一母岩と思われる剥片、砂片があることから右刃製作に伴う剥片剥離の痕跡が残されているといえる。ナイフ形石器は2側縁に加工が施される「茂呂型」の箇疊に含まれる。台形石器は刃部が平たく側縁が切り立っている。ナイフ形石器、台形石器、石刃の共伴關係が注目される。

石材は黒曜石、無斑晶質安山岩、凝灰岩、珪質頁岩、チャート、緑色凝灰岩、凝灰質頁岩、珪質凝灰岩がみられ、黒曜石が大半を占める。黒曜石の産地は蓼科冷山群と和田鷹山群の比が2:1程度と蓼科冷山群が多くなっている。分布を見ると北側に和田鷹山群が、中央から南側に蓼科冷山群が多く分布している。その他和田高松沢群が2点含まれる点も注目される。

#### (8) 第8号ブロック（第23図）

南西区中央に位置し、X=88027, Y=-24474座標付近を中心に直径約5mの円形の広がりを持つ。ブロックの半分以上は北側の現道切り通しに広がっていたと思われる。西に第7号ブロック、南に第10号ブロック、南東に第9号ブロックがあり、第10号ブロックとはやや離れるものの明瞭な遺物空白部はない。遺物の集中度合いは比較的高いが、集中部は現道切り通しに切られている。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しておりVb層が最も多い。

石器44点、礫1点が検出されている。器種組成は剥片22点、碎片21点、斧形石器1点となっている。石刃、石核はないが、縦長剥片も見られ、第7号ブロックと共通する石材がみられることから、縦長剥片剥離の痕跡の一部が残されていると評価できようか。斧形石器は緑色凝灰岩製で単独で存在するが、層位的・平面的に本ブロックに伴うと判断できる。

石材は黒曜石、緑色凝灰岩がみられ、斧形石器以外は黒曜石となっている。黒曜石の産地は蓼科冷山群が19点、和田鷹山群が1点となっている。

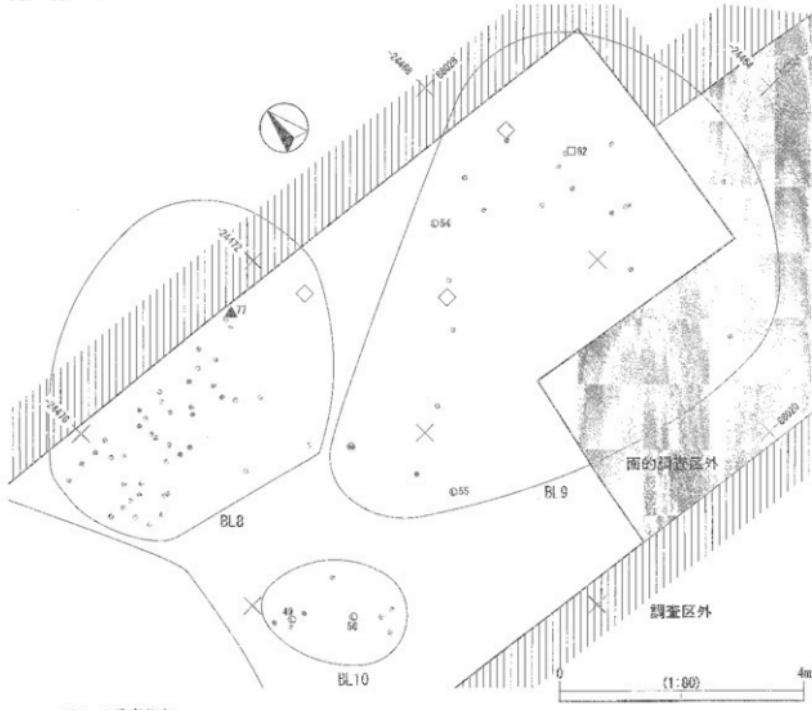
#### (9) 第9号ブロック（第23図）

南西区東端に位置し、X=88024, Y=-24469座標付近を中心に北一南約6m、東一西約8mの梢円形の広がりを持つ。北側に現道切り通しがあるが、境の遺物密度は低いため遺物分布範囲は、ほぼ調査区内で収まっていると考えられる。北西に第8号ブロック、南西に第10号ブロックがあり、第8号ブロックとの間には明瞭な遺物空白部がない。遺物密度は低く散漫である。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しておりVa層が最も多い。

石器22点、礫2点が検出されている。器種組成は石刃2点、石核1点、剥片16点、碎片2点、原石1点となっている。遺物数は少ないものの、第7号ブロックの石刃製作との関連が考えられる。

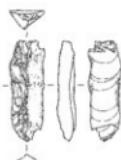
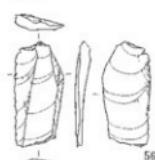
BL8・BL9・BL10



BL8・9 垂直分布



BL10 垂直分布



第23図 BL8・BL9・BL10 遺物分布図



石材は黒曜石、凝灰岩、玉髓、チャートがみられ、黒曜石が大半を占める。黒曜石の産地は蓼科冷山群が13点、和田鷹山群が3点となっている。

#### (10) 第10号ブロック（第23図）

南西区中央に位置し、X=83023, Y=-24475 座標付近を中心に直径約2mの円形の広がりを持つ。南側に調査区外があるが遺物分布範囲は調査区内に収まっていると思われる。西に第7号ブロック、北に第8号ブロック、北東に第9号ブロックがあるが、本ブロックの認定にあたってはこれら3ブロックの範囲確定後に残った少量の遺物集をブロックとした。遺物密度は低く散漫である。

Ⅲ層からV<sub>a</sub>層に遺物が分布しておりV<sub>a</sub>層が最も多い。

石器9点が検出されているが礫はない。器種組成は石刃2点、剥片5点、碎片2点となっている。遺物数は少ないものの、第7号ブロックに関連する石刃製作との関連が考えられる。

石材は黒曜石が8点、珪質頁岩が1点となっている。黒曜石は1点が蓼科冷山群、5点が和田鷹山群と推定されている。

#### (11) 第11号ブロック（第24図）

南東区に唯一存在するブロックである。X=83020, Y=-24447 座標付近を中心北一南約4m、東一西約6mの楕円形の広がりを持つ。北に信濃町教育委員会の調査区が接しており、遺物数が少ないため、本体はそちらに存在する可能性が考えられる。遺物密度が非常に低く散漫である。

Ⅲ層からV<sub>b</sub>層に遺物が分布しておりV<sub>a</sub>層が最も多い。

石器10点が検出されているが礫はない。器種組成は石刃2点、剥片7点、碎片2点となっている。剥片類も素材となるような大型品が目立ち、ほとんどが製品や素材として持ち込まれていると考えられる。そのため、剥片剥離の痕跡はみられない。

石材は珪質頁岩8点、珪質凝灰岩1点、蛇紋岩1点となっている。

#### (12) 遺構外遺物（第25図）

ブロックと礫群の外から検出された遺物の分布を第25図に示した。

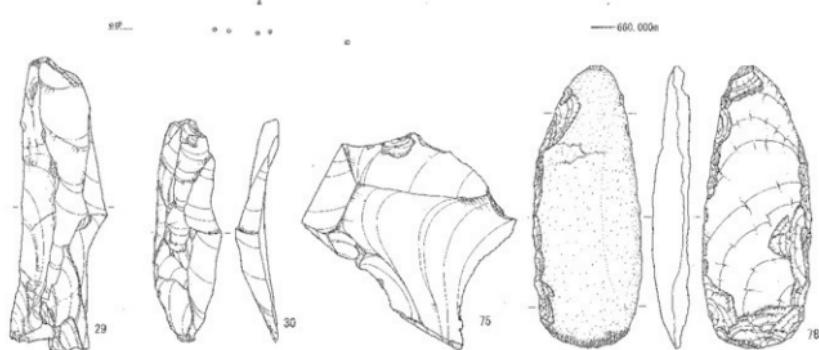
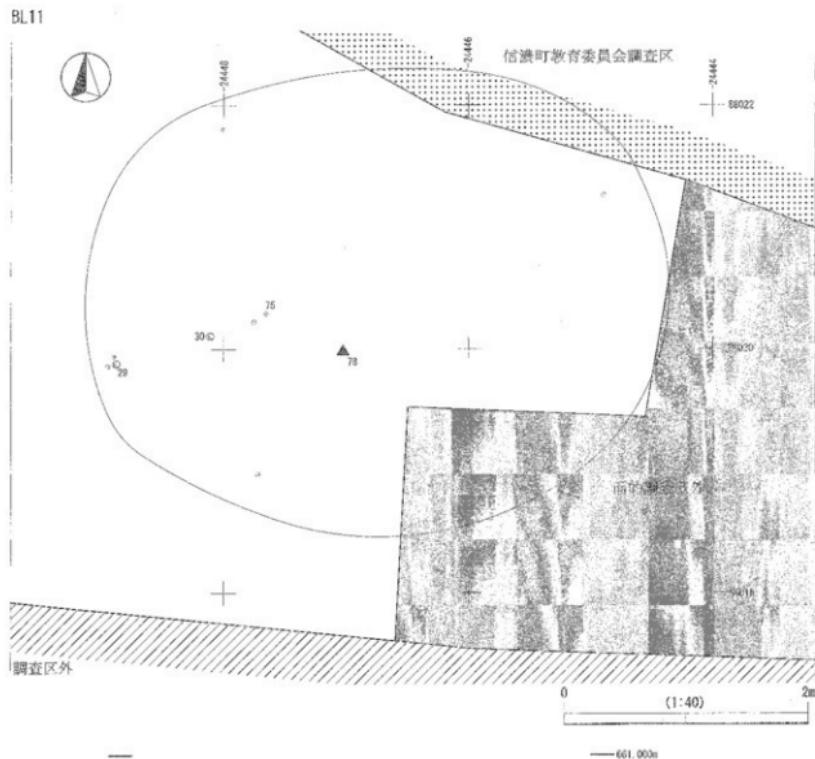
### 3 磨群

3基の礫群が検出されている。いずれの礫群もIV層から集中して出土するため生活面はIV層にあると思われる。3基の礫群に共通する特徴として、円礫および円礫に近い亜角礫が主体を占め、焼けた破損礫が少ない点があげられる。また、礫集中部の外縁が1辺1～1.5mの「コ」の字状を呈し、内部には60cm前後の空白部を持つ特徴的な礫分布が認められる。

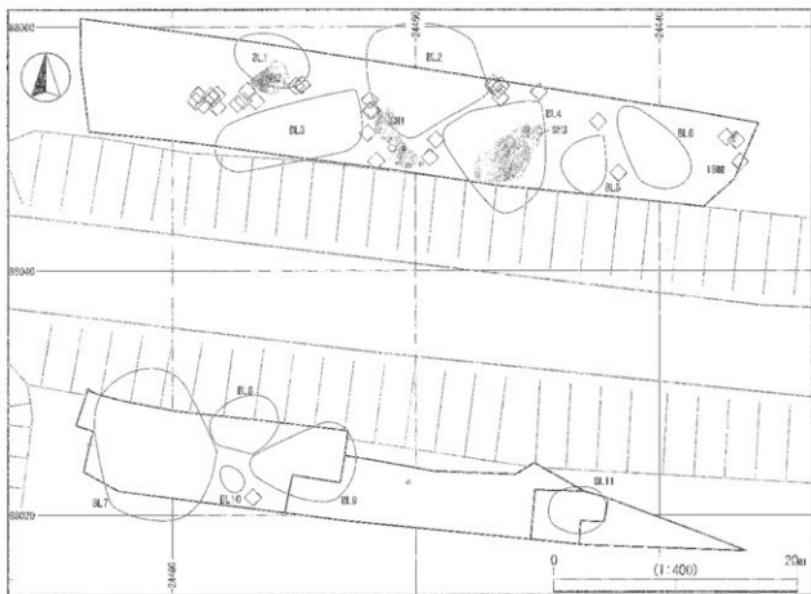
真っ赤に赤化した礫はほとんどなく全般的に焼けが弱い印象がある。分布図では統けと思われる赤化した部分がみられる際に濃いアミを、「焼弱」としたわずかに赤化またはすすけている礫に薄いアミをかけて表現した。

#### (1) 第1号礫群（第26図）

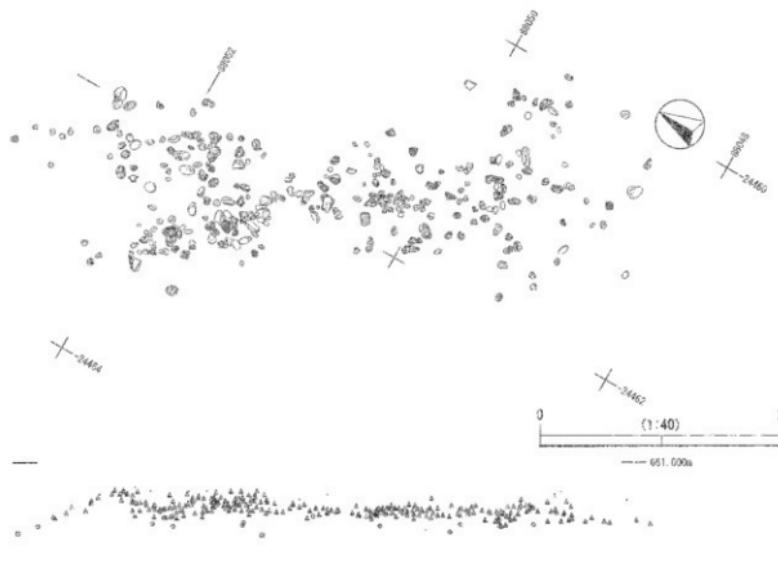
北区の中央付近に位置し、X=83051, Y=-24462 座標付近を中心に北西一南東約5m、北東一南西約1.5mの中央にくびれのある楕円形の広がりを持つ。中央付近の礫密度がやや低く、北東側と南西側にそれぞれ密度の高い場所がみられるため、2基の礫群が接して分布していると捉えることができる。それぞれの密度の高い部分の外縁は、1辺が1～1.5mの「コ」の字を呈しており、「コ」の字の内側には直径60cm前後の円形の空白部が存在している。「コ」の字の開いた部分は北西側の集中部が北西、南東側の集中部が北東を向いている。



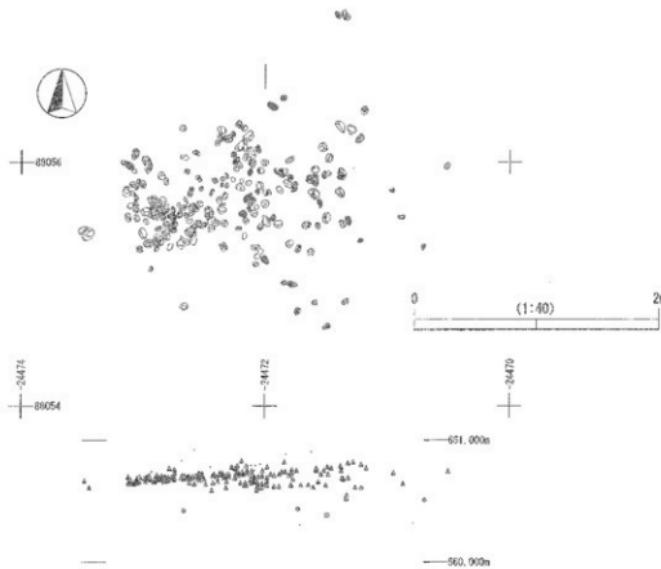
第24図 BL11 遺物分布図



第25図 遺構外遺物分布図



第26図 SH1 遺物分布図



第2号ブロックと分布が一部重なっており、重なっている部分から検出されている1点の微細剥離のある剥片は第2号ブロックに所属させた。

出土層位はII層からVb層に分布しておりIV層が圧倒に多いため、本来の生活面はIV層にあると思われる。

291点の礫が検出され、総重量は47.295kg、平均重量が約163gで、石材はすべて地元で採集できる多孔質の安山岩となっている。礫形状は亜角礫194点、円礫97点となっているが、亜角礫の多くは角が落ちたかなり円礫に近いもので、丸い礫が多い印象を持たれる。過半数の179点が破損がない完形品となっている。

133点に焼けと思われる赤化が見られ、128点が「焼弱」としたもので、30点には赤化が見られなかった。非常に赤化の弱い礫を「焼弱」としており、焼けているとも焼けていないとも明言し難い礫である。また、34点にすず状の付着物がみられた。

その他に磨石1点、敲石1点の合計2点の礫石器が検出されている。

野尻湖遺跡群の一般的な礫群は赤化して割れている亜角礫が主体となるのに対して、本礫群は赤化していない丸い完形礫が多いといえよう。

### (2) 第2号礫群（第27図）

北区の西端に位置し、X=89056、Y=-24472座標付近を中心に直徑約2.5mの円形の広がりを持つ。西側半分には第1号礫群で捉えられた「コ」の字状の集中部が捉えられる。「コ」の字の開いた部分は北西を向いている。

第1号ブロックと分布が一部重なっており、重なっている部分から検出されている剥片石器は第1号ブロックに所属させた。

出土層位はIII層からVb層に分布しておりIV層が圧倒に多いため、本来の生活面はIV層にあると思われる。

197点の礫が検出され、総重量は38.675kg、平均重量が約196gで、石材はすべて地元で採集できる多孔質の安山岩となっている。礫形状は亜角礫101点、円礫96点となっているが、亜角礫の多くは角が落ちた円礫に近いもので、丸い礫が多い印象を持たれる。約4分の3の150点が破損がない完形品となっている。

106点に焼けと思われる赤化が見られ、81点が「焼弱」としたもので、10点に赤化が見られなかった。また、42点にすず状の付着物が、1点に鉄分が付着していた。

本礫群も赤化していない丸い完形礫が多いといえよう。

### (3) 第3号礫群（第28図）

北区の中央からやや東よりに位置し、X=88049、Y=-24452座標付近を中心に北東-南西約6m、北西-南東約3.5mの横円形の広がりを持つ。中央付近に集中部があり、北東側と南西側に分散している分布状況を示す。中央付近の集中部は第1・2号礫群で捉えられた「コ」の字状の集中部が確認できる。「コ」の字のひらいた部分は南を向いている。また、これ以外にも1~1.5mの長さで礫が直線的に並ぶ部分が認められ、複数「コ」の字状の分布が存在する可能性が考えられるが、はっきりとしない。

第4号ブロックの分布域と完全に重なっており、重なっている部分から検出されている剥片石器は第4号ブロックに所属させた。また、本礫群よりも新しい時期の第1・2号溝に切られているが、溝の掘り込みが浅いためその影響は小さい。

出土層位はII層からVa層に分布しておりIV層が圧倒に多いため、本来の生活面はIV層にあると思われる。

272点の礫が検出され、総重量は44.642kg、平均重量が約164gで、石材はすべて地元で採集できる多孔質の安山岩となっている。礫形状は亜角礫119点、円礫153点となっているが、亜角礫の多くは角が落ちたかなり円礫に近いもので、丸い礫が多い印象を持たれる。過半数の169点が破損がない完形品となっている。

162点に焼けと思われる赤化が見られ、101点が「焼弱」としたもので、6点には赤化が見られなかった。非常に赤化の弱い縁を「焼弱」としており、焼けているとも焼けていないとも明言し難い縁である。また、56点にすす状の付着物がみられた。

本縁群も赤化していない丸い完形縁が多いといえよう。

### 第3節 旧石器時代の遺物

#### 1 石器

482点の石器が出土した。以下に主な器種について記載するが、その他石器の法量等の属性を第10～15表に示す。

##### (1) ナイフ形石器（第29図・報告番号1～3）

3点のナイフ形石器が検出されている。いずれも異なるブロックに属しており、同時期かどうかはわからない。

1は黒曜石の石刃を素材としている。黒曜石は比較的透明度が高く細かい気泡をわずかに含むが質は良く、産地は和田鷹山群と推定されている。素材の打面を基部に置き、左側縁全体と右側縁の下半に正方向のプランティングを施している。石器の主軸と素材の剥離軸はほぼ一致し、打面およびバルブは加工により折除されている。平面形はやや右側縁の肩が張る左右非対称形を呈し、尖端は鋭く尖り基部は丸い。側面形は薄くてそりが小さく直線的で、断面形は薄い台形状を呈する。器体ほぼ中央で横方向に2つに割れており、同一ブロック内の隣接する異なる地点から検出されている。

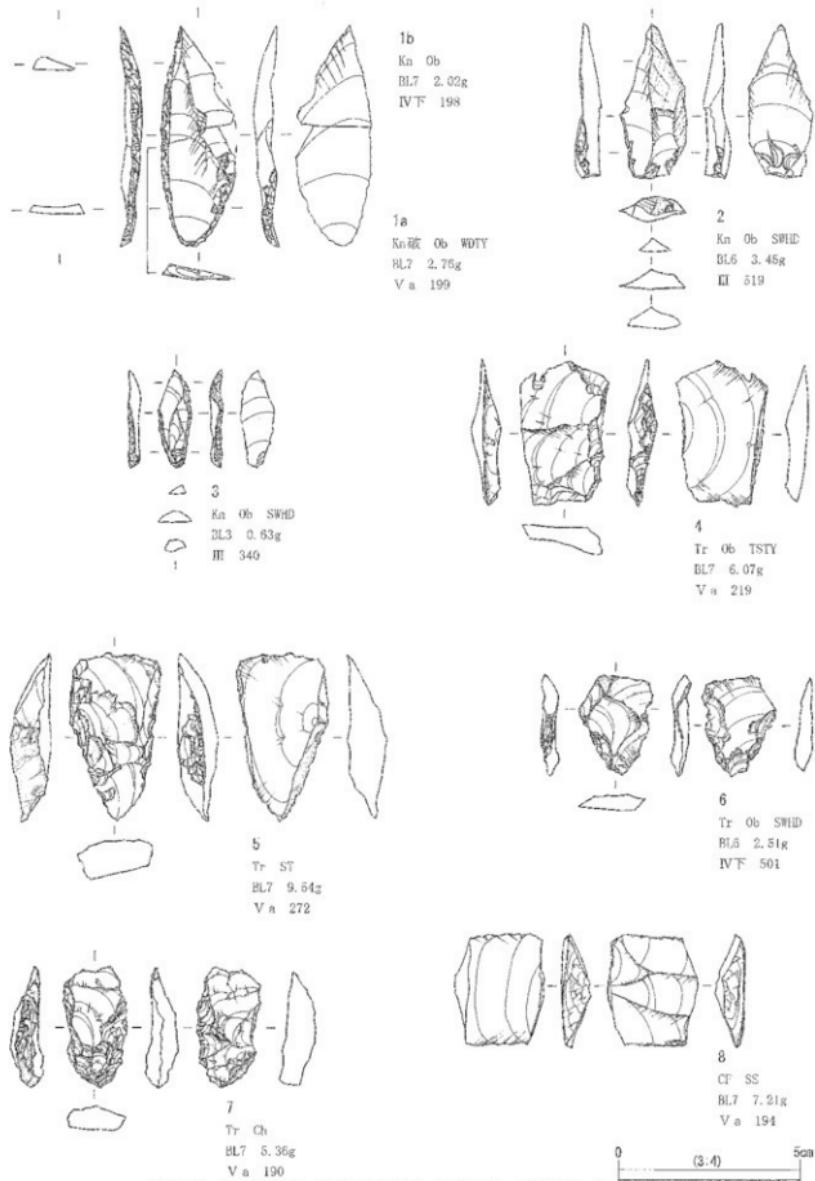
2は黒曜石の縦長剥片を素材としている。黒曜石は透明度が高く気泡がほとんどない質の良いもので、産地は諏訪星ヶ台群と推定されている。素材の打面および背面には縫面が残されており、石刀石核から剥離されたものかどうかは微妙である。打面を基部に置き、両側縁基部付近のみに正方向のプランティングを施している。石器の主軸と素材の剥離軸はほぼ一致しており、打面は平たく残されている。平面形は左右ほぼ対称で、基部が平たく尖端の尖るやや細身のベン先形を呈する。側面形はバルブのふくらみが若干みられるものの直線的で、断面形は台形、三角形を呈する。

3は黒曜石の縦長剥片を素材としている。黒曜石は透明部と黒色の不透明部が斑状となり、気泡がほとんどない質の良いもので、産地は諏訪星ヶ台群と推定されている。素材の打面を基部に置き右側縁全体と左側縁の下半に正方向のプランティングを施している。素材の打面は折除されているが、バルブは部分的に残されている。平面形はやや左肩の張る左右非対称で、尖端は鋭く基部は鈍く尖る。側面形は薄くてそりが小さく、断面形は薄い台形、三角形を呈する。

##### (2) 台形石器（第29図・報告番号4～7）

第7号ブロックから3点、第6号ブロックから1点、合計4点の台形石器が検出された。

4は黒曜石の剥片を素材としている。黒曜石は細かい球顆が多く、蓼科冷山群と産地推定されている。素材が縦長剥片か横長剥片かは断言できないが、背面の剥離痕は主要剥離面と同一方向で揃っているため、石刃状の縦長剥片を素材としている可能性も考えられる。素材の打面を右側縁に置き、正方向のプランティングにより打面は折除されている。左側縁は切り立った折れ面となっており、意図的に折り取られた可能性が考えられる。平面形は刃部と基部が水平となる台形を呈している。側面形は素材のバルブが発達しているため翼状を呈しており、横断面形は台形となっている。刃部は薄く鋭いが、薄さゆえに安定せず山形を呈し波打っている。



第29図 旧石器時代 石器実測図1(ナイフ形石器・台形石器・折断剥片)

5は珪質凝灰岩の横長もしくは貝殻状剥片を素材としている。珪質凝灰岩とした石材は白色で石英がみられ流紋岩との区別が難しいものとなっている。素材の打面は裏面と1枚の剥離面とで構成されており、その後の部分を打点として剥離されている。左側縁に打面を置き打面から背面に平坦な剥離が施されているが、主要剥離面との切り合いではなく加工との断定ができない。右側縁は正方向のプランティングにより素材が折断されている。平面形は刃部が平たく基部の尖る三角形を呈する。刃部は薄く鋭い。側面形はバルブが発達しているため、翼状を呈しており、横断面形は甲高で側縁の切り立つ四角形を呈する。

6は黒曜石の貝殻状剥片を素材としている。黒曜石は黒色不透明で質がよく諏訪星ヶ台群と产地推定されているが他に同一個体がない。素材背面には平坦でなめらかな裏面が残されており底面的な用い方も考えられる。左側縁下部に打面を置き、反方向の平坦剥離を施した後に正方向の急角度の剥離を施して打面を拆除している。素材の剥離軸はこの左側縁下部から刃部右肩方向にあり、素材は石器主軸に対して斜めに置かれている。右側縁全体に反方向の平坦剥離が施されている。平面形は刃部が平たい台形状を呈するが、左側縁上半部には鋭い縁辺が残されており、そこまで刃部として認識をした場合は、軸のずれたベン先形を呈するナイフ形石器との認識もできようか。側面形は薄くそりは小さく、横断面形は薄くつぶれた六角形を呈する。

7はチャートの剥片を素材としている。加工による素材の変形が大きいため素材形状が明瞭ではないが、打面が縦面であることや背面が平坦であることから、石刀等の定形的なものではないと思われる。左側縁下部に打面を置き打面肩から刃部肩に正方向のプランティングを施して切り立った左側縁を作出している。また、右側縁全体には反方向の平坦剥離が施されている。平面形は刃部が平たく基部が丸い台形状を呈している。刃部中ほどに岩石の脈の影響でくびれ部がみられ、非直線的で不安定である。側面形はバルブが大きく発達するため翼状を呈し、横断面形は側縁が切り立っていることから、つぶれた方形を呈する。

#### (3) 斷折剥片（第29図・報告番号8）

1点しかなく、折れも意図との断定が難しいため本来組成する器種かどうか微妙なところである。

8は風化面が灰色の珪質真岩を素材としている。同一個体が他にないことから単独で持ち込まれたものと思われ、その利用価値が予想されることからこの石器を折断剥片と認定した。石刀を素材としているようだが打面および末端は折り取られていて断定は難しい。折り取りについても意図的なものとの断定ができず、その他にも明瞭な加工痕はみられない。素材の剥離軸を横に置くと、左右側縁が切り立った折れ面となっており、上辺および下辺に刃部と思われる鋭い縁辺がある。上辺、下辺の刃部には使用痕と思われる微細な剥離が認められる。平面形は方形を呈し、腹面は平たくそりが小さい。

#### (4) 振器（第30図・報告番号9・10）

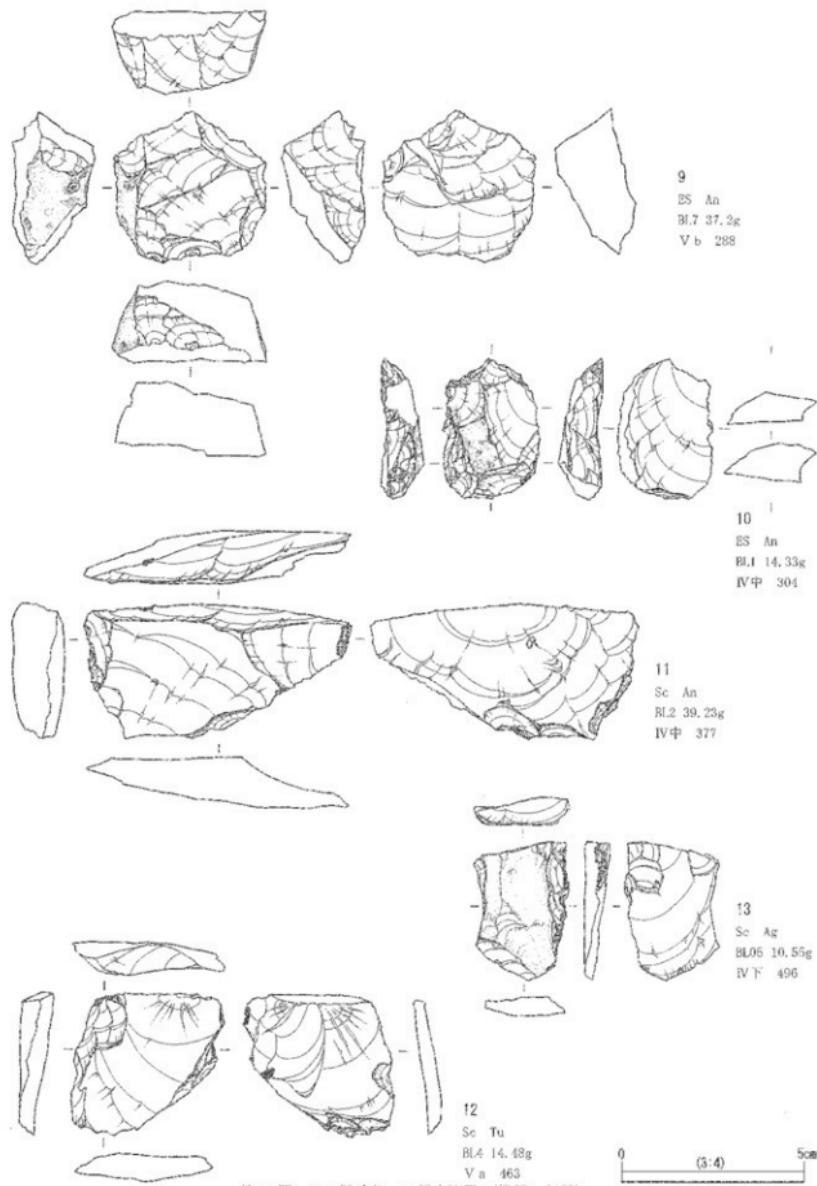
2点の振器が出土しているが、いずれも加工頻度が低く定形的な振器とはいえない。

9は無斑品質安山岩の分厚い剥片を素材としている。腹面上部の平坦な剥離は素材剥離時に打点付近が同時に剥離したもので2次加工ではないと思われる。素材の末端に数回の剥離を施して刃部を作出しているが、加工頻度は低く完成品とは考えにくい。平面形は五角形を呈し、断面形は甲高の台形を呈する。

10は無斑品質安山岩の剥片を素材としている。素材の打面は折れにより存在しない。素材末端の肩の部分に正方向の剥離を施して丸い刃部を作出している。実測図左下側縁が刃部で、左側縁ほぼ全体に刃部より粗い正方向の剥離が施されている。平面形は梅指状を呈するが、刃部の位置は一般的な拇指の先端からずれている。断面形はD字状を呈する。

#### (5) 削器（第30図・報告番号11～13）

3点の削器が出土している。いずれも刃部のみに加工が施されており定形的なものではない。



第30図 旧石器時代 石器実測図2(擗器・削器)

11は無斑晶質安山岩の剥片を素材としている。素材打面側が折れており現形状は横長を呈する。その傾辺にあたる左側縁上半部に正方向、下半部に半方向の平坦剥離を施して刃部を作出している。下辺にみられる反方向の剥離は右下辺が礫であることから、礫面に残されているひびによる剥離で、素材剥離時と同時と考えられる。

12は凝灰岩の貝殻状剥片を素材としている。素材は礫面を打面としており、石刃のような定形的なものとは異なる。素材の末端に反方向の平坦剥離を施して刃部を作出しているが、加工頻度が低く刃部でない可能性もあるうか。

13は飞鏃の横長剥片を素材としている。素材の打面側にやや角度のある正方向の剥離を施して刃部を作出している。この加工により打面は折除されている。他の削器と異なり加工頻度は高く、刃部は鋸歯状を呈している。

#### (6) 楔形石器（第31・32図・報告番号14～28）

楔形石器は15点検出されているが、11点が第3号ブロックに分布している。

14・16・20～24・26・27は風化面が灰白色の珪質頁岩製である。いずれも第3号ブロックに分布しており、母岩も同一あるいは同種と思われる。同一母岩の剥片類がほとんど見られないため、これらは単独で持ち込まれたと思われる。

14裏面はポジティブな剥離面だが、剥離の開始部が上端付近で、側縁の折れ面に切り勝つていてリング・フィッシャーも通常の剥離にみられる状態と異なることから、素材の主要剥離面ではないと思われる。上下両端の裏面に小さく平坦な2次剥離があり、わずかだが表面にも微細な2次剥離が認められる。

15の裏面は非常に平坦なため素材の主要剥離面ではないと思われる。上端には側面および裏面に極状剥離がみられるが、なぜかどの剥離にも剥離の開始部がない。下端には狭く切り立った平坦面があり、そこから裏面に微細および平坦な剥離がみられ、剥離の開始部には確かに潰れが認められる。

16は珪質頁岩の横長剥片を横に置き、縦長に素材を用いている。上下両端の表裏に平坦および微細な2次剥離が認められる。端部の潰れはみられない。

17は上下両端の表裏に平坦および微細な2次剥離があることから、素材の主要剥離面が確認できない。上下端は風化でややとろけているものの潰れは認められない。

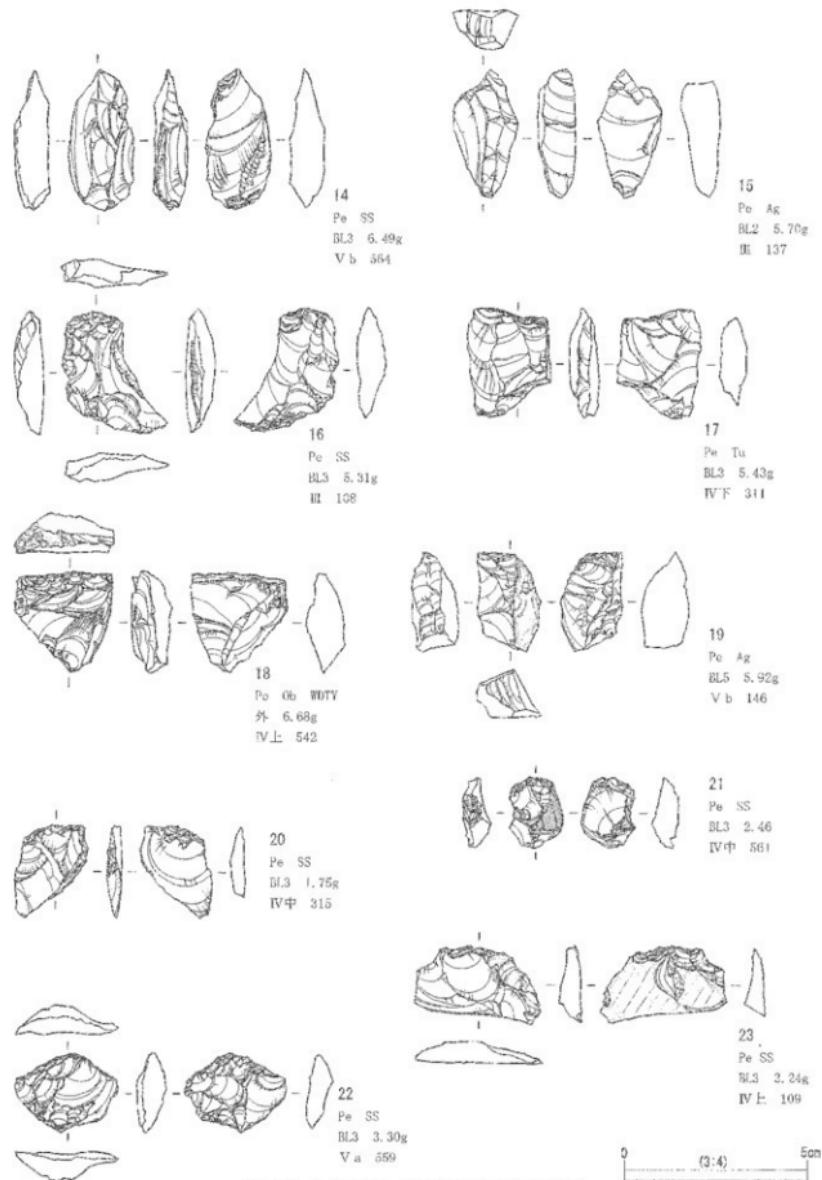
18は素材末端の切り立った礫面を上端としている。その礫面を打面として表面に平坦および微細な2次剥離が施されている。上端の剥離開始部は潰れている。下端方向からの平坦な剥離が裏面にあるが剥離開始部は欠損している。また、下端右下方向からの表面への平坦な剥離もみられる。上端の剥離が表面に偏る点や、下端がそれに対応しないなど典型的な楔形石器とはやや異なる性格を持つといえよう。

19は玉髓製で上下端からの剥離によりポジティブな面が切り取られているため素材が読み取れない。上端には表裏面に平坦および微細な2次剥離があり、その開始部は若干潰れている。下端方向からの平坦な剥離の末端は認められるが、下端は欠損している。器体は厚くごろっとした印象を持つ。

20の裏面はポジティブな面となっており、素材の主要剥離面の可能性が考えられるが、2次剥離の可能性も捨てきれない。上端表裏面に小さく平坦な2次剥離がみられ、下端は欠損している。器体は薄い。

21は表裏にポジティブな面がみられるが、裏面が切り勝っている。上下端には表裏に平坦および微細な2次剥離がみられる。これら2次剥離はやや表面に多く、開始部は潰れていない。その他に、左側縁にも多くの開始部が潰れた2次剥離が認められる。

22の裏面にポジティブな面があるが、素材の主要剥離面と断定できない。上下端の表裏に平坦および微細な2次剥離がみられるが、器体左側の剥離数は特に多く、上端と下端の剥離が肩部を介して連なっている。上端中央部付近に潰れが見られる。平面形は横長で隅丸のひし形を呈し、上下側面形は翼状を呈する。



第31図 旧石器時代 石器実測図3(楔形石器1)

23の表面左下にポジティブな剥離面があるが、素材の主要剥離面と断定できない。上端の表裏に平坦および微細な2次剥離がみられ、下端は欠損している。欠損のためか平面形は横長で、断面形は薄い。

24にはポジティブな剥離面が認められない。上端の表面に平坦および微細な2次剥離がみられるが、この中の一枚の剥離が裏面へ抜けているため、下端は存在しない。また、左右端にも対応する2次剥離部が存在する。右端は裏面には開始部が潰れた微細な2次剥離があり、左端裏面にも僅かだが微細な2次剥離が認められる。

25の裏面はポジティブな剥離面で素材の主要剥離面と思われる。下端折れ面以外にこの面を切る明瞭な2次剥離面がないため単なる剥片とする視点もあるが、線状の打面部に僅かな潰れが認められる点、背面頭部からの剥離末端にステップが目立つ点、主要剥離面に複数のバルブがみられる点から楔形石器と判断した。

26は上端部がわずかに残るのみである。上端は表裏に平坦および微細な2次剥離がみられる。

27の裏面はポジティブな剥離面で素材の主要剥離面と思われる。上端は25とよく似ている。下端裏面の切り立った2次剥離は一般的な楔形石器の加工と異なる。

28は黒曜石のやや横に長い剥片を縱長に置いている。上端の表裏に平坦および微細な2次剥離がみられ、端部はわずかだが潰れている。下端は折れ面で切り立っているが、折れた後の平坦な2次剥離が裏面にみられる。

#### (7) 石刃（第32～36図・報告番号29～58）

30点の石刃が出土している。第7号ブロックでは22点の石刃が検出されており、その他に石刃石核や多くの縦長剥片が検出されている。ここの石刃には打面調整、頭部調整、稜上調整等が認められる。石材は蓼科冷山群の黒曜石で、それ以外の産地群の黒曜石および、その他の石材の石刃は他の場所で製作されたものを持ち込まれたと考えられる。

37・42・43・45・49・53に打面調整が認められる。打面調整は背面の切り立っている方の剥離面より、打点付近に向かって平坦な剥離が施されている。また、37・42は無斑品質安山岩製、43・45は和田鷹山群の黒曜石製で形状も整っているため、いずれも素材もしくは製品として他の場所から持ち込まれたものと考えられる。ただし、53は蓼科冷山群の黒曜石の稜付剥片であり、遺跡内で製作されたものと思われる。

32・33・34・39・47・48・51・52・56・58に頭部調整が施されている。打面の最も厚くなる稜の部分に平坦な剥離を施して厚みを減じている。また、頭部調整が施されている石刃に明瞭な打面調整が認められない。調整により打面が狭くなっている影響も考えられるが、単剥離打面も目立つことから、打面調整と頭部調整は相反する関係にあることが想定できようか。

31・35・44・53・54・55は稜付剥片である。これらの存在により稜上調整がおこなわれていたことがうかがえる。

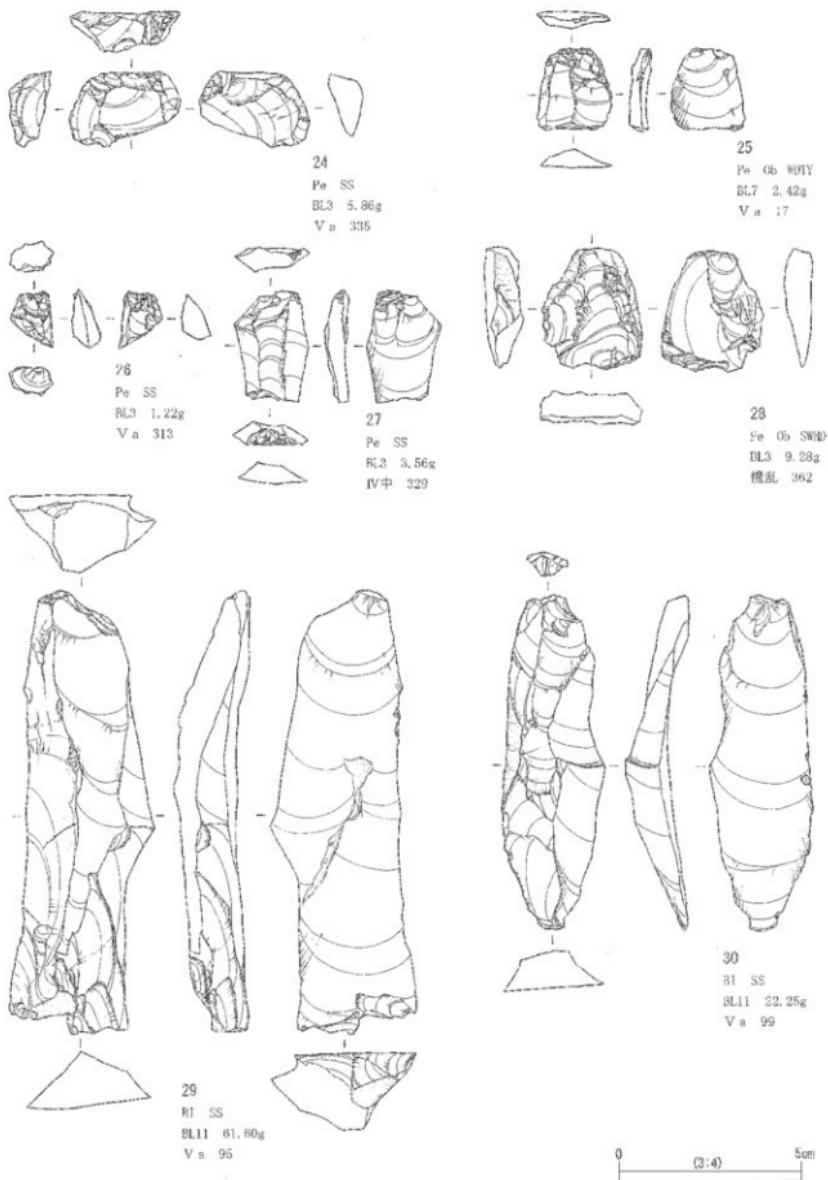
32・33・34・36・38の背面に主要剥離面と逆方向の縦長の剥離痕が認められることから、両設打面の石刃石核の存在が確認できる。

#### (8) 石核（第36～41図・報告番号59～74）

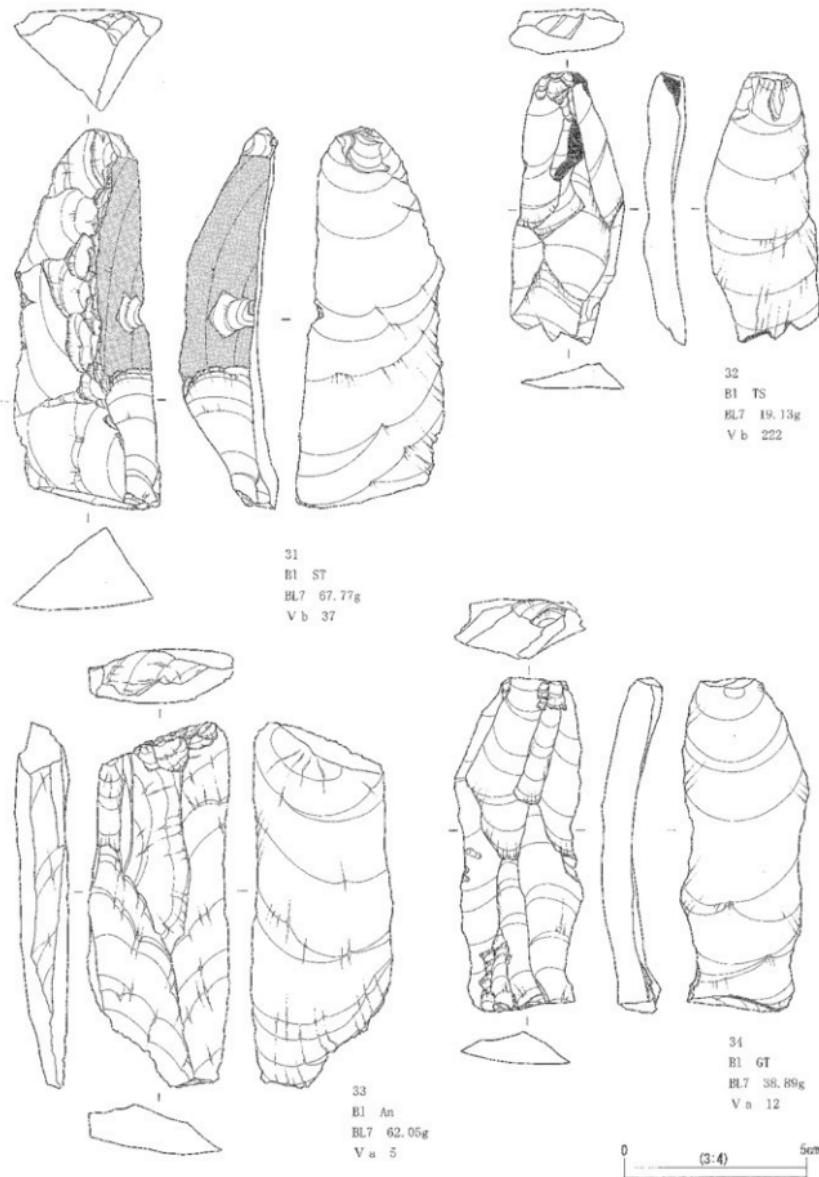
17点の石核が出土している。南西区には石刃石核が、北区には貝殻状剥片を目的とする石核が存在する。

59・61～65は黒曜石の石刃石核で、62が第9号ブロック、その他は第7号ブロックから検出されている。

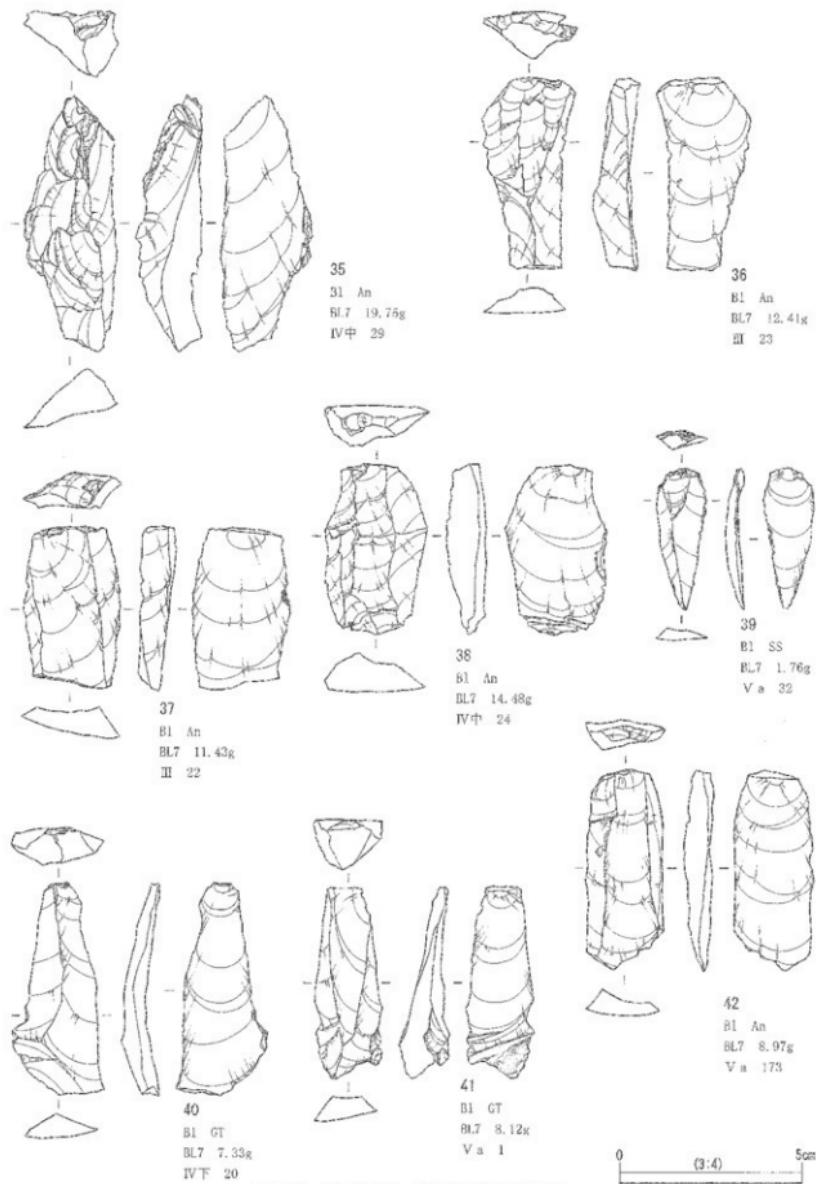
59の産地は和田鷹山群が推定されており、他の蓼科冷山群と異なる。また、他の石核が剥離が進行して小形化しているため、これ以上は有効な石刃が得られないと思われるのに対し、59は大きさもあり石刃石核としてのさらなる利用が可能なものと思われる。さらに、59にのみ打面調整および、主要作業面の背の部分の稜への調整が認められる。



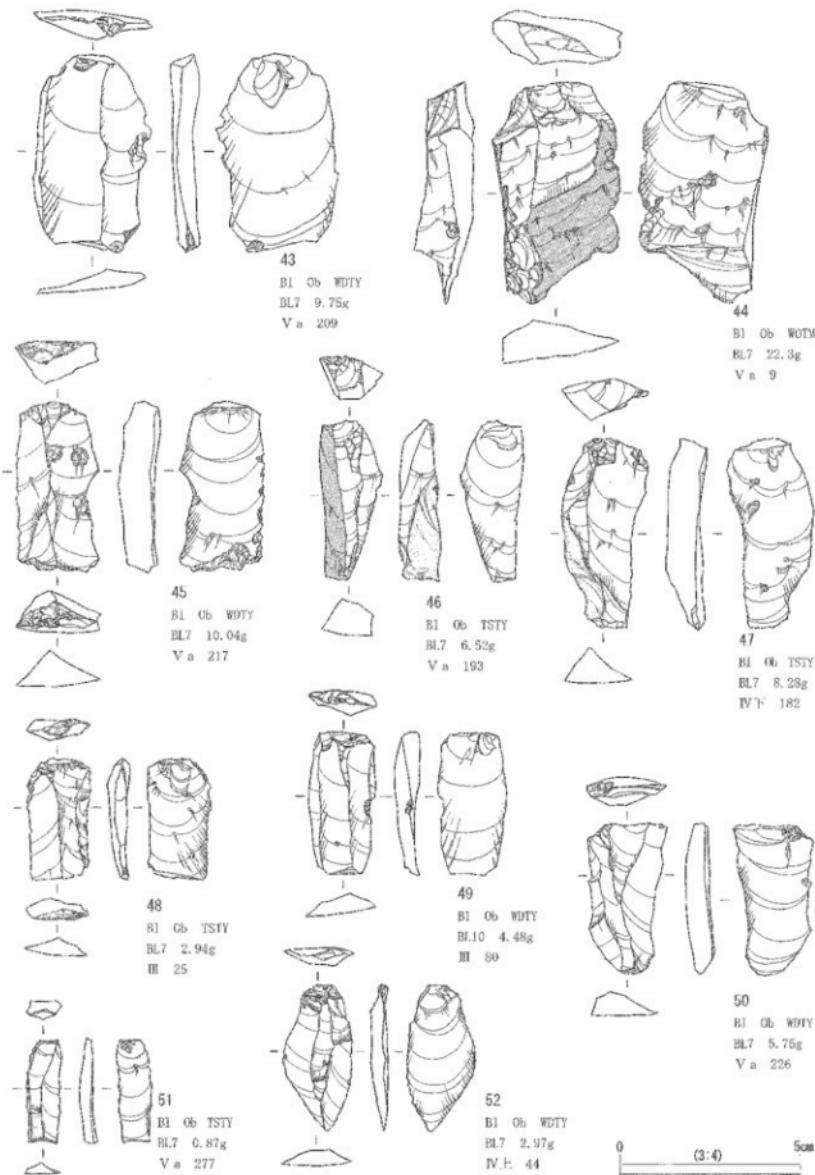
第32図 旧石器時代 石器実測図4(楔形石器2・石刃1)



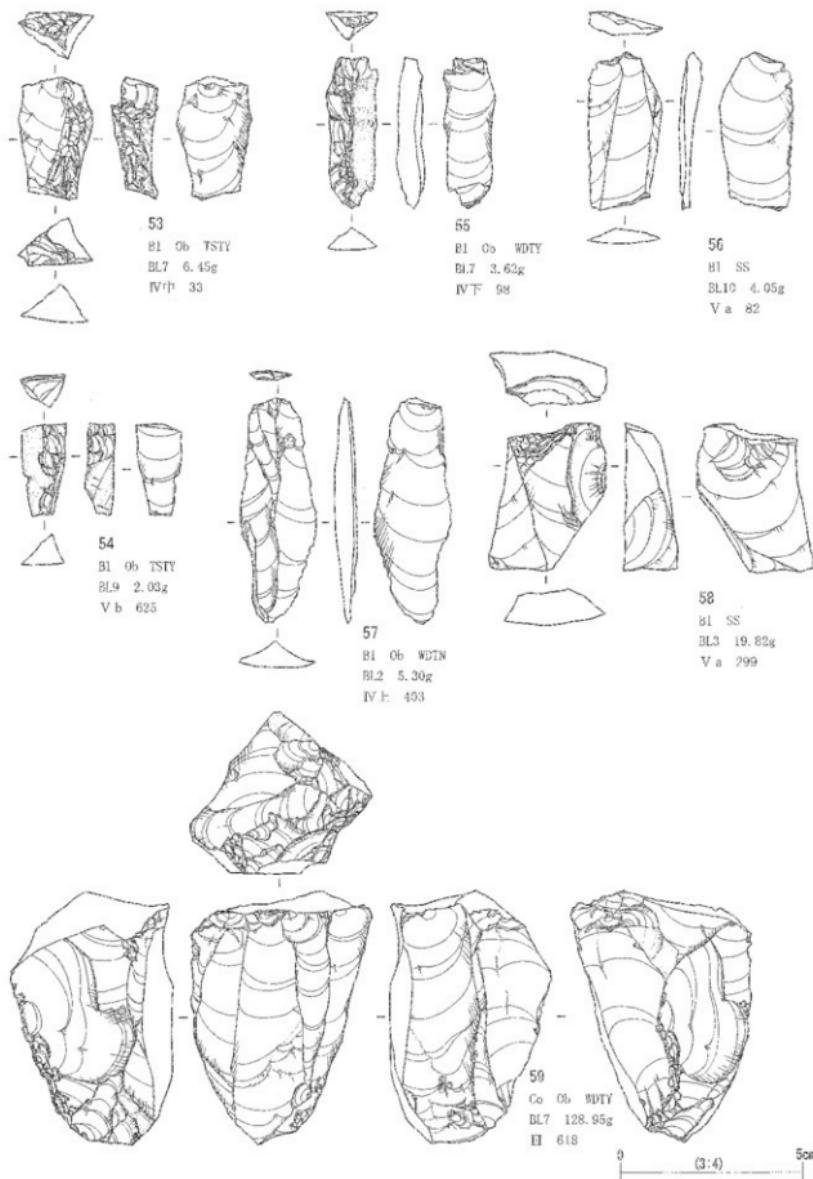
第33図 旧石器時代 石器実測図5（石刃2）



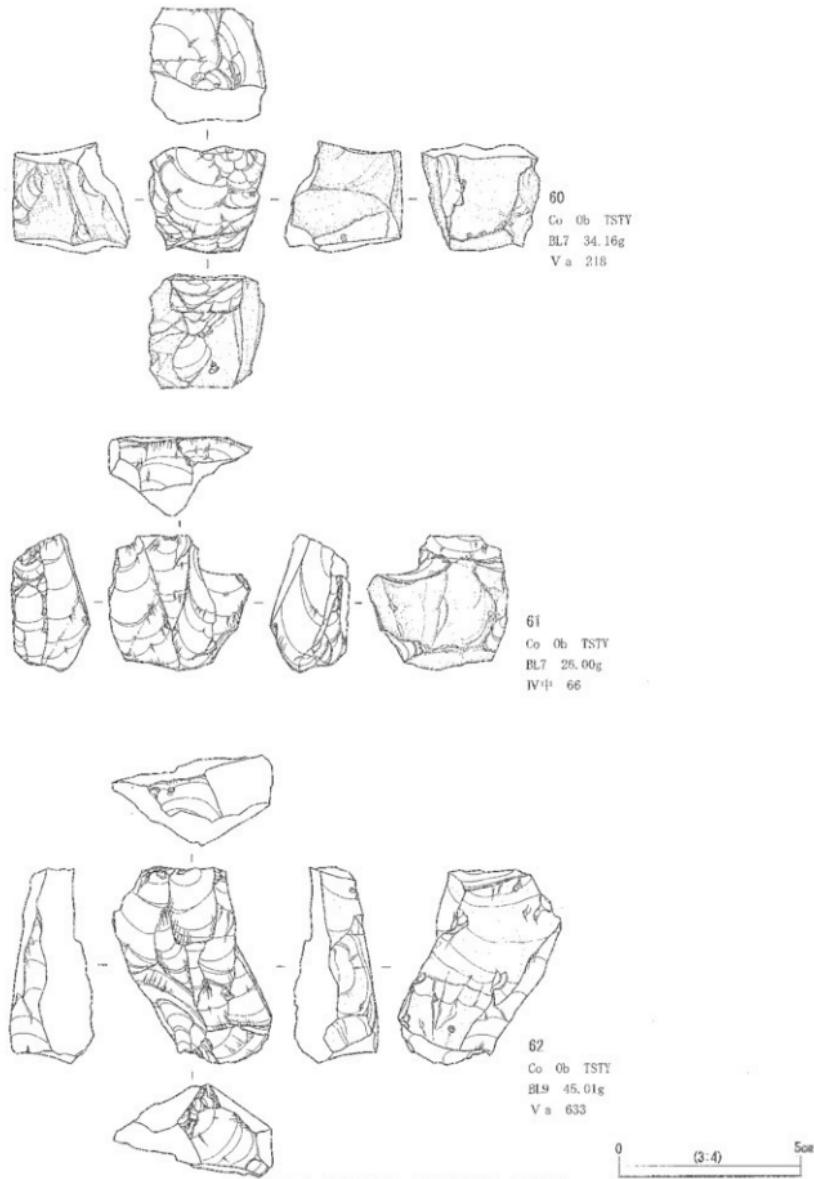
第34図 旧石器時代 石器実測図6(石刀3)



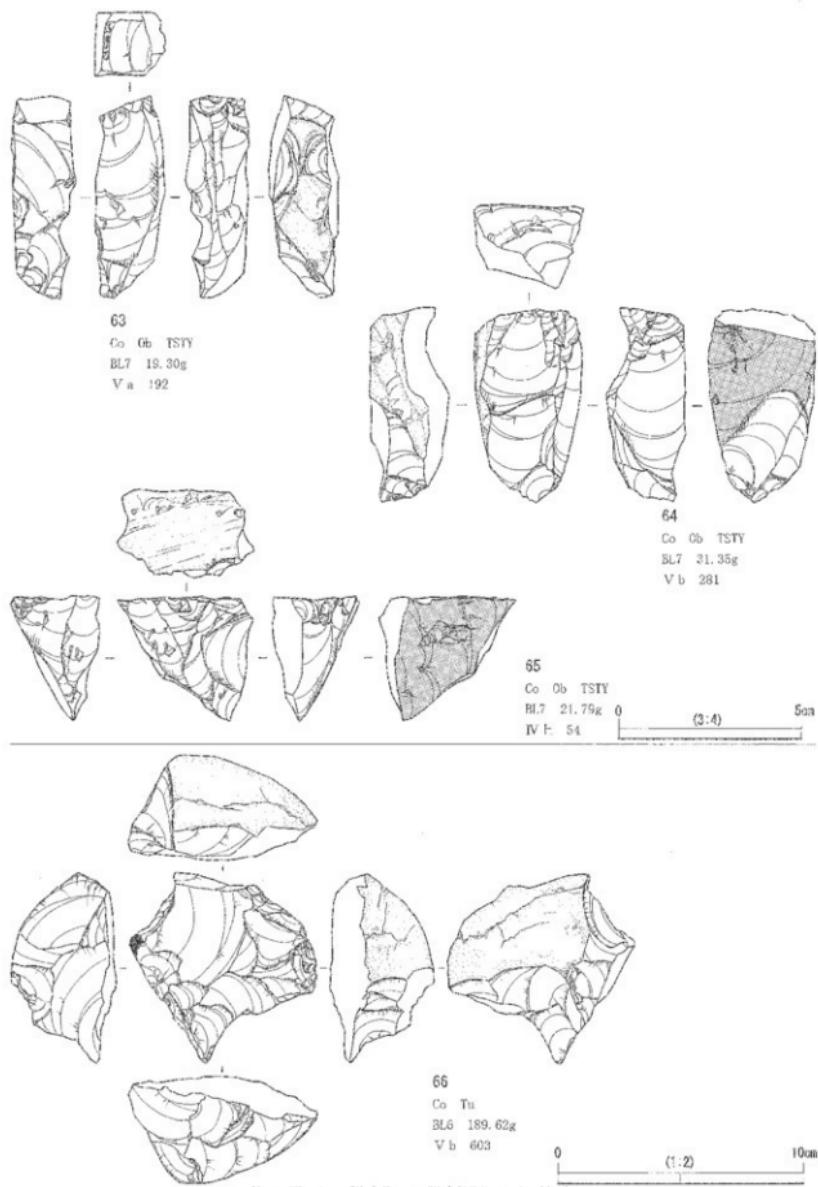
第35図 旧石器時代 石器実測図7 (石刃4)



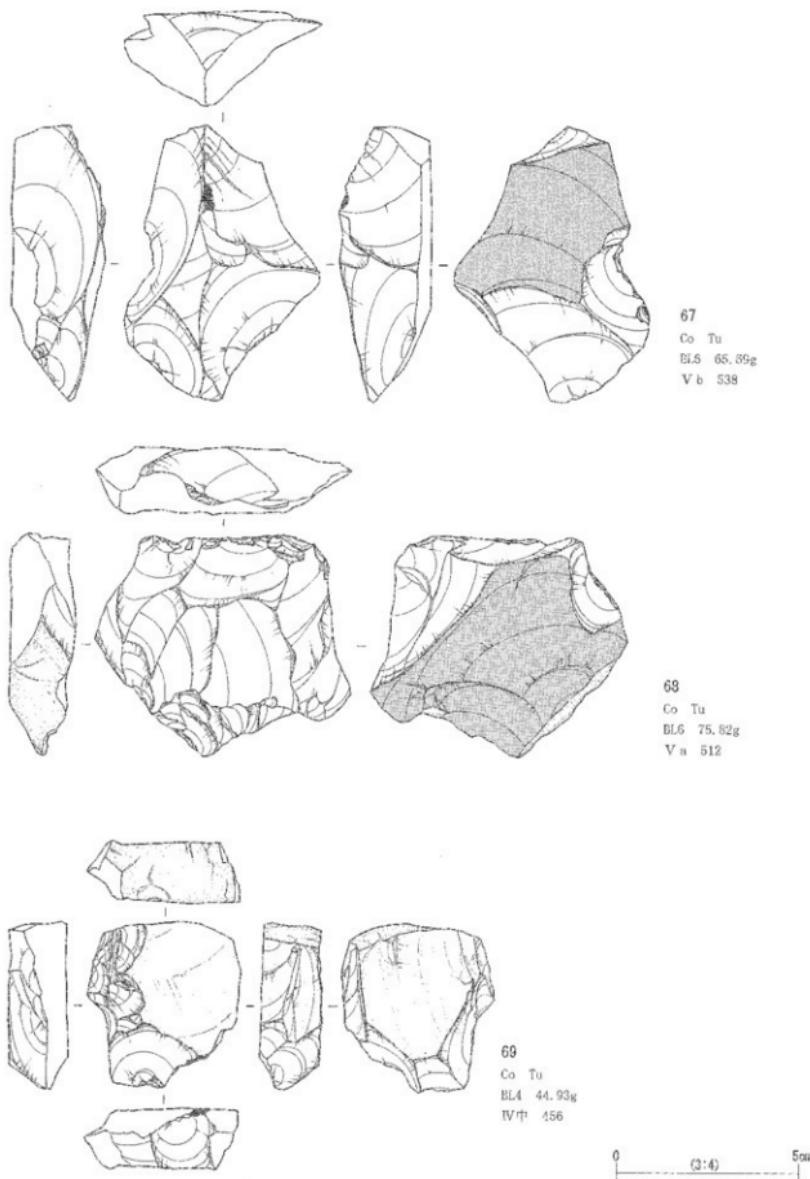
第36図 旧石器時代 石器実測図8 (石刃4・石核1)



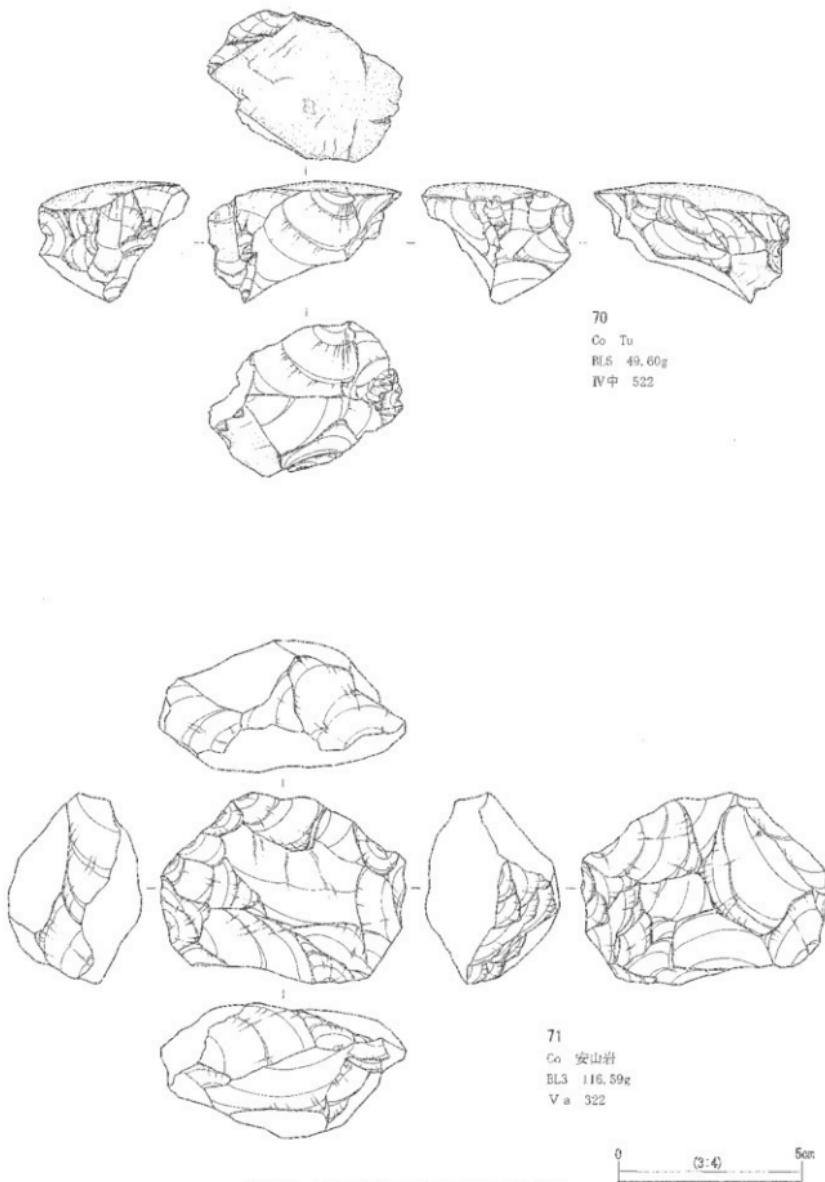
第37図 旧石器時代 石器実測図9 (石核2)



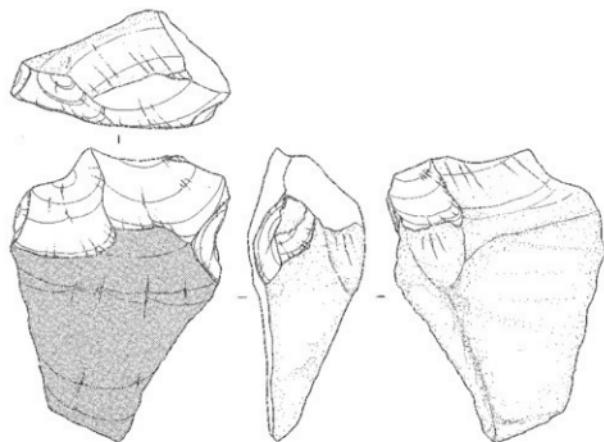
第38図 旧石器時代 石器実測図10 (継続3)



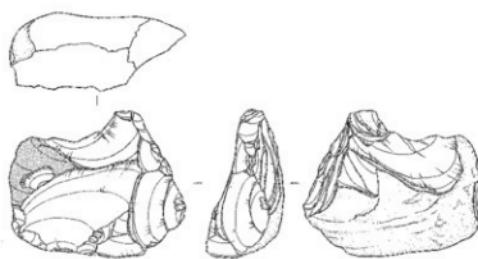
第39図 旧石器時代 石器実測図 11 (石核 6)



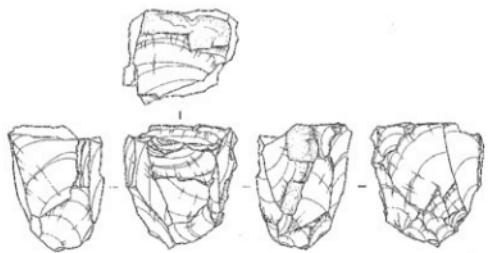
第40図 旧石器時代 石器実測図12 (石核5)



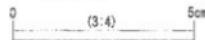
72  
Co 安山岩  
BL1 118.29g  
IV下 548



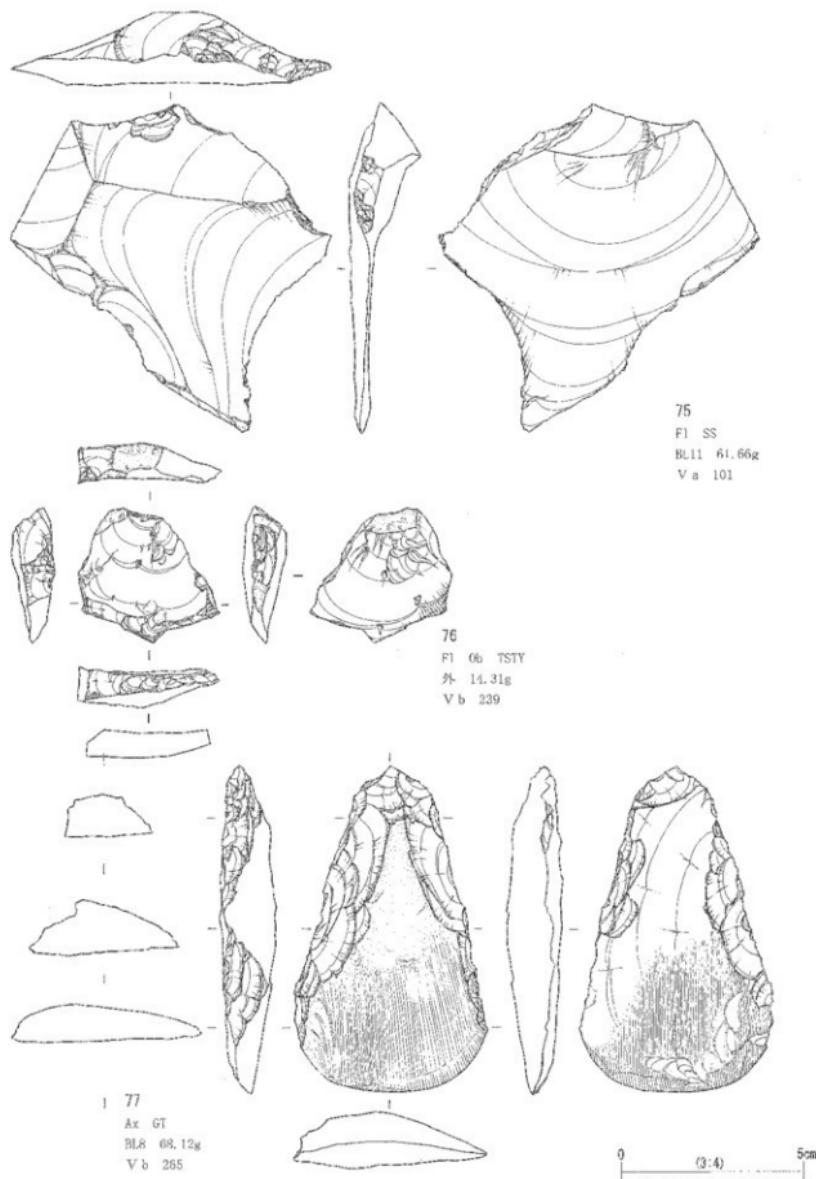
73  
Co SS  
BL2 37.30g  
III 444



74  
Co An  
BL2 28.57g  
IV上 414



第41図 旧石器時代 石器実測図13(石核6)



第42図 旧石器時代 石器実測図 14 (打面再生剥片・斧形石器 1)

61～65の打面には調整がない単剥離面もしくは平坦な礫面となっており、62～64は下面にも打面が設定される両設打面が認められる。頭部調整はさほど顕著ではないがどの石核にもみられる。64・65にはポジティブな剥離面が存在することから剥片を素材とした石核であることがうかがえる。

60はサイコロ状の石核だが目的的な剥片は得られていないようで、石核というより分割原石と表現すべきものかもしれない。

66～74は貝殻状剥片を剥離した石核で、いずれも北区から検出されている。剥片の形状、大きさに齊一性がなく、明確な目的形状がないことをうかがわせている。板状の分割礫および剥片が素材となり、作業面が1つの広面に固定され、縁辺を打点が横に移動して剥離が進行するものが主体となっている。明瞭な打面調整、頭部調整は認められないため、石核調整はほとんどないといえる。

#### (9) 打面調整剥片（第43図・報告番号75・76）

2点の打面再生剥片が出土している。いずれも石刃石核の打面再生剥片と思われる。なお、器種上の分類は剥片となっているため、組成表や分布図上の表現は剥片と同じなので注意されたし。

75は珪質頁岩製である。長さ、幅とも9cm弱と大形で打面全体が背面に取りきっていないため、打面はさらに大きく巨大な石核から剥離されたものと思われる。調査区内には同一母岩の石刃があるものの、剥片、碎片がないため石刃と共にこの状態で持ち込まれたものと思われる。打面に残っていたパンチコーンの影響のためか打点が明瞭ではない。

76は黒曜石製である。遺物取り上げ時に出土位置がわからなくなってしまったが、ほぼ遺物の並び順に取り上げ時の番号を付けていたため、第7号ブロックか第8号ブロックに属すると思われる。背面にはほぼ打面全体が取まっているが、パンチコーンもみられる。

#### (10) 斧形石器（第42・43図・報告番号77・78）

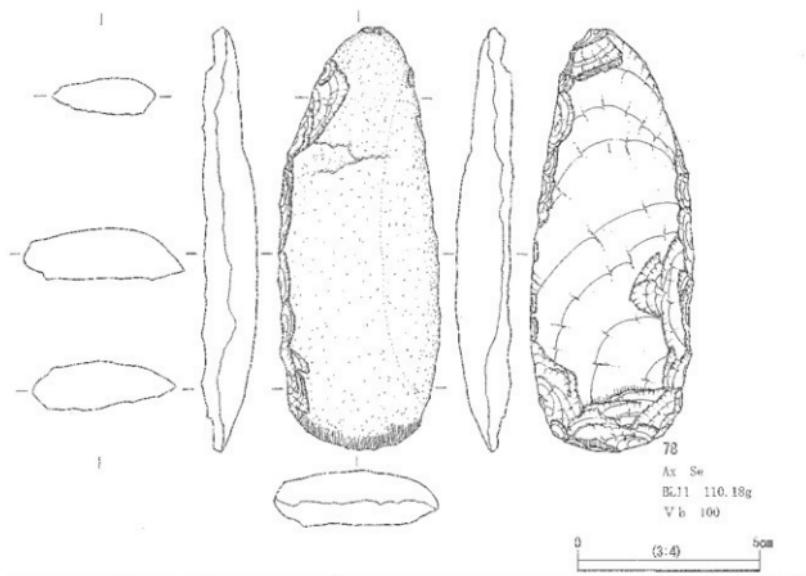
2点の斧形石器が出土している。

77は緑色凝灰岩の横長剥片を素材としている。素材を横に置き縦長に用いている。素材の打面側となる左側縁は、正方向の平坦な剥離が施され打面が除去されている。この剥離は厚みのためか剥離の収束部にステップが目立つ。その後反方向の小さく平坦な剥離により縁辺を直線的に整えている。右側縁は下半部は正方向のやや切り立った剥離が施されており、上半部は1枚の大きく平坦な剥離を施した後に、反方向の小さく平坦な剥離が施され、直線的な側縁が作出されている。刃部から肩部下半部には研磨が施されている。丁寧な研磨により、滑らかで鋭い刃辺が作出されている。

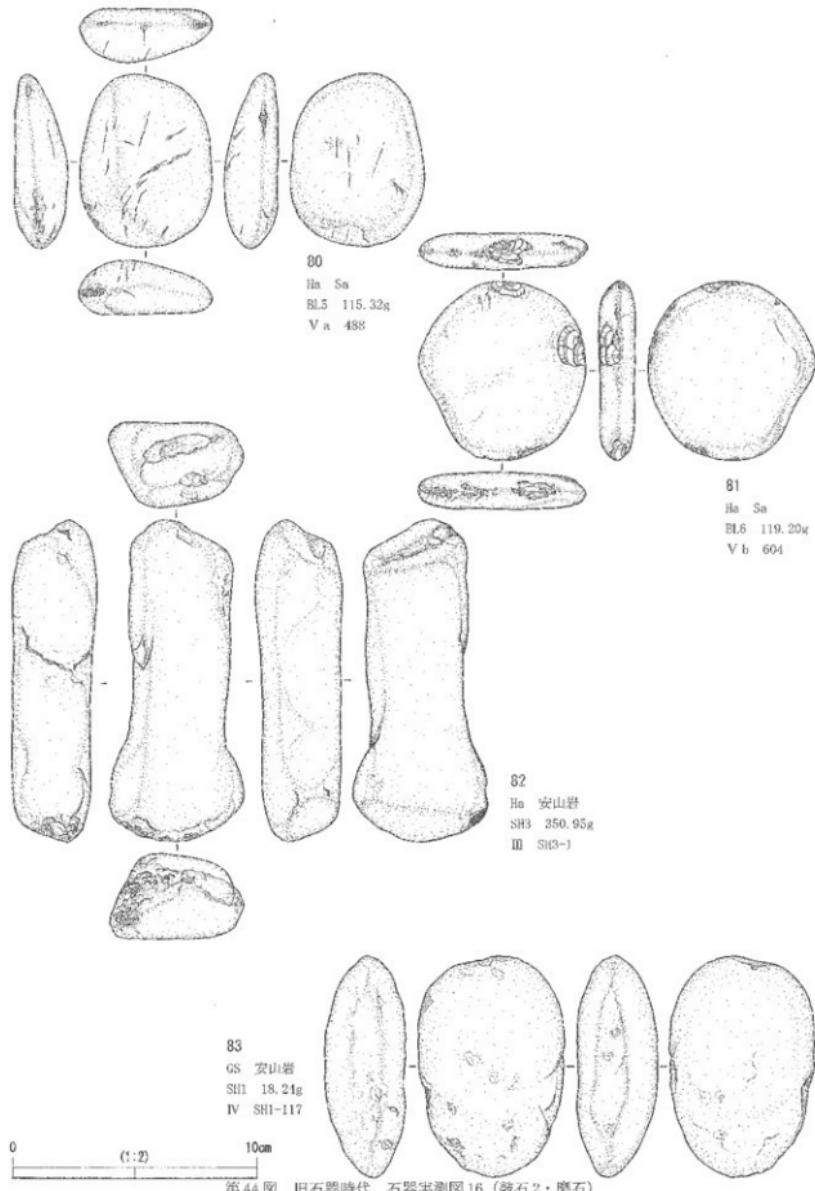
表面はほぼ全面礫面だったようで、礫面の持つ滑らかさを利用して研磨が施されている。研磨面と礫面は漸移的で明瞭な境目がない。裏面は素材の主要剥離面であり礫面ではなく、中央付近はわずかな凹面となっているが研磨がおよんでいる。刃部縁辺から5mm前後の範囲に研磨面同士による棱がみられる。刃部がより丁寧に磨かれているのだろうか。または、使用による刃部の研ぎなおしの結果であろうか。研磨方向は裏表とも刃部に対してほぼ垂直であるが、やや左上がりになる部分もみられる。研磨は基本的に剥離の後に施されており、明瞭に研磨面を切る剥離面はない。

平面形は最大幅が刃部近くにあり、基部が狭くなる左右対称の撥形をしており、横の断面形は表面が凸となるD字状を呈している。下面からの刃部縁辺は表面が凸となるゆるやかな弧状を示している。

78は蛇紋岩の横長剥片を素材としている。素材を横に置き縦に長く用いている。素材打面側の左側縁に正反方向の平坦な剥離を施そうとしているようだが、厚みのためか剥離は内面まで達せず、短くステップで収束しているものが多いために切り立っている。右側縁は反方向の小さく平坦な剥離が施されている。



第43図 旧石器時代 石器実測図 15 (斧形石器 2・敲石 1)



第44図 旧石器時代 石器尖突圖16 (敲石2・磨石)

表面は前面滑らかな穂面で、その滑らかさを利用して研磨が施されているが、研磨範囲は刃部縁辺から数mmの幅と狭い。裏面は全面剥離面となっているが、刃部付近にわずかに研磨面がみられる。この研磨面は刃部縁辺からの微細な剥離に切られている。また、刃部方向からの平坦な剥離のステップ状の収束部の上にも狭い研磨面が認められる。おそらくもともと研磨面があったが、刃部再生のため研磨面が狭くなってしまったものと思われる。平面形は左右対称で基部幅がやや狭いが、最大幅は中央付近にある楕円形と短圓形の中間的な形を呈している。断面形は表面が凸となるD字状を呈している。

#### (11) 敗石 (第43・44図・報告番号79~82)

5点の敗石が出土しているが、いずれも北区から検出されている。

79はチャートの円盤を用いている。長軸の端部および胴部中央付近に敲打痕が集中している。端部の敲打部には面ができるおり、胴部の敲打部は凹石のようにくぼんでいる。敲打痕の周辺には線状の傷が無数に残されている。よく観察すると端部および胴部の敲打部内部にも線状の傷が無数にあり、敲打痕の最小単位は解状の傷で、その集合体が敲打部となっていると考えられる。そのため、一般的なハンマーストーンとされている敗石とは性格が異なる。79が検出された第3号ブロックは楔形石器が11点集中している。線状の傷の大きさはまさに楔形石器のあたりによってできる傷の大きさと一致しているように思われる。したがって、この敗石は楔形石器の使用もしくは製作時のハンマーおよび台石のような機能があったと推定される。

80・81は平面形が円形を呈する砂岩の扁平な円盤を用いている。その外縁に敲打痕が確認できる。80の使用頻度は低いようで敲打痕は少なく明瞭ではない。

82は棒状の多孔質の安山岩を用いている。端部に敲打痕が集中しており、第3号礫群から検出されている。

#### (12) 磨石 (第44図・報告番号79~83)

1点の磨石が出土している。83は第1号礫群から検出されている。扁平な円盤を用いており、胴部に使用によると思われる棱がみられる。しかし、石器表面はざらざらに風化しており、磨面は明瞭ではない。

## 2 石材・母岩分類

石材・母岩分類作業は碎片・敗石・磨石を除くすべての石器を対象としておこなった。その結果12石材72母岩に分類された。各母岩の分類基準を第16表に示した。次に石材ごとの特徴と母岩分類状況等を記述する。

#### (1) 黒曜石

黒曜石は特徴のある岩石のため他の石材との分類は容易だったが、母岩の分類は造物数が多く個体差がありないためにきわめて困難であった。そのため、母岩分類作業は1母岩1個体のレベルまでおよそ達することができなかつた。また、産地推定をおこなっているが、作業順序は母岩分類が先で、産地推定を後におこなつたため第17表のように1母岩に複数の産地が含まれる結果となつていて。

母岩1は大半が蓼科冷山群となっている。蓼科冷山群の黒曜石は小さな球顆が特徴的で肉眼でも比較的容易に分けることができるが、少量だが、和田鷹山群と和田高松沢群が混じってしまった。その理由には和田鷹山群の黒曜石は球顆のない質の良いものから、球顆のある質の悪いものまであり、あらゆる顔つきの黒曜石があること。和田高松沢群は一般的に出回ることが少なく、球顆の多い特徴が蓼科冷山群に似ているため少數で遺跡内にある場合に抽出することが難しい点等があげられる。

同様に和田岬、星ヶ崎周辺の和田鷹山群や和田小瀬沢群と星ヶ崎、星ヶ台のある諏訪星ヶ台群はよく似ており、肉眼による分類は難しく精度が低い。ただし、同一産地群内の黒曜石でも異なる顔つきの黒曜石が多種あり、それは蛍光X線を用いた産地推定で分けることができないため、肉眼での分類にたよるしかない。

組合番号	遺物番号	出土地點	地層	種類	形質	出土地点	発見番号	組合番号	長さcm	幅cm	高さcm	直角x	直角y	直角z	Y座標	Z座標	傾斜
1	188 BL7	下	Kn	Ob		4	9	27	21	3	2.62	88027.432	-2447.086	660.188			
1	199 BL7	Va	Kn	Ob	WSTY	2	9	24	21	3.4	2.75	88027.290	-2447.052	660.138			
2	519 BL6	裏	Kn	Ob	DEND	4	42	18.5	10.6	3.48	88051.255	-2440.048	660.641				
3	349 BL3	裏	Kn	Ob	SHRD	3	26	9	2.7	6.63	88051.385	-2446.539	660.734				
4	219 BL7	Va	Tr	Ob	TSTY	6	40	24.5	3	6.07	88028.738	-2446.519	658.948				
5	272 BL7	Va	Tr	ST		72	46	25	9.7	0.54	88024.768	-2447.858	660.143				
6	561 BL5	W/T	Tr	Ob	SMD	13	27.5	20	6.2	2.51	88044.177	-2441.409	660.302				
7	190 BL7	Va	Tr	Gh		57	33	17.5	8.8	5.38	88028.681	-2446.764	660.648				
8	194 BL5	Va	Tr	SS		37	31	25	8	7.71	88057.820	-2447.390	660.860				
9	293 BL7	Vb	Es	An		16	41	42	17.3	27.79	88027.849	-2446.1761	657.796				
10	304 BL1	W中	Es	An		17	43	26.5	11.18	14.33	88056.846	-2447.158	660.694				
11	277 BL2	W中	So	An		17	37	73	19	19.29	88056.876	-2446.728	660.751				
12	463 BL4	Va	So	Tu		22	41	42	5.5	14.48	88047.740	-2445.297	660.313				
13	496 BL5	W/T	So	Ag		47	41	32	8	10.55	88050.165	-2445.449	660.414				
14	544 BL3	Vb	Ps	SS		31	38	17.5	6.5	6.49	88051.576	-2446.970	660.382				
15	127 BL7	B	Ps	Ag		46	24.5	10	19.29	5.70	88054.285	-2445.726	660.831				
16	100 BL3	B	Ps	SS		31	33.5	20	7.5	5.31	88052.638	-2446.859	660.721				
17	311 BL2	d/T	Tu			30	30	23	7.8	5.43	88050.598	-2447.162	660.415				
18	542 BL5	W/T	Ps	Ob	WSTY	1	27.5	27	11	6.08	88048.207	-2446.007	660.308				
19	146 BL5	Vb	Ps	Ag		40	27	17	13.2	5.92	88048.991	-2445.911	660.223				
20	315 BL1	W/T	Ps	SS		31	25	20	4.5	1.75	88051.058	-2447.250	660.549				
21	541 BL3	W中	Ps	SS		31	24	14.5	7.4	2.46	88050.644	-2446.876	660.557				
22	519 BL3	Va	Ps	SS		31	22	28	7.3	2.30	88050.693	-2446.106	660.402				
23	109 BL3	W上	Ps	SS		31	21	24	5.5	3.24	88051.461	-2446.695	660.654				
24	335 BL2	Va	Ps	SS		33	20.5	20.5	12	5.86	88051.853	-2446.169	660.446				
25	17 BL7	Va	Ps	Ob	WSTY	5	23	20	6	2.42	88026.887	-2446.231	653.825				
26	313 BL3	Va	Ps	SS		31	16	12	7.3	1.22	88050.546	-2447.329	660.418				
27	329 BL2	Va	Ps	SS		31	30	20	6	3.58	88049.246	-2446.672	660.533				
28	362 BL2	壁	Ps	Ob	SMD	5	32	28	16	8.28	88052.177	-2446.055	660.671				
29	565 BL1	Va	Bi	SS		37	121.5	40	17	61.68	88019.887	-2444.882	660.042				
30	99 BL11	Va	Bi	SS		32	91	28	10.3	22.25	88020.026	-2444.100	659.398				
31	37 BL7	Vb	Bi	ST		71	104.6	40	21	67.77	88023.790	-2448.191	657.570				
32	222 BL7	Vb	Bi	Ts		88	74	31	11	18.13	88025.965	-2443.412	655.860				
33	53 BL7	Va	Bi	An		15	100	39.5	11	62.65	88023.545	-2444.557	659.842				
34	12 BL7	Va	Bi	GT		54	91.5	35.5	16.4	38.89	88023.854	-2442.889	659.231				
35	25 BL7	Va	Bi	An		16	70	25.5	11.2	19.75	88025.885	-2446.118	659.160				
36	23 BL7	B	Bi	An		15	53	25.5	11.4	17.41	88027.177	-2448.149	660.231				
37	22 BL7	B	Bi	An		15	44.5	27	11	11.43	88027.102	-2446.160	659.211				
38	244 BL7	W/T	Bi	An		15	46.5	28	11	14.48	88027.137	-2446.019	659.166				
39	22 BL7	Va	Bi	SS		39	88.5	14	4	1.76	88025.337	-2446.800	650.108				
40	30 BL10	B	Bi	GT		24	54	25	7.5	2.94	88026.560	-2446.256	660.073				
41	7 BL7	Va	Bi	GT		24	52	16	12	8.12	88025.034	-2445.914	659.772				
42	170 BL7	Va	Bi	An		15	55	22	7	2.97	88023.647	-2447.624	660.674				
43	269 BL2	Va	Bi	Ob	WSTY	3	55	23	2	3.76	88027.558	-2446.076	660.659				
44	219 BL2	Va	Bi	Ob	WSTY	1	53	24	33	22.29	88023.235	-2443.899	655.855				
45	217 BL2	Va	Bi	Ob	WSTY	3	47	24	27	10.64	88026.381	-2448.152	659.197				
46	180 BL2	Va	Bi	Ob	TSTY	1	44	19	8	6.52	88025.919	-2447.282	658.998				
47	162 BL2	Va	Bi	Ob	TSTY	2	52	24	16	8.28	88025.155	-2447.010	650.222				
48	25 BL2	X	Bi	Ob	TSTY	1	33.5	17.5	5	2.94	88026.560	-2449.521	660.306				
49	80 BL10	B	Bi	Ob	WSTY	4	40	19	6	4.48	88023.249	-2447.724	660.422				
50	234 BL2	Va	Bi	Ob	WSTY	2	42	22	2	1.75	88026.091	-2446.152	655.569				
51	177 BL2	Va	Bi	Ob	TSTY	1	29	10	4	8.87	88025.496	-2447.249	660.014				
52	44 BL2	W/T	Bi	Ob	WSTY	8	40	19	5	2.97	88023.972	-2446.058	654.185				
53	32 BL2	W中	Bi	Ob	TSTY	2	33	20	5.5	4.45	88025.351	-2449.197	654.165				
54	625 BL2	Vb	Bi	Ob	TSTY	1	25	13	2	3.03	88026.516	-2448.216	656.194				
55	98 BL2	W/T	Bi	Ob	WSTY	5	41	15	4	3.82	88022.944	-2447.350	654.218				
56	82 BL10	Va	Bi	Ob	TSTY	30	43	20	4.4	4.09	88021.491	-2447.946	660.793				
57	482 BL2	W上	Bi	Ob	WSTN	4	61	22	6	5.20	88021.143	-2449.800	654.445				
58	239 BL2	W上	Bi	Ob	TSTY	31	42	37	16	18.82	88005.877	-2447.576	654.302				
59	618 BL2	Co	Ob	WSTY	13	58.5	49	49	13.95	88029.050	-2444.312	653.818					
60	218 BL2	Va	Co	Ob	TSTY	1	37	26	31	2.75	88027.447	-2446.070	655.376				
61	350 BL2	W/T	Co	Ob	TSTY	2	30	22	25.00	6.45	88023.532	-2447.582	660.281				
62	423 BL2	Va	Co	Ob	TSTY	1	50	45	34	45.01	88025.560	-2447.040	660.215				
63	192 BL2	Va	Co	Ob	ESTY	2	64	20	18	15.29	88025.444	-2447.163	650.41				
64	236 BL7	Vb	Co	Ob	ESTY	1	52	39	22	31.25	88025.305	-2447.043	651.944				
65	54 BL2	W/T	Co	Ob	TSTY	1	34	31	22	21.73	88025.640	-2447.056	650.299				
66	449 BL2	Vb	Co	To		21	76	74	44	16.92	88025.162	-2446.547	650.103				
67	530 BL2	Vb	Co	To		21	76	84	21	3.69	88048.346	-2447.123	660.191				
68	512 BL4	Va	Co	To		26	60	79	16	76.82	88060.113	-2444.712	660.262				
69	495 BL4	Va	Co	To		29	44	49	17	44.93	88022.197	-2444.749	660.069				
70	522 BL5	W中	Co	To		25	32	89	34	49.60	88025.322	-2443.801	658.479				
71	322 BL3	Va	Co	To		46	51	47	34	116.97	88025.552	-2446.771	660.118				
72	540 BL2	Va	Co	Ag	安山岩	48	86	65	32	118.29	88015.490	-2447.218	660.631				
73	444 BL2	Va	Co	Ob	SS	35	46	49	15	37.59	88024.956	-2445.485	660.337				
74	414 BL2	Va	Co	An		14	34	31	24	28.57	88024.335	-2446.380	660.279				
75	101 BL1	Va	Co	Ob	TSTY	32	49	47	16.4	61.05	88022.235	-2447.552	659.918				
76	239 BL2	Vb	Co	To		28	40	41	14	14.31	88022.641	-2447.275	660.580				
77	245 BL5	Vb	Co	Ob	TSTY	59	89	52.5	10.2	66.12	88022.641	-2447.275	660.580				
78	100 BL11	Va	Co	Ob	Ta	49	116	45	12	110.18	88015.977	-2444.916	655.610				
79	231 BL2	Vb	Co	Ob	Ta	58	76	54	43	29.46	88025.719	-2446.524	660.426				
80	439 BL5	Va	Co	Ob	Ag	64	71	55	22	115.32	88047.784	-2446.456	660.233				
81	604 BL5	Vb	Co	Ob	Ag	65	79	69	19	119.20	88051.101	-2444.744	660.22				

第10表 石器属性表1

遺物番号	出土場所	地層	形態	基盤	出土地点	保管番号	実寸径	幅mm	厚mm	重さg	X座標	Y座標	1周辺	南北
37		基	石	火山岩		61	133	55	36	350.36	88240.980	710	610.546	
33	147.241	基	石	安山岩	30	61	34	40	33	330.24	88257.845	-24447.500	560.589	
48.0.7	野原	石	安山岩	Terr	1	35	43	8	4.03	88216.125	-24476.847	860.238		
150.DL2	野下	石	Tu		47	37	65	19	29.93	88266.248	-24460.501	560.688		
151.DL3	野下	石	安山岩		49	37	53	9	12.10	88261.715	-24460.539	560.517		
152.外	野上	石	Terr		8	16	29	2	1.51	88265.027	-24461.047	560.698		
141.34.4	野上	石	Ch		54	58	36	41	29.67	88248.785	-24452.124	560.574		
154.DL6	V.S.	石	SAND		4	34	34	12	16.73	88253.195	-24442.547	560.317		
129.DL7	V.S.	石	SYNT		2	70	49	15	33.31	88217.670	-24410.103	559.059		
124.DL3	V.S.	石	SAND		5	18	11	5	0.77	88252.285	-24476.249	560.475		
284.M2	V.S.	石	AS		32	107	51	21	62.35	88265.165	-24462.307	560.464		
59.DL2	V.S.	石	SYNT		6	31	16	8	1.00	88254.315	-24507.101	560.216		
115.DL7	IE	石	SYNT		4	21	31	6	5.32	88208.495	-24405.755	559.036		
150.DL7	V.S.	石	Terr		2	30	30	10	6.07	88214.193	-24402.087	560.523		
179.DL4	V.S.	石	AS	SYNT	45	31	40	29	39.35	88252.614	-24521.147	560.350		
3.18.L1	V.S.	石	SYNT		1	13	26	5	2.59	88273.595	-24406.529	559.049		
4.18.L7	V.S.	石	SYNT		5	13	14	2	0.46	88223.259	-24485.249	560.419		
7.DL7	野下	石	An		16	26	18	10	5.47	88221.170	-24484.252	560.526		
4.0.7	野下	石	SYNT		5	36.9	18.3	8.4	2.50	88232.261	-24484.101	559.940		
10.DL7	野	石	風化		6	24.4	18.2	5.1	2.69	88232.495	-24401.700	560.211		
14.DL7	野	石	SYNT		3	16.5	6.4	5.5	0.76	88224.331	-24482.755	560.612		
15.0.7	野	石	An		15	42	28	5.1	9.79	88234.427	-24403.193	560.132		
16.0.7	野	石	Tu		27	35	18.0	3.8	9.75	88242.625	-24484.055	559.029		
19.0.7	野上	石	SYNT		1	26.2	17	4.6	6.82	88215.285	-24482.759	560.058		
21.0.7	野上	石	SYNT		5	18.6	11.7	3.4	0.54	88207.381	-24482.760	560.168		
26.DL7	野上	石	An		58	62	27	21	13.56	88265.679	-24450.752	560.179		
27.DL7	野	石	SYNT		1	23.7	13	3.8	1.05	88202.169	-24481.479	560.271		
28.0.7	野中	石	An		59	36.6	54.9	8.5	19.24	88265.911	-24481.704	560.125		
30.DL7	野	石	SYNT		1	19.1	13.6	4.0	0.03	88205.600	-24481.310	560.308		
31.DL7	野上	石	SYNT		3	28.2	28	9.1	6.95	88205.713	-24481.417	560.153		
34.DL7	野点	石	SYNT		1	25.9	11.9	2.6	0.62	88205.819	-24480.792	560.226		
35.DL7	野上	石	An		15	34	23	5.7	5.49	88224.704	-24482.404	560.156		
36.DL7	野	石	SYNT		1	19.4	14.5	5.2	0.96	88201.586	-24480.491	560.423		
37.DL7	野上	石	SYNT		6	18.9	40.4	9.2	3.35	88212.545	-24482.610	560.192		
39.DL7	野	石	SYNT		2	21.5	16.1	7.0	2.25	88202.632	-24482.476	560.205		
45.DL7	V.S.	石	SYNT		1	28.1	16.7	2.2	1.72	88215.149	-24473.347	560.021		
47.DL7	野下	石	SYNT		2	24.5	22.5	5.5	3.45	88202.589	-24479.955	560.121		
49.DL7	野	石	SYNT		1	21.2	11.2	1.9	6.42	88225.287	-24471.161	560.248		
50.DL7	野中	石	SYNT		1	19.8	8.0	0.51	0.91	88225.732	-24473.473	560.259		
51.DL7	V.S.	石	SYNT		2	24.7	14.0	3.6	1.46	88210.241	-24486.059	560.151		
52.DL7	野下	石	SYNT		1	16.5	15.5	2.6	0.95	88205.667	-24472.255	560.228		
53.DL7	野下	石	SYNT		1	18.3	19.5	3.1	0.96	88226.133	-24472.915	560.217		
55.DL7	野上	石	SYNT		1	41	18.5	2.0	5.56	88225.250	-24476.142	560.214		
57.DL7	野上	石	SYNT		1	6.5	16.7	2.2	0.57	88205.290	-24476.937	560.290		
58.DL7	野	石	SYNT		1	46.8	26.4	7.5	6.64	88202.519	-24478.917	560.416		
59.DL7	野	石	SYNT		2	43.2	28	9.2	6.42	88222.690	-24476.339	560.308		
61.DL7	野中	石	SYNT		1	16.4	20.8	2.7	1.54	88222.674	-24479.150	560.324		
62.DL7	野	石	SYNT		2	22.2	8.5	2.5	0.56	88202.947	-24476.030	560.426		
65.DL7	野下	石	SYNT		2	13.5	7.1	2.1	1.92	88203.281	-24477.679	560.255		
67.DL7	V.S.	石	SYNT		1	37.3	26.5	4.9	5.03	88224.029	-24472.927	560.151		
68.DL7	V.S.	石	SYNT		1	24.7	16.7	1.6	1.65	88274.307	-24471.957	560.152		
71.DL7	野上	石	An		19	52.1	33.5	17	25.48	88224.040	-24477.171	560.321		
72.DL7	野中	石	SYNT		5	25.6	37.2	10.6	6.03	88224.170	-24477.205	560.171		
74.DL7	V.S.	石	SYNT		1	14.5	10.2	4.4	0.52	88214.820	-24477.511	560.205		
75.DL7	野下	石	SYNT		2	48.7	18.9	3.1	9.07	88205.062	-24477.630	560.259		
77.DL7	野下	石	SYNT		1	72.0	9.9	2.5	0.64	88216.816	-24477.325	560.544		
78.5.10	野	石	SYNT		1	28.7	18.8	6.1	2.59	88223.646	-24475.549	560.472		
81.9.10	野上	石	SYNT		4	12.9	13.2	4.4	0.55	88201.362	-24476.465	560.381		
82.6.10	V.S.	石	SYNT		5	27.1	35.1	2.9	0.45	88202.693	-24474.774	560.109		
83.6.10	野	石	SYNT		6	25.5	38.4	6.9	4.80	88125.323	-24474.476	560.403		
84.6.8	V.S.	石	SYNT		7	27.1	34.6	7.3	16.03	88205.209	-24472.550	560.214		
85.6.9	野	石	SYNT		1	31.0	38.8	10.8	5.25	88213.682	-24472.510	560.475		
90.BL9	野	石	SYNT		3	18.9	18.1	3.2	0.93	88214.862	-24476.487	560.653		
91.BL9	野	石	SYNT		1	33.2	17.5	2.5	1.67	88201.579	-24467.263	560.675		
94.H1	V.S.	石	An		19	46.0	31.5	13.9	2.62	88022.717	-24456.674	560.244		
95.BL11	V.S.	石	SYNT		32	72.0	25.5	15.7	65.45	8819.020	-24446.945	560.035		
97.BL11	野	石	SYNT		33	24.0	26.9	4.1	0.45	88201.866	-24444.298	560.191		
101.BL11	V.S.	石	SYNT		61	45	33.0	26.7	42.79	88201.624	-24446.409	560.965		
103.BL2	V.S.	石	SYNT		6	15.2	16.4	4.9	0.77	88202.241	-24472.910	560.245		
105.0.1	野中	石	TS		67	28.5	29.3	9.7	51.04	88254.279	-24465.961	560.697		
106.0.1	野上	石	An		10	20.9	22.9	4.9	3.14	88247.172	-24469.139	560.530		
107.BL1	野	石	SYNT		16	17.8	24.3	5.7	3.50	88057.607	-24463.521	560.870		
110.BL2	野上	石	SYNT		83	29	14.6	11	4.01	88205.717	-24466.852	560.798		
111.BL2	野	石	An		15.1	14.5	4.5	1.89	88205.519	-24465.203	560.271			
115.BL2	V.S.	石	An		14	29.4	39	12.4	20.04	88255.671	-24467.447	560.558		
116.BL2	V.S.	石	An		17	22.1	29.0	8.7	5.59	88205.231	-24467.411	560.524		
117.BL2	野	石	An		16	22.2	37.2	23.2	24.02	88205.389	-24467.349	560.823		
118.BL2	野	石	An		14	29.1	16.4	7.7	3.04	88205.861	-24467.387	560.347		
124.BL2	野中	石	An		16	45	22.4	6.1	6.10	88204.172	-24457.203	560.758		
121.BL2	野	石	An		14	18.5	29.1	13.1	9.71	88204.129	-24460.364	560.937		
125.BL2	V.S.	石	An		14	34	35	19.5	19.57	88205.806	-24466.774	560.719		
126.BL2	V.S.	石	Tu		22	1	28	10.7	6.05	88205.851	-24461.039	560.540		

第11表 石器属性表2

器物番号	出土場所	地層	層位	材質	発見地點	形態番号	組合番号	長 cm	幅 cm	厚 cm	直徑 cm	X座標	Y座標	標記	備考
128BL2	Va	F1	An	14	16	30.3	38.0	25.1	74.33	0.08	00014_908	-24460_906	000_508		
129BL2	Va	F1	An	14	16	27.1	35.9	19.5	76.12	0.08	00014_825	-24460_875	000_543		
130BL2	Va	F1	An	14	16	28.5	35.1	23.7	74.24	0.08	00014_103	-24460_675	000_593		
131BL2	外	W中	An	14	16	30.1	38.0	9.7	2.80	0.08	00014_008	-24460_374	000_537		
132BL2	Va	F1	An	14	16	35.1	32.4	18.2	74.44	0.08	00055_704	-24461_452	000_344		
142BL4	Va	F1	Ob	TSTY	1	14.4	16.9	5.6	1.23	0.08	00040_288	-24461_719	000_760		
143BL5	Va	F1	Ag	40	40	29.6	33.0	5.2	3.05	0.08	00040_446	-24461_622	000_476		
144BL5	Va	F1	Ag	40	40	21.2	14.2	8.5	1.94	0.08	00040_289	-24461_132	000_460		
145BL5	Va	F1	Ag	40	40	61.1	24.0	14.1	26.12	0.08	00040_519	-24461_706	000_624		
146BL5	Va	F1	Ag	40	40	26.8	17.1	6.6	2.46	0.08	00040_598	-24461_410	000_727		
147BL5	Va	F1	Ag	40	40	22.9	28.1	9.5	5.45	0.08	00040_997	-24461_161	000_232		
148BL5	Va	F1	Tu	27	27	34.5	22.0	7.0	5.85	0.08	00041_982	-24461_021	000_352		
151BL5	Va	F1	Tu	53	53	35.4	22.0	7.0	5.85	0.08	00041_983	-24461_021	000_352		
151BL5	Va	F1	Tu	27	27	47.6	36.1	10.7	22.11	0.08	00040_812	-24461_673	000_235		
152BL5	Va	F1	An	14	16	24.7	35.0	9	7.97	0.08	00041_824	-24461_706	000_425		
153BL5	Va	F1	An	14	16	18.3	37.2	15.6	5.03	0.08	00041_910	-24461_299	000_504		
154BL5	Va	F1	Tu	21	21	24.2	27.0	5.9	3.78	0.08	00051_281	-24461_567	000_377		
155BL5	Va	F1	Tu	21	21	45.7	48.0	9.2	20.02	0.08	00051_480	-24461_928	000_442		
156BL11	Va	F1	SS	33	33	40.0	29.2	6.5	4.82	0.08	00018_972	-24461_721	000_219		
158BL9	Va	F1	Ob	WDT	5	7	85.2	23.0	13.9	19.38	0.08	00024_165	-24471_544	000_200	
159BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	35.8	22.1	8.6	10.17	0.08	00025_179	-24476_059	000_191		
161BL5	Va	F1	Ob	TSTY	1	19.7	3.6	7.8	0.01	0.08	00016_890	-24476_119	000_176		
163BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	58.8	28.8	23.6	35.27	0.08	00024_711	-24477_966	000_152		
165BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	33.5	6.3	4.2	0.57	0.08	00024_788	-24478_500	000_151		
166BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	21.9	24.3	9.7	6.06	0.08	00022_954	-24478_616	000_022		
167BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	32.6	16.4	5.1	1.14	0.08	00023_524	-24470_921	000_179		
171BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	21.7	23.1	3.9	1.86	0.08	00023_507	-24476_552	000_162		
175BL7	Va	F1	Ob	TSTY	7	45.2	26.2	7.8	8.03	0.08	00023_516	-24479_540	000_097		
176BL7	Va	F1	Ob	WDT	5	56.1	36.1	10	15.22	0.08	00024_079	-24479_554	000_094		
177BL7	Va	F1	Ob	TSTY	2	25.7	48.5	13.9	10.63	0.08	00024_747	-24475_892	000_098		
179BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	35.8	13.3	8.4	3.82	0.08	00024_933	-24476_624	000_049		
180BL7	Va	F1	Ob	TSTY	2	24.3	23	7.9	6.23	0.08	00025_612	-24479_012	000_121		
181BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	25.5	12.3	3	0.82	0.08	00025_998	-24476_846	000_093		
183BL7	Vb	F1	Ob	TSTY	1	12.4	19	4.3	1.93	0.08	00024_822	-24479_500	000_917		
185BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	24.3	8.8	2.4	0.63	0.08	00015_515	-24476_547	000_050		
187BL7	Va	F1	Ob	TSTY	2	27.1	19.2	4.6	2.10	0.08	00015_643	-24479_470	000_058		
189BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	38.9	35.0	16.6	19.46	0.08	00025_722	-24476_884	000_014		
195BL7	Va	F1	An	15	15	40.1	58.4	11.5	11.05	0.08	00024_891	-24470_884	000_995		
196BL7	Va	F1	An	15	15	33.2	40.6	10.8	14.07	0.08	00020_696	-24476_542	000_123		
197BL7	Va	F1	Ob	TSTY	2	30.4	32	8.3	3.89	0.08	00027_684	-24470_057	000_535		
201BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	15.6	32	7	0.94	0.08	00026_710	-24475_875	000_127		
203BL8	Va	F1	Ob	TSTY	9	34.3	18.1	7.4	4.98	0.08	00022_230	-24475_767	000_259		
204BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	28.5	28.0	9.4	6.01	0.08	00027_571	-24475_820	000_152		
205BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	34.8	18.7	6.4	2.46	0.08	00027_607	-24475_800	000_267		
211BL7	Vb	F1	An	15	15	65.4	51	14.3	65.79	0.08	00027_045	-24476_157	000_988		
213BL7	Va	F1	An	16	16	17.1	40	4.4	1.10	0.08	00027_340	-24469_582	000_293		
214BL7	Va	F1	Ob	WDT	3	31.2	37.4	15.4	9.59	0.08	00028_489	-24481_600	000_292		
215BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	38.6	17.7	3.5	4.78	0.08	00027_787	-24481_591	000_249		
216BL7	Va	F1	Ob	WDT	2	23.2	17	4.5	1.44	0.08	00027_494	-24481_855	000_156		
220BL7	Va	F1	Ob	WDT	3	66.2	59.6	15.1	27.89	0.08	00026_913	-24481_061	000_958		
221BL7	Va	F1	Tu	21	21	36.7	16.5	6.5	3.55	0.08	00027_412	-24485_076	000_627		
222BL7	Va	F1	Ob	WDT	3	18.7	21	8.2	2.11	0.08	00027_970	-24482_521	000_851		
224BL7	Va	F1	Ob	WDT	3	36.9	21	3.7	2.64	0.08	00028_729	-24482_513	000_988		
225BL7	Va	F1	Ob	WDT	3	49.9	31	6.2	6.66	0.08	00028_092	-24480_859	000_920		
226BL7	Va	F1	Ob	WDT	3	60.3	24	7.6	3.96	0.08	00027_961	-24481_240	000_981		
229BL7	Va	F1	Ob	WDT	3	54.6	47	9.7	13.21	0.08	00027_849	-24481_554	000_854		
232BL7	Va	F1	Ob	WDT	7	75.6	38.0	21.2	47.35	0.08	00027_349	-24485_530	000_915		
232BL7	Vb	F1	Ob	WDT	7	40	24.2	26.4	8.27	0.08	00027_268	-24481_540	000_827		
236BL7	Vb	F1	An	16	16	37.2	26.8	7.7	7.16	0.08	00026_763	-24478_846	000_948		
236BL7	Va	F1	Ob	TSTY	3	22.9	14.2	3	0.98	0.08	00027_329	-24477_891	000_948		
238BL7	Vb	F1	Ob	TSTY	1	38	16.0	10.1	6.72	0.08	00026_590	-24477_517	000_984		
244BL8	Va	F1	Ob	TSTY	2	21.8	16.6	5.2	1.90	0.08	00026_590	-24475_005	000_116		
246BL8	Va	F1	Ob	TSTY	2	32.4	20.7	8.1	4.05	0.08	00027_171	-24475_134	000_113		
247BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	19.4	18.1	2.7	6.79	0.08	00027_419	-24475_107	000_769		
250BL8	Va	F1	Ob	風化	1	59.4	11	7	1.50	0.08	00027_584	-24474_594	000_110		
251BL8	Va	F1	Ob	風化	1	21.6	11.0	3.1	0.56	0.08	00027_477	-24474_636	000_143		
252BL8	Va	F1	Ob	風化	1	32.4	25.7	9.1	6.28	0.08	00027_017	-24474_402	000_755		
254BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	21.7	15.7	3.0	1.07	0.08	00026_581	-24474_082	000_309		
255BL8	Va	F1	Ob	WDT	5	26.8	34.2	11.1	5.91	0.08	00025_644	-24474_517	000_054		
256BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	20.2	12.4	5.1	0.98	0.08	00027_001	-24474_894	000_985		
259BL8	Vb	F1	Ob	TSTY	2	37.1	18.4	8.7	4.28	0.08	00027_237	-24474_120	000_578		
261BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	23.4	7.7	2.6	0.41	0.08	00027_381	-24474_076	000_324		
262BL8	Va	F1	Ob	風化	1	23.4	27	6	2.47	0.08	00027_588	-24473_640	000_107		
264BL8	Va	F1	Ob	TSTY	1	20.5	28.1	6.5	2.29	0.08	00027_499	-24473_007	000_720		
266BL10	Va	F1	Ob	WDT	5	28.6	16.0	11.6	6.17	0.08	00023_259	-24475_796	000_224		
270BL7	Vb	F1	Ob	TSTY	1	30.1	15	4.1	1.72	0.08	00024_596	-24472_367	000_921		
271BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	12.7	24.7	5.7	1.72	0.08	00024_536	-24472_075	000_644		
273BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	31	6	4	0.78	0.08	00024_765	-24477_673	000_000		
276BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	42.2	30	13.2	39.33	0.08	00025_171	-24478_214	000_061		
278BL7	Va	F1	Ob	TSTY	2	20.2	17.8	9.2	3.35	0.08	00025_081	-24475_951	000_059		
279BL7	Va	F1	Ob	TSTY	2	44.3	28.1	7	7.53	0.08	00025_140	-24476_075	000_124		
287BL7	Va	F1	Ob	NDK	8	57.1	49.6	11.4	26.76	0.08	00025_923	-24480_749	000_935		
289BL7	Va	F1	Ob	TSTY	1	32.6	32	5.7	4.81	0.08	00025_910	-24476_091	000_985		

第12表 石器属性表3

## 第3節 旧石器時代の遺物

件名番号	遺物番号	出土遺跡	地層	算定	出土地	件名番号	混合番号	長cm	幅cm	厚cm	算定期	X座標	Y座標	標高
29	E.I.	V.s	F1	09	WOTY	1		34.0	29.7	4.1	2.13	88022.996	-24485.231	659.687
32	E.II.	V.s	F1	SS		22	57	0.43	15.2	37.59	88015.945	-24442.998	669.697	
33	E.II.	V.s	F1	SS		22	72.1	26.3	7.8	12.19	88020.225	-24447.759	659.691	
333	E.I.	IV下	F1	Tu		21	24.0	26.1	6.3	2.10	88067.688	-24474.572	662.612	
359	E.I.	E	F1	An		14	21.5	37.2	10	8.03	88068.337	-24472.085	662.831	
246	E.I.	E	F1	09	TSTY	1		30.6	49.2	18.5	10.19	88056.392	-24471.342	569.778
314	E.I.	IV上	F1	安山岩		40	49.3	20.6	7.1	7.49	88056.908	-24476.254	569.706	
317	E.I.	V.s	F1	安山岩		49	25.4	44.3	13	15.55	88051.884	-24426.210	669.415	
319	E.I.	IV下	F1	09	SHD	4	21.4	25	10.5	3.76	88052.292	-24478.204	569.423	
320	E.I.	IV下	F1	SS		31	57.3	24.4	10.9	17.63	88055.700	-24461.212	660.523	
321	E.I.	V.s	F1	安山岩		48	29.5	21.3	3.5	1.35	88052.277	-24465.126	560.510	
723	E.I.	IV上	F1	09	SHD	4	14.3	26.2	8.7	1.78	88061.766	-24469.567	569.599	
326	E.I.	E	F1	SS		51	46.1	23.3	7.1	5.27	88051.422	-24469.610	560.716	
327	E.I.	IV中	F1	安山岩		48	23.9	39.6	10.6	11.05	88066.344	-24468.775	560.537	
330	E.I.	IV下	F1	09	SHD	16	88	25.0	14.5	24.74	88048.673	-24465.226	560.481	
331	E.I.	IV下	F1	SS		31	19.4	50.2	16.2	2.50	88050.065	-24461.754	660.605	
332	E.I.	IV下	F1	SS		31	18.2	33.1	6.1	12.94	88056.276	-24461.495	660.593	
334	E.I.	V.s	F1	SS		33	20.7	13.1	6.4	1.07	88061.190	-24461.946	660.420	
237	E.I.	V.s	F1	安山岩		45	25	24.7	0	5.55	88061.799	-24460.402	660.404	
328	E.I.	V.s	F1	An		20	42.4	38.6	1.1	15.71	88062.124	-24465.103	660.399	
329	E.I.	V.s	F1	Tu		20	46.2	24.8	16.1	11.59	88062.296	-24467.727	660.478	
346	E.I.	V.s	F1	An		15	24.5	35.6	8.1	5.12	88057.348	-24471.495	660.743	
347	E.I.	IV上	F1	An		14	40.1	40.3	12.4	14.19	88067.715	-24472.967	660.641	
364	E.I.	IV上	F1	09	TSTY	1	77.5	21.4	3.3	2.08	88065.191	-24466.764	560.761	
374	E.I.	IV上	F1	An		43	14.8	20.1	8.1	1.08	88055.059	-24462.470	560.847	
376	E.I.	IV下	F1	安山岩		48	34.9	10.6	4	2.94	88056.600	-24463.131	660.701	
388	E.I.	IV下	F1	Tu		20	56.4	26.4	13.2	20.87	88054.091	-24465.307	560.655	
389	E.I.	IV下	F1	09	TSTY	2	40.4	21.9	13.6	11.64	88054.374	-24465.215	560.655	
391	E.I.	IV下	F1	安山岩		50	26.7	40.8	8.1	5.07	88053.742	-24464.894	560.546	
394	E.I.	V.s	F1	An		16	3.0	16.3	7.8	3.04	88069.092	-24461.576	660.554	
396	E.I.	V.b	F1	An		14	57.4	42	19.2	33.41	88054.792	-24461.918	660.544	
370	E.I.	IV下	F1	Tu		24	30.0	37.4	8.4	7.12	88054.448	-24461.339	660.690	
328	E.I.	IV上	F1	An		14	54.8	22.2	12.2	12.33	88054.452	-24460.867	560.730	
404	E.I.	D	F1	09	WOTN	6	71.7	45.3	1.3	3.87	88046.764	-24465.521	560.689	
409	E.I.	E	F1	An		14	2.4	22	16.1	12.31	88052.150	-24464.278	560.514	
410	E.I.	V.s	F1	安山岩		48	28	14.4	12	4.89	88052.476	-24455.315	560.479	
411	E.I.	IV下	F1	An		14	56.8	24.1	8.1	5.02	88052.265	-24455.125	560.558	
512	E.I.	IV下	F1	Tu		24	38	19.6	9.5	5.07	88052.480	-24455.277	560.617	
416	E.I.	IV下	F1	An		14	55.9	23.8	10.7	12.02	88051.369	-24452.787	560.626	
417	E.I.	V.s	F1	Tu		22	47.2	62.2	12.1	16.27	88055.627	-24455.506	560.592	
418	E.I.	IV下	F1	An		40	16.0	27.7	10.1	4.40	88055.875	-24455.989	560.781	
419	E.I.	IV下	F1	An		14	24.4	19.2	7.8	4.47	88055.977	-24455.772	560.652	
420	E.I.	IV下	F1	An		14	35	24.0	10.4	8.75	88055.647	-24460.091	560.686	
421	E.I.	IV下	F1	Tu		25	76.6	45.5	32.7	90.30	88054.455	-24455.818	560.635	
422	E.I.	IV下	F1	An		14	38.3	55.6	18.3	30.75	88055.230	-24455.655	560.607	
424	E.I.	V.b	F1	An		26	25.9	16.2	7.8	2.59	88055.183	-24454.833	560.773	
430	E.I.	V.s	F1	09	TSTY	1	41.0	22.0	8.2	6.50	88021.625	-24475.905	351.000	
437	E.I.	V.s	F1	09	TSTY	1	14	47.3	35.6	1.1	88024.714	-24457.894	560.115	
441	E.I.	V.s	F1	An		14	27.0	21.9	8.1	4.02	88057.321	-24467.400	560.823	
459	E.I.	V.s	F1	09	TSTY	8	41.0	23.8	5.5	8.44	88051.884	-24454.657	560.913	
461	E.I.	V.s	F1	An		14	52.6	30.3	13.1	20.03	88046.250	-24454.022	560.248	
467	E.I.	V.s	F1	Tu		23	46.2	17	8.4	48.36	88046.389	-24454.971	560.259	
468	E.I.	埋	F1	Tu		20	36.9	46.0	8.2	6.72	88047.493	-24462.761	560.628	
469	E.I.	埋	F1	Tu		27	21.0	31	7.8	2.49	88044.851	-24451.755	560.533	
477	E.I.	E	F1	An		48	46.0	36.1	10.4	17.26	88048.236	-24452.239	560.694	
478	E.I.	E	F1	SS		26	23.9	24.6	4.9	5.91	88048.141	-24452.335	560.728	
479	E.I.	E	F1	Tu		41	38.2	42.0	12.7	17.28	88046.957	-24452.159	560.519	
479	E.I.	IV上	F1	SS		34	27.0	23.0	1.7	12.17	88046.197	-24455.555	560.511	
481	E.I.	IV下	F1	Tu		40	54.7	36.6	9.3	16.74	88051.323	-24452.741	560.508	
482	E.I.	IV下	F1	SS		24	54.0	46	16.3	26.46	88050.576	-24456.363	560.519	
483	E.I.	V.s	F1	Tu		23	59	105.5	18	88.23	88035.716	-24446.919	560.604	
484	E.I.	V.s	F1	Tu		22	27.6	47.1	7.5	5.70	88043.446	-24456.256	560.587	
477	E.I.	IV下	F1	An		14	44.0	26.7	4.4	1.22	88047.210	-24446.937	560.759	
479	E.I.	IV下	F1	An		14	52.7	34.4	10.4	15.44	88043.121	-24446.107	560.631	
490	E.I.	IV下	F1	Tu		25	32.7	15.5	6.7	2.03	88047.576	-24446.020	560.506	
491	E.I.	V.s	F1	Tu		21	47.5	44.9	12.9	32.59	88048.290	-24446.434	560.247	
492	E.I.	V.s	F1	SS		3	16.7	12	4.5	0.98	88048.546	-24445.727	560.306	
493	E.I.	V.s	F1	An		14	31.7	30.9	12.3	8.72	88048.621	-24446.953	560.392	
497	E.I.	E	F1	An		41	16	24.4	8.3	2.23	88056.815	-24444.510	560.728	
499	E.I.	埋	F1	Tu		25	40	30.5	45.6	18.3	29.99	88051.412	-24442.981	560.523
602	E.I.	E	F1	SS		4	14.0	20.0	3.7	1.05	88046.613	-24441.372	560.588	
503	E.I.	IV下	F1	Tu		22	16.9	20.5	3.7	5.79	88049.179	-24441.473	560.615	
504	E.I.	V.s	F1	09	TOTY	6	33.9	42.2	8.8	9.4	88048.444	-24441.237	560.556	
505	E.I.	漢	F1	An		44	48.0	47.5	10.4	14.09	88048.737	-24441.572	560.538	
506	E.I.	V.b	F1	Tu		21	46	52.7	12.9	16.74	88055.100	-24442.291	560.302	
508	E.I.	漢	F1	Tu		27	52.1	29.9	10	8.72	88048.621	-24444.953	560.392	
609	E.I.	漢	F1	An		40	18.0	20	2.3	9.70	88056.981	-24444.344	560.640	
510	E.I.	漢	F1	Tu		26	77.2	46.5	15.1	46.92	88048.956	-24441.565	560.605	
511	E.I.	V.s	F1	Tu		26	45	39.3	34	9.4	88048.684	-24441.817	560.283	
513	E.I.	V.s	F1	Tu		53	20.9	7.7	12.3	4.29	88056.509	-24441.052	560.374	
514	E.I.	V.s	F1	Tu		21	30.5	37	12.1	12.47	88051.000	-24441.577	560.348	
515	E.I.	V.s	F1	Tu		25	26	43.4	21.6	14.20	88056.951	-24441.377	560.378	

第13表 石器属性表4

報告番号	地點番號	地層	器種	材質	出土地	発見番号	総合番号	長さ	幅	厚さ	重量g	大きさ	度量cm	度量mm	度量g
510BL5	Vb	F1	Tu	石	23	56.4	37.2	15.4	17.75	88001.476	-24441.201	640.225			
517BL4	B	F1	Gh	石	63	19.1	31.1	7.5	3.29	88001.529	-2445.840	660.637			
518BL4	Vb	F1	An	石	14	59.4	42.5	19.9	24.43	88001.579	-2445.690	640.219			
520BL5	Vb	F1	Tu	石	21	69.3	65.2	27	69.78	88001.596	-2443.760	660.291			
521BL5	Va	F1	Tu	石	21	47.5	53.3	14.1	40.05	88001.752	-2442.680	660.207			
526BL5	Vb	F1	Tu	石	23	26.6	25.5	7.5	7.47	88001.802	-2445.442	660.267			
527BL5	Vb	F1	Ak	石	41	56.4	15.5	7.6	0.42	88001.875	-2440.680	660.216			
528BL5	Vb	F1	Tu	石	23	29.8	16.5	3.1	1.35	88001.912	-2440.650	660.475			
529BL5	Vb	F1	Tu	石	23	18.0	26.5	4.1	2.39	88001.925	-2444.182	660.225			
531BL5	E	Z1	Tu	石	21	29.6	41.2	19.5	15.07	88001.931	-2443.977	660.140			
532BL6	E	Z1	Tu	石	24	37.2	25.2	8.8	9.56	88001.950	-2443.412	660.104			
533BL5	E	Z1	Tu	石	24	22.0	46.4	15.5	14.66	88001.975	-2443.470	660.152			
534BL4	Vb	Z1	Tu	石	23	22.0	35.5	5.7	3.14	88001.992	-2443.203	660.222			
535BL5	E	Z1	Tu	石	24	49.5	25.5	73.5	10.95	88001.995	-2443.640	660.012			
537BL5	W	Z1	Tu	石	23	43.2	20.0	9.7	12.72	88001.717	-2440.630	660.240			
540BL5	W	Z1	Ak	石	42	24.1	77.4	11.6	5.12	88001.854	-2442.054	660.229			
541BL5	Vb	Z1	Tu	石	21	28.5	28.5	6.9	5.71	88001.837	-2447.736	660.054			
545BL5	W	Z1	Oh	石	56	37	53.5	29.4	29.62	88001.747	-2443.824	660.217			
547BL5	Vb	Z1	An	石	16	49.7	58.6	8.8	16.16	88001.123	-2443.712	660.145			
548BL3	Vb	F1	SS	62	23.1	17.1	5.8	2.19	88001.743	-2446.747	660.578				
549BL5	Vb	F1	An	石	14	55.2	51	17.3	36.46	88001.676	-2441.387	660.561			
570BL5	W	Z1	Tu	石	29	25	25.7	8.5	3.79	88001.380	-2441.922	660.172			
571BL5	W	Z1	An	石	14	26.5	15.5	6.2	2.14	88001.454	-2441.901	660.243			
573BL2	W	Z1	An	石	14	29.9	31.4	8.3	6.21	88001.379	-2449.654	660.667			
574BL2	Vb	Z1	An	石	14	27.2	30.2	20.2	14.72	88001.395	-2446.462	660.617			
575BL5	Vb	Z1	An	石	14	25.0	23.2	6.8	4.03	88001.469	-2449.654	660.764			
577BL2	Vb	Z1	An	石	14	23.4	49.3	2.5	25.07	88001.586	-2446.216	660.747			
578BL2	Vb	Z1	Tu	石	22	19	31	4.4	2.18	88001.540	-2446.939	660.713			
579BL2	W	Z1	Tu	石	14	24.1	16.0	6.3	2.02	88001.894	-2449.724	660.776			
580BL5	Vb	Z1	An	石	14	18	25.0	6.1	1.05	88001.719	-2449.670	660.678			
581BL2	W	Z1	An	石	14	52.3	50.6	10.6	22.64	88001.328	-2449.367	660.696			
582BL2	Vb	Z1	An	石	14	51	40	21.1	45.74	88001.341	-2449.654	660.646			
585BL2	Vb	Z1	Ak	石	45	27.9	36.2	6.9	3.03	88001.536	-2448.572	660.325			
587BL2	W	Z1	Oh	石	40	22.3	15.5	7.4	3.11	88001.673	-2448.437	660.775			
588BL2	Vb	Z1	An	石	14	18.1	31.3	11.1	6.26	88001.869	-2451.705	660.699			
599BL4	Vb	F1	An	石	14	26.0	19.7	6.5	2.27	88047.645	-2451.451	660.177			
600BL5	Vb	F1	An	石	14	58.6	34.0	8.8	13.94	88047.233	-2444.490	660.201			
601BL6	Vb	F1	Ob	60	28.7	12.9	5.5	1.19	88047.364	-2441.351	660.227				
602BL6	Vb	F1	Tu	60	23.9	54	19.1	17.85	88048.462	-2444.990	660.145				
605BL5	Vb	F1	Ob	25	25.2	28.5	16.4	9.03	88049.715	-2445.587	660.182				
606BL5	Vb	F1	Ob	60	15.6	22.4	4.2	1.46	88049.658	-2442.432	660.072				
607BL5	Vb	F1	Ag	40	18.4	30.9	8.2	3.07	88048.583	-2445.461	660.019				
610BL2	N	Z1	SS	31	48.6	28.7	11.5	0.81	88051.836	-2445.425	660.740				
611BL2	N	Z1	Ag	14	65.3	22.5	7.9	6.99	88051.990	-2457.270	660.755				
612BL5	Vb	F1	Tu	25	7	48.4	60.5	7.5	21.03	88051.201	-2449.712	660.259			
613BL5	E	Z1	SS	2	21	17.8	8.3	2.42	88051.754	-2445.103	660.688				
614BL7	漂砾	F1	Ob	4	32	74	6	3.78	88052.215	-2448.810	658.574				
616BL7	E	Z1	Ob	5	18	17.0	6.4	0.90	88052.349	-2445.587	660.182				
617BL7	N	Z1	Ob	4	21.9	9.9	2.2	1.17	88052.516	-2445.656	658.704				
618BL7	N	Z1	Ag	34	76.1	31.5	12.9	39.14	88052.831	-2448.913	658.618				
620BL7	N	Z1	Ag	34	22.4	24.7	7.0	1.56	88052.881	-2440.913	658.942				
621BL7	N	Z1	Ob	3	17.2	26	5	1.81	88052.787	-2442.405	658.905				
622BL7	N	Z1	Ob	3	34.6	22.6	8.1	8.30	88078.440	-2443.460	660.041				
623BL2	W	Z1	Tu	21	3	2.2	15	9.5	3.97	88028.526	-2443.277	659.898			
624BL7	N	Z1	Ob	6	26.3	27.6	5	1.89	88029.131	-2442.562	651.653				
625BL5	Vb	F1	Ch	55	28.1	30	9.0	9.14	88028.491	-2445.466	660.877				
627BL5	N	Z1	Ag	41	25.6	11.7	6.6	1.52	88025.859	-2445.156	658.704				
629BL5	Vb	F1	Tu	23	55	21	11.5	2.02	88026.626	-2445.762	660.171				
630BL5	Vb	F1	Ob	1	32	14	5	2.02	88025.270	-2446.911	660.155				
631BL5	Vb	F1	Ob	1	22.5	15.5	3.2	1.09	88025.540	-2447.377	660.207				
632BL5	Vb	F1	Ob	2	41.3	25.4	13.1	5.82	88025.647	-2447.141	660.131				
634BL5	Vb	F1	Ob	1	32	20.6	19.4	10.22	88024.783	-2447.662	660.578				
635BL5	Vb	F1	Ob	1	26.1	12.7	5	1.32	88023.500	-2446.720	660.053				
637BL5	Vb	F1	Ob	1	34.9	13.9	6.7	1.40	88025.105	-2447.454	660.0				
639BL5	Vb	F1	Ob	1	25.4	25	6.5	2.50	88024.270	-2446.297	660.244				
640BL5	Vb	F1	Ob	1	27.8	14.2	6	1.27	88024.767	-2447.963	660.101				
641BL5	Vb	F1	Ob	1	22.9	14.2	4.2	6.73	88025.172	-2446.459	660.206				
642BL5	M	Ob	Ob	1	6.0	88025.105	-2446.295	660.037							
643BL7	Vb	Ob	Ob	1	6.28	88023.304	-2444.255	659.854							
644BL7	Vb	Ob	Ob	1	6.19	88027.200	-2443.065	659.972							
645BL7	Vb	Ob	Ob	1	1.57	88024.619	-2442.584	654.672							
646BL7	Vb	Ob	Ob	1	0.99	88022.695	-2445.027	650.928							
647BL7	Vb	Ob	Ob	1	6.72	88022.193	-2440.150	660.003							
648BL7	N	Ob	Ob	1	0.22	88023.521	-2441.154	660.201							
649BL7	M	Ob	Ob	1	0.16	88023.610	-2449.691	660.155							
650BL7	M	Ob	Ob	1	0.27	88022.738	-2446.482	658.891							
651BL7	Vb	Ob	Ob	1	0.21	88025.354	-2447.635	660.184							
652BL7	Vb	Ob	Ob	1	0.54	88023.694	-2447.919	660.115							
653BL7	Vb	Ob	Ob	1	0.17	88022.816	-2447.751	660.233							
654BL7	Vb	Ob	Ob	1	0.02	88023.187	-2447.162	660.124							
655BL7	Vb	Ob	Ob	1	0.11	88024.392	-2447.886	660.197							
656BL7	Vb	Ob	Ob	1	0.27	88024.006	-2447.656	659.927							

第14表 石器属性表5

組合番号	遺物番号	出土地名	地質	埋没	封土	発見者名	検査者名	長さ	幅	厚さ	重さ	X座標	Y座標	備考
	70EL7	Va	On	06							0.09	88024.397	-24477.431	960.151
	76EL7	IV下	On	06							0.79	88025.562	-24477.895	960.211
	70EL8	E	On	06							0.35	88025.280	-24477.190	960.454
	34EL10	IV下	On	06							0.19	88022.364	-24474.538	960.237
	40EL9	Va	On	06							0.71	88023.446	-24475.940	960.278
	46EL5	Va	On	06							0.93	88048.058	-24466.301	960.234
	79EL10	Va	On	06							0.17	88024.388	-24474.749	960.194
	167EL8	VB	On	06							0.15	88026.655	-24476.579	960.178
	164EL7	Va	On	06							0.25	88025.613	-24477.427	960.176
	108EL7	VB	On	06							0.18	88024.532	-24476.466	960.231
	169EL7	VB	On	06							0.05	88024.074	-24476.778	960.224
	170EL7	Va	On	06							0.37	88022.127	-24476.576	960.295
	174EL7	Va	On	06							0.08	88023.798	-24476.091	960.249
	177EL7	Va	On	06							0.14	88024.044	-24478.765	960.226
	164EL7	VB	On	06							0.20	88021.194	-24479.876	960.015
	186EL7	Va	On	06							0.42	88025.488	-24476.379	960.027
	103EL7	VB	On	06							0.40	88025.781	-24478.897	960.096
	191EL7	Va	On	06							0.49	88025.008	-24476.382	960.123
	200EL7	VB	On	06							0.17	88025.109	-24481.308	960.096
	207EL5	VB	On	06							0.29	88028.644	-24476.109	960.072
	209EL5	IV上	On	06							2.13	88027.614	-24476.058	960.239
	207EL5	IV上	On	06							0.72	88027.648	-24476.347	960.323
	206EL5	Va	On	06							0.16	88027.592	-24476.959	960.096
	227EL7	Va	On	06							0.27	88026.065	-24481.349	960.065
	210EL7	Va	On	06							0.44	88027.511	-24481.437	960.067
	231EL7	Va	On	06							0.23	88027.949	-24480.505	959.942
	224EL7	VB	On	06							0.34	88026.038	-24480.298	959.996
	237EL7	Va	On	06							0.92	88026.044	-24478.101	960.022
	240EL7	VB	On	06							0.07	88023.398	-24478.383	960.712
	241EL7	VB	On	06							0.05	88026.146	-24478.251	960.313
	242EL7	VB	On	06							0.12	88026.390	-24478.230	960.092
	245EL7	Va	On	06							0.23	88026.679	-24478.226	960.197
	245EL7	Va	On	06							0.14	88026.532	-24478.091	959.990
	248EL5	漫丸	On	06							0.11	88027.485	-24475.222	959.943
	249EL5	漫丸	On	06							0.06	88027.539	-24475.048	959.938
	252EL5	VB	On	06							0.11	88027.204	-24474.717	960.049
	256EL5	VB	On	06							0.18	88026.336	-24472.502	960.107
	257EL5	VB	On	06							0.16	88026.595	-24472.818	960.116
	258EL5	Va	On	06							0.39	88026.773	-24472.930	960.154
	259EL5	Va	On	06							0.02	88027.281	-24472.575	960.193
	260EL5	VB	On	06							0.26	88025.481	-24465.959	960.153
	267EL7	Va	On	06							0.23	88024.010	-24477.925	959.959
	271EL7	VB	On	06							0.16	88024.979	-24477.622	959.938
	275EL7	VI	On	06							0.18	88025.128	-24477.768	959.812
	280EL7	IV中	On	06							0.45	88025.382	-24479.096	960.287
	282EL7	Va	On	06							0.78	88025.345	-24479.265	960.076
	283EL7	VB	On	06							0.59	88025.466	-24479.390	960.029
	284EL7	IV下	On	06							0.33	88025.378	-24480.703	960.073
	285EL7	IV?	On	06							0.27	88026.562	-24480.444	960.132
	316EL5	IV?	On	06							0.10	88051.491	-24470.364	960.047
	345EL1	IV?	On	06							0.06	88056.319	-24470.309	960.747
	345EL1	IV?	On	06							0.28	88057.976	-24470.547	960.770
	346EL1	IV?	On	06							0.16	88051.979	-24484.549	960.755
	348EL2	IV?	On	06							1.45	88053.598	-24482.269	960.558
	355EL2	IV上	On	06							1.67	88064.399	-24481.882	960.781
	422EL2	IV?	On	06							0.24	88056.715	-24483.282	960.549
	529EL2	IV?	On	06							0.42	88054.193	-24455.895	960.836
	431EL8	Va	On	06							0.09	88026.059	-24476.925	960.341
	432EL8	IV?	On	06							0.71	88026.505	-24475.744	960.293
	433EL7	Va	On	06							0.4	88027.370	-24461.273	959.095
	434EL8	漫丸	On	06							0.12	88027.077	-24478.172	959.039
	435EL8	Va	On	06							0.06	88028.912	-24478.479	960.034
	437EL4	Va	On	06							0.55	88048.127	-24452.551	960.237
	439EL5	IV?	On	06							1.53	88045.475	-24448.340	960.448
	525EL8	Va	On	06							1.77	88025.004	-24432.824	960.312
	729EL1	VB	On	06							0.53	88043.232	-24449.241	960.244
	525EL5	E	On	06							0.92	88025.016	-24439.179	960.097
	536EL1	Va	On	06							0.95	88036.175	-24472.157	960.515
	583EL2	IV?	On	06							0.39	88055.599	-24454.570	960.599
	585EL2	IV?	On	06							1.05	88052.770	-24460.572	960.575
	97SH1	IV	Se	65				84	61	58	382.67	88050.170	-24460.405	960.530
	97EL9	Va	On	95				87	50	28	185.39	88024.098	-24473.000	960.174

第15表 石器属性表6

## (2) 無斑晶質安山岩

ガラス質黒色安山岩、ガラス質安山岩、黒色安山岩、黒色緻密安山岩等と呼称されている石材と同種である。本書ではこれまで野尻湖遺跡群で用いられてきた呼称にあわせて無斑晶質安山岩を使うこととする。岩石的には個性的な方で比較的容易に他石材と分類することができる。灰色に風化して気泡がほとんどないものの中に凝灰岩と迷うものが存在する。

7母岩に分類したが、個体差が少ないため母岩14や母岩15については個体レベルまでの分類には至っていないと思われる。

## (3) 凝灰岩

灰色に風化している珪化の弱い堆積岩を凝灰岩としているが、非破壊の肉眼分類では頁岩、凝灰質頁岩との分類は不可能で、やや珪化しているものについては珪質凝灰岩や珪質頁岩と迷う。特に凝灰質頁岩との分類が困難で、今回は迷ったものについてはすべて凝灰岩としてある。母岩27は流紋岩との区別が難しかった。

10母岩に分類されており、比較的個体の特徴がつかみやすいため、個体レベルに近い分類が可能であった。

## (4) 硅質頁岩

白っぽいものについては珪質凝灰岩と、黄色や褐色の中には鉄石英との区分に迷うものが存在する。また、珪化が弱いものは頁岩、凝灰質頁岩と漸移的なものが存在する。母岩34は珪化が弱く凝灰質頁岩にすべきか迷った。

9母岩に分類されており、数が少ないとほ個体レベルの分類ができる。

## (5) 玉髓

透明感があるものについては容易に分類することができたが、母岩42のように透明度が低いものは流紋岩の可能性もある。

7母岩に分類され、数が少ないとほ個体レベルの分類ができる。

## (6) 安山岩

無斑晶質安山岩と異なり非ガラス質でとろとろに風化している。数少ない野尻湖遺跡群在地の石材の可能性が考えられる。

4母岩に分類され、数が少ないとほ個体レベルの分類ができる。

## (7) チャート

赤色のものについては鉄石英との区分が難しいが、今回の調査では赤色のチャートは検出されなかった。

6母岩に分類され、数が少ないとほ個体レベルの分類ができる。

## (8) 硅質凝灰岩

珪化がすんでいて灰白色のものは珪質頁岩と、白色で石英がみられるものについては流紋岩との区別に迷う。71・72については流紋岩の可能性も考えられる。

5母岩に分類され、数が少ないとほ個体レベルの分類ができる。

## (9) 凝灰質頁岩

頁岩と凝灰岩の中間的なものを凝灰質頁岩としているため、両者の間には中間的なものが存在する。

2点が2母岩に分類されている。

## (10) 蛇紋岩

日向林B遺跡の斧形石器は蛇紋岩であるが、その多くが比重を計ると蛇紋石より重いため、透閃石岩や透綠閃石岩等の軟玉類であることが予想されている。しかし、これまでの長野県、富山县、新潟県等の遺跡発掘調査報告書では同種の石材のほとんどが蛇紋岩と報告されており、日向林B遺跡の報告でも蛇紋岩とした。

母岩番号	材質	透視色	顕微鏡色調	透明度	譜・斑点・シジ等	岩石物
1 Ob	63	無色	半透明	透明	譜・斑点・シジ等	無色物
2 Ob	23	無色	半透明	1mm前後間隔で平行する白メジ、基部の白色部	1mm前後の斑縞、透色の接触	
3 Ob	26	無色	半透明	1mm後間隔で平行する更透視の白メジ	透色の斑縞	
4 Ob	16	無色	透明		1mm前後の透色少量	
5 Ob	15	無色	透明		1mm前後の透色少量	
6 Ob	7	灰褐色	半透明		1mm前後の透色少量	
7 Ob	2	無色	半透明		1mm前後の透色少量	
8 Ob	3	無色	半透明		1mm前後の透色少量	
9 Ob	2	無色	不透明	1mm後間隔で平行する白シジ	透色の斑縞	
10 Ob	1	黄褐色	半透明	1mm前後の透色の薄い透	なし	
11 Ob	1	無色	透明	1mm前後の透色の薄い透	なし	
12 Ob	1	無色	半透明	なし	1mm前後の透色が僅か	
13 Ob	1	無色	不透明	なし	なし	
14 An	47	藍灰色	不透明	なし	0.5~1mmの気泡多量	
15 An	16	灰褐色	不透明	なし	0.5~1mmの気泡多量、塊質	
16 An	3	無色	不透明	なし	0.5~1mmの気泡少量、簇質	
17 An	3	オリーブ無色	不透明	標0.5mm~1mmの灰褐色の斑・透視強弱	0.5~1mmの気泡僅か	
18 An	3	黃褐色	不透明	透視強弱	なし	
19 An	2	灰褐色	不透明	角錐的の透視色の透	0.5~1mmの気泡少量	
20 An	1	灰褐色	不透明	なし	0.5~1mmの気泡	
21 Tu	15	灰褐色	不透明	なし	青色の粒子が僅か	
22 Tu	9	灰褐色	不透明	なし	青色の粒子が僅か	
23 Tu	9	オリーブ無色	不透明	標0.1mm前後の透シジ	青色の粒子	
24 Tu	9	灰褐色	不透明	なし	透色、黒色の粒子 0.1mm前後の気泡	
25 Tu	7	灰褐色	不透明	なし	白色の粒子、0.1mm前後の気泡	
26 Tu	4	無色	半透明	標0.1mm以下の透シジ	細かい青色の粒子が少し見られる	
27 Tu	2	にぼい黄褐色	半透明	ぼんやりとした灰褐色・海緑色の透	なし	
28 Tu	5	灰褐色	半透明	透の白透色	青色粒子僅か	
29 Tu	2	灰褐色	不透明	なし	青色の粒子、0.1mm前後の気泡	
30 Tu	1	灰褐色	不透明	なし	青色の粒子、0.1mm前後の気泡多量	
31 SS	14	灰褐色	不透明	角錐的に0.1mm前後の白シジ	なし	
32 SS	7	藍灰色	半透明	標0.1mm前後の透シジが僅か	なし	
33 SS	4	灰褐色	不透明	0.9~1mm前後の透状灰色	なし	
34 SS	5	灰褐色	不透明	なし	透色、青色の粒子 0.1mm前後の気泡多量	
35 SS	1	灰褐色	不透明	標1mm前後の透色の透	なし	
36 SS	1	灰褐色	半透明	透底の透	なし	
37 SS	1	灰褐色	半透明	標0.1mm前後の透シジ	なし	
38 SS	1	灰褐色	不透明	透視的に黒褐色化	なし	
39 SS	1	灰褐色	不透明	標10cm前後の灰褐色の透	白色の粒子僅か	
40 Ag	1	灰褐色	半透明	部分的に透視がかなり10mm以上の暗褐色の粒	なし	
41 Ag	2	灰褐色	不透明	標0.1mm前後の透状白色	なし	
42 Ag	1	灰褐色	不透明	青灰褐色・透視灰褐色が少量	なし	
43 Ag	1	青褐色	半透明	暗褐色・透視褐色が少量	なし	
44 Ag	1	灰褐色	半透明	白色の粒子に入り込ま	なし	
45 Ag	1	灰褐色	半透明	0.9~1mm前後の透状白色が少量	なし	
46 Ag	1	灰褐色	半透明	0.9~1mm前後の透状白色が少量	なし	
47 Ag	2	灰褐色	半透明	0.9~1mm前後の透状白色	なし	
48 宮山岩	10	灰色	不透明	透の白透色	透石と白色の粒子	
49 宮山岩	1	鈍白色	半透明	透の白透色	透石、0.1mm前後の気泡多量	
50 宮山岩	1	褐色	不透明	なし	普通透石 气泡多量	
51 宮山岩	1	灰褐色	不透明	なし	普通透石 気泡	
52 Ch	4	灰褐色	不透明	塊状の無色透質 チャートシジ	なし	
53 Ch	3	碧田島	不透明	標1mm前後の透色の透とスピ	なし	
54 Ch	2	オリーブ無色	不透明	不透明の無色シジ チャートシジ少ない	なし	
55 Ch	1	綠褐色	不透明	不明瞭の無色透質 細かいシジ チャートシジ少ない	なし	
56 Ch	1	綠褐色	不透明	透視のシジ	なし	
57 Ch	1	褐褐色	不透明	透視の透視質 チャートシジ少ない	なし	
58 Ch	1	オリーブ無色	不透明	透視の透視質 チャートシジ少ない	なし	
59 GT	1	明オリーブ無色	不透明	透視の透視質 級透の無色透	なし	
60 GT	1	オリーブ無色	不透明	なし	透色の粒子 0.1mm前後の気泡	
61 ST	1	灰褐色	不透明	透視の0.1~5mmの白透色	青色の粒子が僅か	
62 ST	1	褐色	不透明	透の白透色	なし	
63 ST	1	灰褐色	半透明	なし	0.1mm前後の気泡	
64 ST	1	灰褐色	不透明	なし	透子電離	
65 ST	1	褐色	不透明	なし	なし	
66 Sa	1	灰褐色	不透明	なし	なし	
67 ST	1	灰褐色	不透明	一部に黒色のシジが見られる	細かい気泡が含まれる	
68 Tb	1	複合透色	不透明	透視のシジ	0.1mm前後の気泡	
69 Sc	1	複合透色	不透明	透視、複合の灰褐色	なし	
70 SP	1	灰褐色	不透明	透視のシジ	なし	
71 ST	1	不透明・灰褐色	不透明	明るい褐色のシジが平行に見られる	石英が僅か	
72 ST	1	不透明・灰褐色	不透明	明るい褐色のシジが底に見られる	石英が僅か	

第16表 母岩分類基準

母岩番号	判別群	判別群記号	遺物数	母岩番号	判別群	判別群記号	遺物数
1	蓼科赤山群	TSTY	78	5	諏訪星ヶ台群	SWBD	3
	和田魔山群	WDTY	1		風化		1
	和田魔松伏群	WDTM	2		蓼科赤山群	TSTY	1
2	風化		2	6	和田魔山群	WDTY	6
	蓼科赤山群	TSTY	22		和田魔山群	WDTY	2
3	和田魔山群	WDTY	1	7	和田魔山群	WDTY	1
	和田魔山群	WDTY	18		和田魔山群	WDTN	1
	諏訪星ヶ台群	SWBD	2	8	和田小深沢群	WDKB	1
4	和田魔山群	WDTY	7		和田小深沢群	WDTK	1
	諏訪星ヶ台群	SWBD	5	9	諏訪星ヶ台群	TSTY	2
	和田魔山群西群	WDTN	1		諏訪星ヶ台群	SWBD	1
5	和田魔山群南群	WDTM	1	10	諏訪星ヶ台群	WDTY	1
	蓼科赤山群	TSTY	1		和田魔山群	WDTY	1
	和田魔山群	WDTY	11	11	和田魔山群	WDTY	1
					和田魔山群	WDTY	1
				12	和田魔山群	WDTY	1
					諏訪星ヶ台群	SWBD	1

第17表 黒曜石母岩別产地群組成

本遺跡の1点の蛇紋岩もこれらと同じ石材と思われるが、ここでも蛇紋岩としておく。

1点が1母岩に分類されている。

#### (II) 石英斑岩

1点1母岩のみである。野尻湖遺跡群で石英斑岩はめずらしいが、きわめて流紋岩にちかい石英斑岩である。

### 3 接合資料

11組25点の石器の接合があった。石器総点数482点でこれだけの接合数は少ないとと思われる。原因としては接合作業時間が不十分な点もあるが、最も大きな要因は調査区が細長く部分的にしか調査されていない点にあり、接合すべき石器の多くが調査区外に分布していると思われる。

最大接合数が3点と少なく、石器製作行程を示すような資料は得られなかった。

また、ブロック間での接合は第7号ブロックと第9号ブロック間で1例のみであった。

### 4 剥片剥離技術

北区には第1～6号ブロックが分布しているが、いずれのブロックでも、剥片、碎片、石核の数量が少ないため、まとまった数の目的的剥片を得るために剥片剥離はおこなわれていない。しかし、少量だが碎片や石核が存在することも事実であるため、非常に小規模な剥片剥離がおこなわれた痕跡が残されていると評価されようか。

ここに残されている石核、剥片から想定される剥片剥離は、貝殻状剥片を目的としている。しかし、剥片の形状、大きさに齊一性がなく多様である。したがって、ここでの貝殻状剥片への目的意識は低く、だいたいの形・大きさの剥片が得られればよかったと思われる。

石材には凝灰岩が主に用いられ、厚手で板状の分割線や剥片を石核の素材としている。作業面は板状の広面に固定される場合が多く、作業面を表面とした場合、裏面を打面として、縁辺を打点が横に移動する剥離が中心となる。しかし、剥離回数が少ないために打点が1週して円盤状になることはない。打面調整はなく礫面や単剥離面が打面となっている。頭部調整も認められない。

南北区には第7～10号ブロックが分布しており、剥片、碎片、石核が多くみられることから、まとまった剥片剥離作業の痕跡が残されている。

ここで剥片剥離は石刀を目的としている。石材は黒曜石が用いられている。剥離が進んで小形化した石核が多いため石核の素材の状況がはっきりとわからないが、原石と剥片の両方があるようだ。作業面は固定される場合が多く、作業面に対して背にあたる部分に稜に調整が施されるものがある。打面には調整打面と

単側離打面があり、 $180^{\circ}$  の打面転移も認められる。また、頭部調整、後上調整も確認できる。剥離された石刃は長さ5cm前後が標準的な大きさであるが、3cm以下の小形石刃も剥離されている。また、長さ7cm以上の大型石刃は非黒曜石のため遺跡内で剥離されたものでないと考えられる。

## 5 磨

891点の磨が検出されているが、南西区の4点以外はすべて北区から検出されており、分布に偏りが見られる。さらに、そのうちの760点が磨群に属するもので、大部分が磨群から検出されている。磨群の磨の出土層位はIV層が圧倒的に多く、生活面もIV層にあると思われる。磨群外から検出されている磨もIV層から検出されるものが大半を占める。ブロック内に分布する磨についても同様であり、石器はより深い層まで分布しているのに対して、磨の出土層位は浅いといえる。したがって、今回の調査で出土した磨の大半は磨群に関与するもので、IV層堆積中に遺跡に残されたものと思われる。

磨の特徴としては近くに鳥居川があるためか、円磨やかなり角のとれた亜角磨が主体を占める。また、破損磨も少ないとから全体的に丸い磨が多い印象を持たせられる。

磨の接合作業では64組148点の接合があったが、ほとんどが磨群内部間の接合で磨群間接合がなかった。接合数が少ないのは先形磨が多いためと思われる。磨群外との接合は第3号磨群で、第2号ブロックと1組、遺構外と2組の接合資料の共有があった。



吹野原A遺跡から斑尾山を望む

## 第3章 縄文時代以降

### 第1節 縄文時代以降の遺構と遺物

#### 1 縄文時代以降の遺構

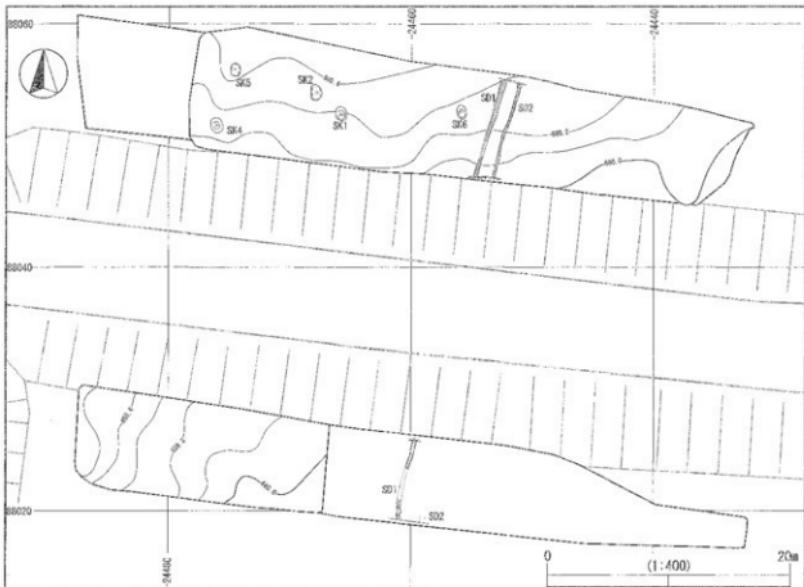
##### (1) 土坑

陥し穴と思われる土坑が5基検出された。検出面はIV層上面（ローム上面）だが、覆土の状況から掘り込み面はII層中からと思われる。

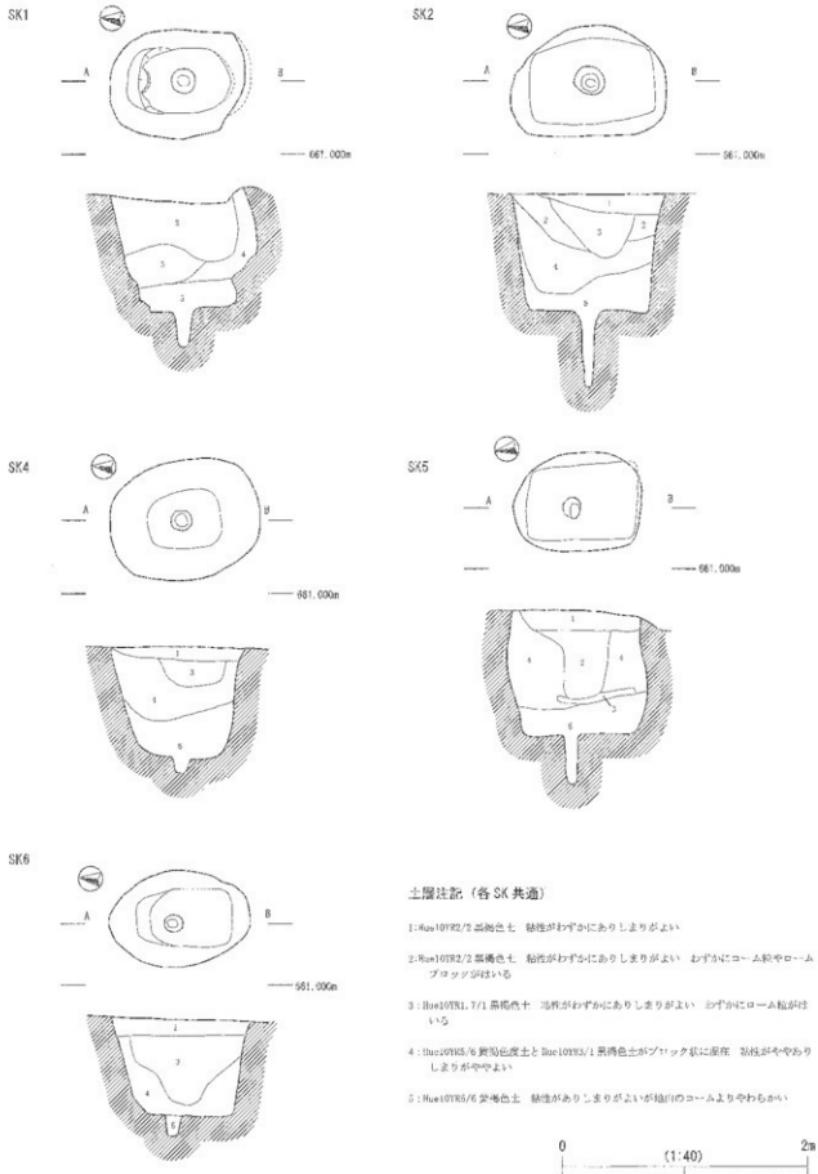
5基の土坑は切りあうことはなく、ほぼ等高線に平行して並んでいる。北側の調査区外へはこの配置の統一で土坑が連なることが予想されるが、調査区外西は急な下り斜面となるため、今回検出されたものが端になると思われる。

土坑の時期は形状等から縄文時代の陥し穴と考えられるが、縄文時代の遺物が皆無であるため特定ができない。

坑底部のピット数はいずれも1ヶ所である。掘り込みの短長軸は1m強で、短軸が80cm前後となっている。



第45図 縄文時代以降の遺構分布図



第46図 縄文時代以降の上坑

長軸は等高線に対してほぼ直交している。覆土も共通性が高く、上層はII層の黒褐色土にローム粒が混じり、下層はIV・V層のロームが堆積した土が主体となっている。基本的には下層へ行くほどロームの混じる比率が高くなると判断できるため、短時間に人为的に埋没したのではなく、時間をかけて自然に埋没したものと思われる。

なお、SK3・7は検出時に遺構の可能性が考えられたため遺構番号を付けたが、掘り下げの結果SK3は板痕による擾乱、SK7は風倒木痕と判断された。

各土坑の位置は第46図を参照されたし。

#### 1. 第1号土坑（SK1・第46図）

北区ほぼ中央からやや西よりに位置し、北西約2mに第2号土坑が存在する。

112cm×92cm、深さ100cmの規模を持つ。坑底部は楕円形を呈し、ほぼ中央に深さ32cmのピットを1個有する。北側の壁には狭いテラス状の段が認められ、南壁は検出面上端より外側にオーバーハングしている部分がみられる。

#### 2. 第2号土坑（SK2・第46図）

北区中央からやや西よりに位置し、南東約2mに第1号土坑、西約6mに第5号土坑が存在する。

128cm×92cm、深さ96cmの規模を持つ。坑底部は長方形を呈し、ほぼ中央に深さ64cmのピットを1個有する。坑底部のピットは非常に深く底の確認が十分にできなかつたため、さらに深い可能性がある。

#### 3. 第4号土坑（SK4・第46図）

北区西よりに位置し、北約4mに第5号土坑が存在する。

124cm×100cm、深さ88cmの規模を持つ。坑底部は隅丸の長方形を呈し、中央に深さ16cmのピットを1個有する。他の土坑と比べると壁の傾斜が緩やかで、検出面近くの形状が丸みを帯びている。

#### 4. 第5号土坑（SK5・第46図）

北区西よりに位置し南約4mに第4号土坑が存在する。

104cm×80cm、深さ44cmの規模を持つ。坑底部は長方形を呈し、中央に深さ40cmのピット1個を有する。坑底部の角部はしっかりとおり、壁も切り立っているため、埋没時のくずれが少なかつたと思われる。

#### 5. 第6号土坑（SK6・第46図）

北区中央付近に位置し、西約9mに第1号土坑が存在する。

116cm×80cm、深さ80cmの規模を持つ。坑底部は隅丸の方形を呈し、中央に16cmのピットを1個有する。

#### (2) 溝跡

##### 1. 第1・2号溝跡（SD1・SD2・第47図）

2条の溝跡が検出されている。掘り込み面はI層中にあり、IV層まで達する部分と達しない部分がある。検出面はIII層下部からIV層上面のため、掘り込みが浅い部分については表土剥ぎの段階で、なくなってしまった。

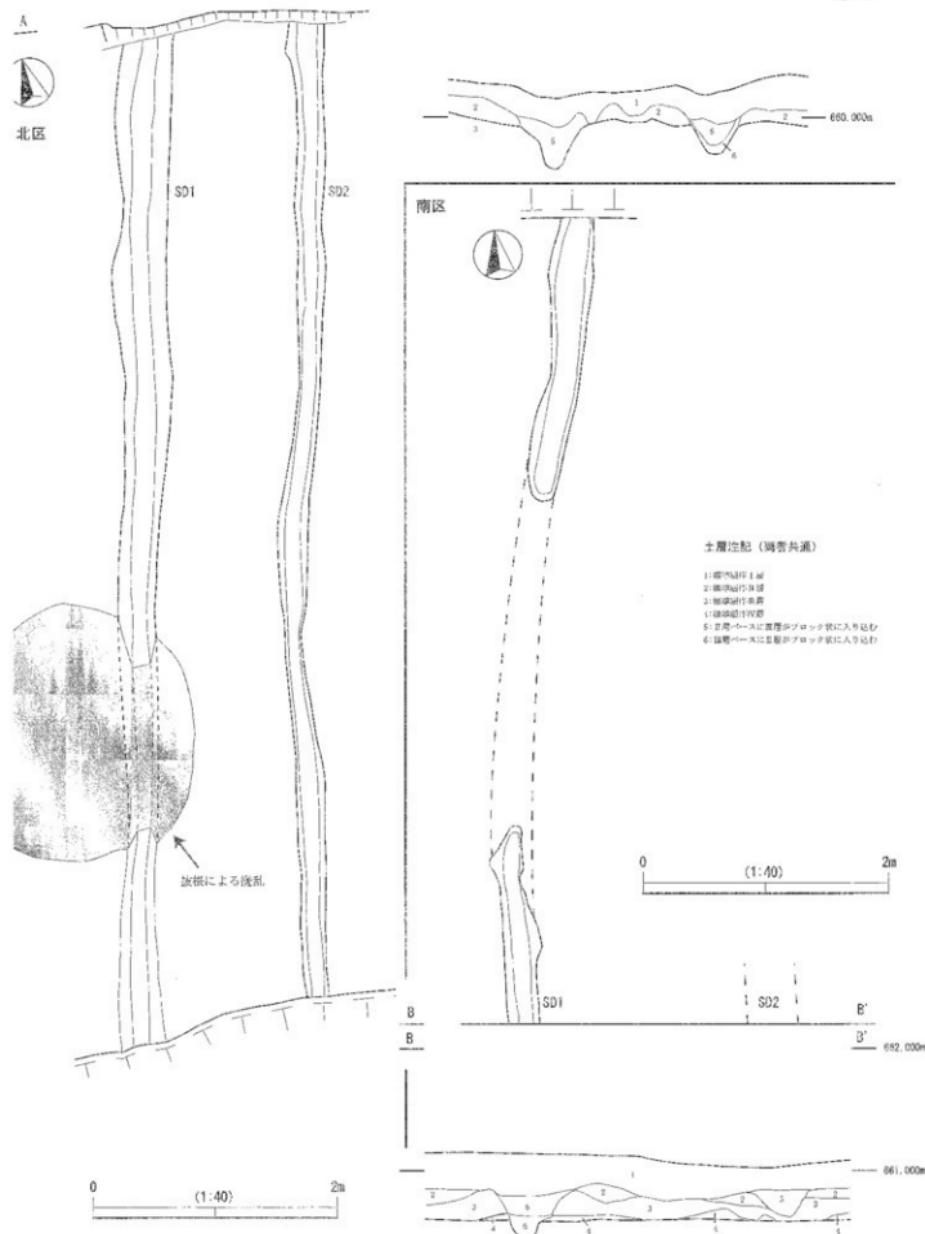
両溝跡は約1mの幅でほぼ南北方向に平行して配置されており、東西に細長い北区と南区をそれぞれ横断している。北区と南区の間は現道に切られているが、達なっていたと思われる。幅40cm前後、深さ20~40cm、長さ40m以上の規模を持ち、断面形は「U」字状を呈している。

溝内から遺物は検出されなかつたため遺構の時期決定が難しいが、表土剥ぎ時に溝跡周辺から「寛永通宝」が1点出土している（第48図）。

地元の人の話によると溝跡を切る現道は戦後間もない頃に作られたそうなので、少なくともそれよりは古

第1節 桜文時代以降の遺構と遺物

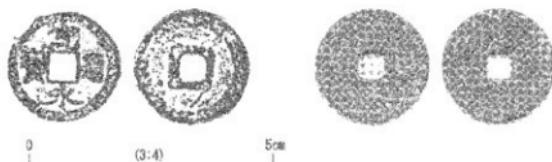
A' 662.00m



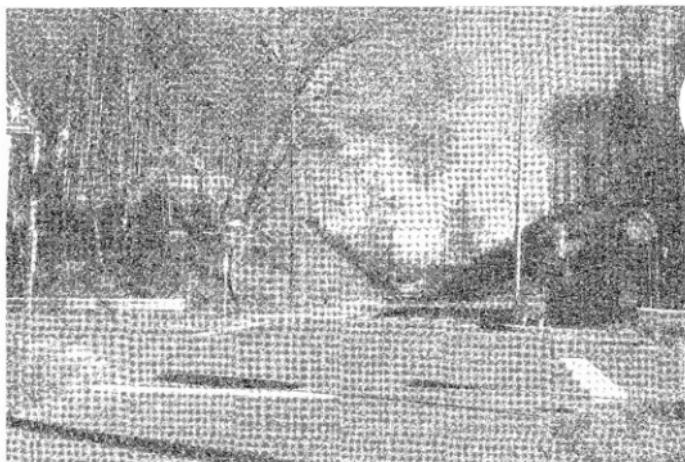
第47図 第1・2号遺跡

いといえよう。

溝跡は道に伴うものとも考えられるが、両溝間に路面となるような安定した面は確認できなかった。また、昔、所有者の異なる土地の境に溝を設けることがあったとも聞く。



第48図 寛永通宝



発掘調査終了時の遺跡風景（道路両側の切りとおし上部が調査区）

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 吹野原A遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定

望月明彦

#### 1. はじめに

吹野原A遺跡は野尻湖周辺遺跡群のひとつである。野尻湖周辺遺跡群では、現在までに12,000点を超える黒曜石製石器の産地推定が蛍光X線分析(EDX)を用いて行われている。その結果、最も多く用いられているのは、和田エリアの黒曜石であり、諫訪エリアの黒曜石がそれに続き、蓼科エリアの黒曜石も一定数用いられていることが判明している(長野県埋蔵文化財センター2000)。本遺跡ではVa層を中心として241点の黒曜石製石器が出土しているが、そのうち173点について産地推定を試みた。

#### 2. 分析法

蛍光X線分析には波長分散蛍光X線分析(WDX)とエネルギー分散蛍光X線分析(EDX)の二つの方法がある。本研究室で用いているのはEDXである。WDXでは分光結晶を用いて蛍光X線を分離して、検出器で検出する。この方法では装置が大掛かりになり、強い1次X線を必要とする。一方、EDXでは蛍光X線を半導体検出器(SSD)で検出する。WDXと異なり、X線を分離検出するために機械的な部分の必要がないことから装置はコンパクトである。SSDは多元素の蛍光X線を同時に分離検出可能であるが、液体窒素などを用いて冷却する必要がある。WDXでは冷却水で十分である。また、試料の形態による測定への影響はEDXのほうが多い。

蛍光X線分析のもっとも大きな特徴は試料を破壊せずに分析できることにある。本研究室で取り扱う考古学的試料(主として黒曜石、その他土器、陶器、ガラス器、金属器など)は、その考古学的価値から破壊することができない場合が多い。折破研分析である蛍光X線分析はこれらの試料の分析には欠かせない方法といえる。また、迅速に分析できることもあり、多数の試料の分析に適した方法である。本研究室で最も多く分析する黒曜石の場合、遺跡からの出土数が多いことから蛍光X線分析の迅速性は強力な武器となっている。

本研究室では試料形態の多様性、試料数、迅速性などを考慮してEDXによる分析を行っている。

#### 3. 分析試料と試料調整

##### 3.1 産地原石

蛍光X線分析による産地推定法では、あらかじめ産地から採取された原石を分析してデータベースを作成する。この原石のデータベースと遺跡から出土した黒曜石の分析データとを照合して産地推定を行う。本研究室では北海道から九州までのほとんどの産地のデータベースを作成済みであるが、第18表には隱岐以東の黒曜石産地について示す。第49図はこれらの産地の分布図である。

産地原石のデータベースが徐々に大きくなり、分析に用いる蛍光X線分析装置も替わる中で、当初用いていた産地名を変更することになり、現在では新しい分類を用いている。第18表には旧名称、新名称、旧記号、新記号を挙げてある。新しい分類では、産地を大きく分けてエリアとした。このエリア名には基本的にそのエリアを含む行政区域名を使用した。適当な行政区域に特定できない場合は山や川の名前を使用した。

鉱産別名	地図No.	エリア	新規別名	既存別名	新規号	既存号	原石採取地(分析地)
白雲石	1	八重瀬		STHG			森石山山頂(19)、八重瀬崩落(31)、八重瀬(79)、
青島の灰岩	2	上木瀬		STXY			黒磯の灰(6)、焼却堆積(4)
二段灰	3	二段灰		ESMM			十二ノ段(16)
鏡戸	4	鏡戸		ODAZ			安佐(25)、唐木(52)
北海道	5	旭川		AKTS			高砂台(6)、酒井谷(5)、半光台(5)
	6	美唄町		AKSK			
	7	志賀町		KYHK			志賀(19)
	8	茅部川		STD			柔田(5)
	9	勝手川		ABMK			舟川(25)、上木川(45)
	10	登別		TUTI			舟瀬(16)
青森	11	大迫		KDDK			出張地(23)
	12	津浦		HJIM			八ヶ森公園(8)、六角沢(8)、圓筒丘(10)
秋田	13	男鹿		OGKS			合ノ崎温泉(37)、監寺高(59)
	14	雄物川		OGWM			監寺高(10)
山形	15	丹生川		HGGS			1月山山頂(90)、朝日町田代沢(18)、猪引町中沢(18)
	16	今野川		IWIN			今野川(19)、大根川(5)
新潟	17	糸魚川		NTKL			今野川(29)
	18	新潟		JINY			新潟市(4)
福井	19	越前		TOAY	JNHL		立飛尻(50)、板波(20)
	20	越前		TOPI	JNHL		七条浜(9)、鳥羽の家(9)
	21	越前		TOPI	WDLA		
	22	越前		TOQD	WDLA		
	23	越前		TOQD	WDLA		鳳山(33)、小宿沢(34)、東跡屋(34)、光音寺(47)、古寺(59)、土糞坂北(33)、土糞坂西(29)、土糞坂南(66)、丁字
	24	越前		TOQD	WDLA		御駒(18)
	25	越前		WQTY			
	26	越前		WQTY			
	27	越前		WQTY			
	28	越前		WQTY			
	29	越前		WQTY			
	30	越前		WQTY			
	31	越前		WQTY			
	32	越前		WQTY			
	33	越前		WQTY			
	34	越前		WQTY			
	35	越前		WQTY			
	36	越前		WQTY			
	37	越前		WQTY			
	38	越前		WQTY			
	39	越前		WQTY			
	40	越前		WQTY			
	41	越前		WQTY			
	42	越前		WQTY			
	43	越前		WQTY			
	44	越前		WQTY			
	45	越前		WQTY			
	46	越前		WQTY			
	47	越前		WQTY			
	48	越前		WQTY			
	49	越前		WQTY			
	50	越前		WQTY			
	51	越前		WQTY			
	52	越前		WQTY			
	53	越前		WQTY			
	54	越前		WQTY			
	55	越前		WQTY			
	56	越前		WQTY			
	57	越前		WQTY			
	58	越前		WQTY			
	59	越前		WQTY			
	60	越前		WQTY			
	61	越前		WQTY			
	62	越前		WQTY			
	63	越前		WQTY			
	64	越前		WQTY			
	65	越前		WQTY			
	66	越前		WQTY			
	67	越前		WQTY			
	68	越前		WQTY			
	69	越前		WQTY			
	70	越前		WQTY			
	71	越前		WQTY			
	72	越前		WQTY			
	73	越前		WQTY			
	74	越前		WQTY			
	75	越前		WQTY			
	76	越前		WQTY			
	77	越前		WQTY			
	78	越前		WQTY			
	79	越前		WQTY			
	80	越前		WQTY			
	81	越前		WQTY			
	82	越前		WQTY			
	83	越前		WQTY			
	84	越前		WQTY			
	85	越前		WQTY			
	86	越前		WQTY			
	87	越前		WQTY			
	88	越前		WQTY			
	89	越前		WQTY			
	90	越前		WQTY			
	91	越前		WQTY			
	92	越前		WQTY			
	93	越前		WQTY			
	94	越前		WQTY			
	95	越前		WQTY			
	96	越前		WQTY			
	97	越前		WQTY			
	98	越前		WQTY			
	99	越前		WQTY			
	100	越前		WQTY			
	101	越前		WQTY			
	102	越前		WQTY			
	103	越前		WQTY			
	104	越前		WQTY			
	105	越前		WQTY			
	106	越前		WQTY			
	107	越前		WQTY			
	108	越前		WQTY			
	109	越前		WQTY			
	110	越前		WQTY			
	111	越前		WQTY			
	112	越前		WQTY			
	113	越前		WQTY			
	114	越前		WQTY			
	115	越前		WQTY			
	116	越前		WQTY			
	117	越前		WQTY			
	118	越前		WQTY			
	119	越前		WQTY			
	120	越前		WQTY			
	121	越前		WQTY			
	122	越前		WQTY			
	123	越前		WQTY			
	124	越前		WQTY			
	125	越前		WQTY			
	126	越前		WQTY			
	127	越前		WQTY			
	128	越前		WQTY			
	129	越前		WQTY			
	130	越前		WQTY			
	131	越前		WQTY			
	132	越前		WQTY			
	133	越前		WQTY			
	134	越前		WQTY			
	135	越前		WQTY			
	136	越前		WQTY			
	137	越前		WQTY			
	138	越前		WQTY			
	139	越前		WQTY			
	140	越前		WQTY			
	141	越前		WQTY			
	142	越前		WQTY			
	143	越前		WQTY			
	144	越前		WQTY			
	145	越前		WQTY			
	146	越前		WQTY			
	147	越前		WQTY			
	148	越前		WQTY			
	149	越前		WQTY			
	150	越前		WQTY			
	151	越前		WQTY			
	152	越前		WQTY			
	153	越前		WQTY			
	154	越前		WQTY			
	155	越前		WQTY			
	156	越前		WQTY			
	157	越前		WQTY			
	158	越前		WQTY			
	159	越前		WQTY			
	160	越前		WQTY			
	161	越前		WQTY			
	162	越前		WQTY			
	163	越前		WQTY			
	164	越前		WQTY			
	165	越前		WQTY			
	166	越前		WQTY			
	167	越前		WQTY			
	168	越前		WQTY			
	169	越前		WQTY			
	170	越前		WQTY			
	171	越前		WQTY			
	172	越前		WQTY			
	173	越前		WQTY			
	174	越前		WQTY			
	175	越前		WQTY			
	176	越前		WQTY			
	177	越前		WQTY			
	178	越前		WQTY			
	179	越前		WQTY			
	180	越前		WQTY			
	181	越前		WQTY			
	182	越前		WQTY			
	183	越前		WQTY			
	184	越前		WQTY			
	185	越前		WQTY			
	186	越前		WQTY			
	187	越前		WQTY			
	188	越前		WQTY			
	189	越前		WQTY			
	190	越前		WQTY			
	191	越前		WQTY			
	192	越前		WQTY			
	193	越前		WQTY			
	194	越前		WQTY			
	195	越前		WQTY			
	196	越前		WQTY			
	197	越前		WQTY			
	198	越前		WQTY			
	199	越前		WQTY			
	200	越前		WQTY			
	201	越前		WQTY			
	202	越前		WQTY			
	203	越前		WQTY			
	204	越前		WQTY			
	205	越前		WQTY			
	206	越前		WQTY			
	207	越前		WQTY			
	208	越前		WQTY			
	209	越前		WQTY			
	210	越前		WQTY			
	211	越前		WQTY			
	212	越前		WQTY			
	213	越前		WQTY			
	214	越前		WQTY			
	215	越前		WQTY			
	216	越前		WQTY			
	217	越前		WQTY			
	218	越前		WQTY			
	219	越前		WQTY			
	220	越前		WQTY			
	221	越前		WQTY			
	222	越前		WQTY			
	223	越前		WQTY			
	224	越前		WQTY			
	225	越前		WQTY			
	226	越前		WQTY			
	227	越前		WQTY			
	228	越前		WQTY			
	229	越前		WQTY			
	230	越前		WQTY			
	231	越前		WQTY			
	232	越前		WQTY			
	233	越前		WQTY			
	234	越前		WQTY			
	235	越前		WQTY			
	236	越前		WQTY			
	237	越前		WQTY			
	238	越前		WQTY			
	239	越前		WQTY			
	240	越前		WQTY			
	241	越前		WQTY			
	242	越前		WQTY			
	243	越前		WQTY			
	244	越前		WQTY			
	245	越前		WQTY			
	246	越前		WQTY			
	247	越前		WQTY			
	248	越前		WQTY			
	249	越前		WQTY		</	

従って、以前和田岬系、男女倉系としていた産地は共に和田村を中心とし、同一地点で両者の原石が混在しているような状況から和田エリ亞として統一した。ただし、今までとの比較が必要な場合を想定して、場合によっては和田(W)エリ亞(旧和田岬系)、和田(W)ニリ亞(旧男女倉系)という呼称を用いている。産地エリ亞内の細分された判別群の名前としては、その群の原石を採取可能な代表的な地点名を用いた。たとえば鷹山群という名前は、この群に属する原石が鷹山で代表されるということである。鷹山ではほかの群の原石が採取されないということではない。また、他の地点でも鷹山群の原石は採取可能であり、決してこの群の原石が鷹山でしか採取できないということではない。

産地原石の測定はハンマーを用いて打ち割り、できるだけ平坦な面を選んで行った。完全に平坦な面を作成したり、粉末として測定しなかった理由は、目的とする遺物にできるだけ近い状態で測定した結果、産地が推定可能であることが必要と考えたからである。原石を理想的な状態で分析し、その結果、各原石を分類できたとしても、実際に遺物に適用できないことがあるからである。

### 3.2 吹野原A遺跡出土試料

分析した試料は173点で、ナイフ形石器、台形石器、石核、石刃、楔形石器、剥片である。剥片には微細剥離痕や使用痕のあるものを含む。各石器の詳細については石器の属性表を参照していただきたい。

各試料を超音波洗浄後、メラミンフォーム製のスponジでこすって汚れを落とし、できるだけ平坦な面を選んで測定を行った。望ましい結果が得られなかった場合は、再度洗浄したり、測定面を変更するなどして測定を繰り返した。

## 4. 測定

用いた装置はセイコーインスツルメンツ社のエネルギー分散蛍光X線装置SEA-2110Lで、X線管ターゲットはロジウム、検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件を次に示す。

電流：自動設定 電圧：50kV 照射径：10mm, 3nm 署露気：真空

測定時間：産地原石 500sec, 遺跡出土試料 240sec

分析された元素は以下の通りである。

アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)

## 5. 産地推定法

前述したように産地原石を用いて産地推定の基礎的なデータベースを作成した。測定結果から算出した推定のための指標は以下のとおりである。

蛍光X線分析から得られたK、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zrの7元素の蛍光X線強度を用いて、次のような産地推定のための指標を計算する。

$A = (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$ とした時、

$$Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100/A \quad Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100/A$$

$$Zr \text{ 分率} = Zr \text{ 強度} \times 100/A \quad Mn \text{ 強度} \times 100/Fe \text{ 強度}$$

$$\log(Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$$

これらの指標の算出には蛍光X線のエネルギー差が小さく、風化に影響されにくい元素をできる限り用いた。

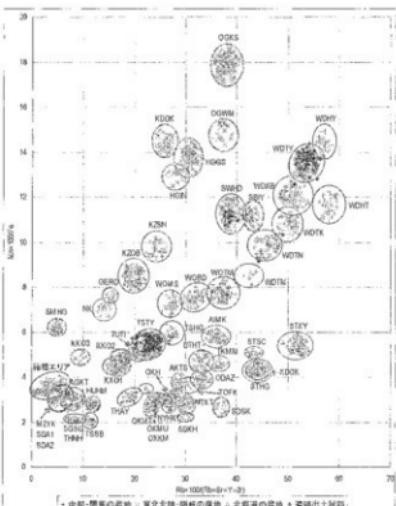
推定のための第1の方法としては上記のうちZr分率を除く4つの指標を用いて2つのグラフによる推定法を用いた。以下この方法を判別図法、二つのグラフを判別図と呼ぶことにする。

二つの判別図を第50図と第51図に示した。第50図は横軸に Rb 分率、縦軸に Mn 強度 × 100/Fe 強度をプロットしたものである。第51図は横軸に Sr 分率、縦軸に log(Fe 強度 / K 強度) をプロットしてある。第50図と第51図とから、各エリアの判別群の分類が可能となる。

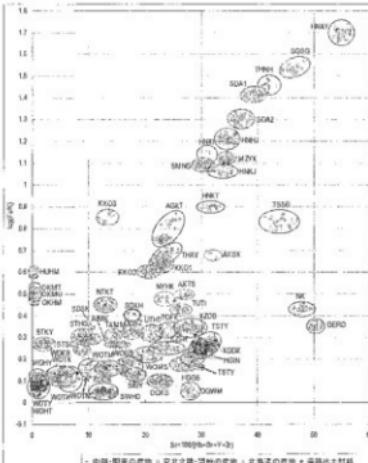
遺跡出土試料についても同様に蛍光X線分析を行い、産地原石と同様のプロットを行って比較することで、産地推定を行った。図中では吹野原A遺跡出土の黒曜石を◆で示した。判別図法は、遺跡出土黒曜石の産地推定において形状、厚み、風化の影響を受けにくく、信頼性の高い産地推定法であるといえよう。また、指標の計算は非常に簡単であり、推定結果はグラフにより視覚的・直感的に把握できることから非常にわかりやすいことも大きな長所といえる。

第2の方法として多変量解析の1つの手法である判別分析を用いた。この方法はすでに分類された群のいずれに未知の試料が帰属するかを求める方法である。変量として上記の指標すべて用いた。原石の群はあらかじめクラスター分析と主成分分析によって分類し、判別分析によって結果に矛盾がないかを確認した。

判別図法と判別分析との結果は非常に一致度が高いが、和田鷹山群と和田小深沢群など同じエリアの中のもともと類似した群の場合には異なる群に分類される場合もある。このような場合は判別分析の結果を採用している。



第50页



第51図 判別図2

## 6. 産地推定結果

判別図には淡色の原石と◆の吹野原遺跡出土試料を示した。23～25表の推定結果表には以下の情報を示した。

2002通し番号：本研究室における2002年度の通算分析番号

分析番号 遺物番号 推定産地：産地エリアと判別群の最終推定結果

判別図判別群：判別図による推定結果

判別分析 第1候補：判別分析による判別群第1候補

距離：第1候補の判別群と試料との間のマハラノビス距離

確率：試料が第1候補の判別群に属する確率

第2候補についても第1候補と同様

二つの判別図と判別分析の結果から、産地エリアとして和田エリア(55点)、諏訪エリア(11点)、蓼科エリア(104点)の3つのエリアの黒曜石が検出された。測定した173点中、風化のために3点の産地推定ができなかった。判別分析と判別図の結果は1点(MPH-44)を除いてすべて一致した。この試料は判別図からはWDTMとされたが、判別分析の結果はWDTMとなった。判別分析の結果はWDTM83%、WDTN17%である。

第19表には、吹野原A遺跡全体の産地組成を試料数と試料数%で示した。

第20表に示したのは石器種類別の産地組成である。諏訪エリアと和田エリアの黒曜石は剥片の数に比べて石器が多いが、蓼科エリアは石核に多く見受けられ、楔形石器やナイフ形石器には用いられていない。台形石器は諏訪エリアと蓼科エリアが1点ずつである。

第21表に石器ブロック別に産地組成を示した。出土遺物の産地別分布図は第2章第9図から第11図に示したので、そちらを参照されたい。和田エリアと蓼科エリアはともにBL7からBL10にかけて共存するが、同一のブロック内ではその分布が偏って存在することが見て取れる。例えば、最も試料数の多いBL7を見てみよう。蓼科エリアの黒曜石は南北の中央付近、東西では東側に偏在するのに対して、和田エリアの黒曜石は南北では北と南側に別れて、東西には比較的均等に分布している。旧男女倉系は2点ともBL7の南西に分布する。諏訪エリアの黒曜石は北区のBL3からBL6に集中する。

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(W)	基底沢	WDTM	2	1.18
	鹿山	EDTY	48	28.24
	小深沢	WDM3	1	0.59
和田(W)	土星瘤北	WDTX	1	0.69
	土星瘤西	WDTM	2	1.18
	土星瘤南	EDTM	1	0.59
諏訪	鬼ヶ台	SDHD	11	6.47
	冷山	ESTY	104	61.18

第19表 黒曜石産地組成

種類	SDHD	ESTY	WDM3	WDTX	WDTM	EDTY	WDTN	EDTM	总计	
Bl		6					1	6	1	14
Ca		6						1		1
Fl	5	89	1		1	1	35	1	133	
Kn	2								2	
Kn破							1	1	1	
Pb	1						2		2	
RF		1			1				1	
Tr	1	1							2	
UF	2	1					3		6	
总计	11	104	1	1	1	2	48	2	173	

第20表 器種別産地組成

ブロック番号	SDHD	ESTY	WDM3	WDTX	WDTM	EDTY	WDTN	EDTM	总计
1		1					1		1
2						1	1		2
3	6	3			1				10
4		2							2
5	1								1
6	4					3			7
7	63	1				34	2	100	
8		19				1			20
9		13				3			16
10		1					5		6
ブロック外		2	1	1	1	1			5
总计	11	104	1	1	1	2	48	2	173

第21表 石器ブロック別産地組成

本遺跡の大きな特徴としては、長野県の三大黒曜石産地のうち、野尻湖周辺遺跡群では比較的少ない蓼科エリアの黒曜石が、全体の約61%という高率で検出されたことである。下に示すように、野尻湖周辺遺跡群で最も近い産地組成を示すのは上ノ原遺跡で、蓼科エリアの黒曜石を約55%含んでいる。蓼科エリアの次に和田エリアが多く含まれ、諏訪エリアの黒曜石が非常に少ない点でも共通している。

## 7.まとめ

野尻湖遺跡群の調査は広大な面積にわたる。現在までに12000点を超える試料の産地推定をしてきたとはいっても、全体の出土量の一部をカバーしたに過ぎない。しかも、考察は遺跡ごとにしか行われていない。これからさらに野尻湖周辺遺跡群の黒曜石の分析例は増加することは予想されるが、分析した遺跡全体の地理的条件、出土層位、その他を総合的に考えて、行政発掘調査の都合による遺跡別からはなれ、考察すべき対象を正確に把握してその上で野尻湖周辺における黒曜石利用の様相、変遷を見ていく必要が出てくるものと考える。

遺跡名	貢ノ木	日向林	東武	上ノ原	大久保町	西郷A	赤の山	七ツ里	大字	日向林
確定試料数	4643	3495	986	314	493	456	1639	35	43	52
和田197 (W)	5	6	?	?	1	1	1	1	1	1
龜尾沢群	23	12	1	1	1	1	1	1	1	1
庄山群	1884	2866	683	127	455	257	1489	31	36	43
小原沢群	384	487	18	4	15	65	1	1	1	1
北裏北原	114	35	26	1	1	14	1	1	1	1
主要根西原	188	—	42	1	4	8	22	2	—	3
土瓶根南原	116	—	10	1	3	2	1	1	1	1
諏訪297	1754	34	175	8	27	117	46	1	2	1
冷山群	171	72	10	172	1	51	1	1	1	1
御料497	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1
神津島397	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豊根島群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
寒風山497	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
男鹿497	—	—	—	2	1	—	—	—	—	4
深溝497	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
木造497	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—
山岸鳥居	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第22表 野尻湖遺跡群黒曜石産地推定結果まとめ

2002 通し番号	分析番号	遺物番号	施設・遺跡名	判別用 標記	埋蔵分析				
					第1候補産地	第2候補産地	標準	判別率	
MR02-509	MRH-1	3	地田高森沢群	WTM	TSYB	4.36	0.9986	WTB	17.46 0.9512
MR02-510	MRH-2	4	丸山根山群	WTY	WTY	6.42	1	WKB	34.19 0
MR02-511	MRH-3	8	和田高森沢群	WTY	WTY	6.91	1	WHY	24.87 0
MR02-512	MRH-4	12	風化	風化	風化	風化	風化	風化	風化
MR02-513	MRH-5	14	和田高森沢群	WTY	WTY	5.22	1	WHY	23.08 0
MR02-514	MRH-6	19	蓼科冷山群	TSY	TSY	2.59	0.9943	TSY	9.01 0.0057
MR02-515	MRH-7	21	蓼科冷山群	TSY	TSY	3.42	1	TSY	25.99 0
MR02-516	MRH-8	27	蓼科冷山群	TSY	TSY	1.01	0.9999	TSY	16.12 0.0001
MR02-517	MRH-9	30	蓼科冷山群	TSY	TSY	10.28	1	TSY	40.65 0
MR02-518	MRH-10	31	和田高森沢群	WTY	WTY	0.17	1	WHY	20.07 0
MR02-519	MRH-11	34	蓼科冷山群	TSY	TSY	3.15	1	TSY	24.41 0
MR02-520	MRH-12	36	蓼科冷山群	TSY	TSY	3.19	1	TSY	26.93 0
MR02-521	MRH-13	38	和田高森沢群	WTY	WTY	7.71	0.7874	WHY	7.9 0.2126
MR02-522	MRH-14	39	和田高森沢群	WTY	WTY	5.43	1	WHY	36.56 0
MR02-523	MRH-15	46	蓼科冷山群	TSY	TSY	6.25	1	TSY	59.29 0
MR02-524	MRH-16	47	蓼科冷山群	TSY	TSY	4.54	0.9915	TSY	10.14 0.0085
MR02-525	MRH-17	48	蓼科冷山群	TSY	TSY	2.9	1	TSY	22.42 0
MR02-526	MRH-18	49	蓼科冷山群	TSY	TSY	3.75	0.9999	TSY	18.64 0.0001
MR02-527	MRH-19	50	蓼科冷山群	TSY	TSY	2.38	1	TSY	51.49 0
MR02-528	MRH-20	51	蓼科冷山群	TSY	TSY	9.98	0.9843	TSY	14.34 0.0157
MR02-529	MRH-21	52	蓼科冷山群	TSY	TSY	0.64	1	TUT	46.85 0
MR02-530	MRH-22	53	蓼科冷山群	TSY	TSY	3.97	0.9999	TSY	19.35 0.0001
MR02-531	MRH-23	55	蓼科冷山群	TSY	TSY	1.3	1	TSY	19.4 0
MR02-532	MRH-24	57	蓼科冷山群	TSY	TSY	9.65	0.9999	TSY	23.99 0.0001
MR02-533	MRH-25	58	蓼科冷山群	TSY	TSY	5.32	1	TSY	22.35 0

第23表 産地指定結果1

2022 通し番号	分類番号	遺物番号	推定产地	判別基準 判別基準	判別分析					
					第1供給地帯			第2供給地帯		
					西端	東端	確率	西端	東端	確率
002-534	WFH-26	59	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.26	0.9999	TSRH	18.59	0.0001
002-535	WFH-27	61	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.05	1	TSRH	20.79	0
002-536	WFH-28	64	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	5.05	0.9998	TSRH	16.7	0.0002
002-537	WFH-29	65	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	8.89	0.9864	TSRH	13.58	0.0138
002-538	WFH-30	67	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.09	1	TSRH	23.05	0
002-539	WFH-31	68	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	8.16	0.9972	TSRH	15.99	0.0028
002-540	WFH-32	72	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.52	0.9985	TSRH	2.7	0.0109
002-541	WFH-33	74	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.1	0.9995	TSRH	10.13	0.0042
002-542	WFH-34	75	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	1.74	1	TSHC	26.76	0
002-543	WFH-35	77	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	13.55	1	TSRH	47.12	0
002-544	WFH-36	79	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	7.79	1	TUFI	25.97	0
002-545	WFH-37	81	鶴見山群	WDTY	WDTY	2.67	0.9997	WDHY	16.62	0.0003
002-546	WFH-38	83	鶴見山群	WDTY	WDTY	9.34	0.9997	WDHY	22.89	0.0003
002-547	WFH-39	85	鶴見山群	WDTY	WDTY	3.76	0.9988	WDHY	15.3	0.0002
002-548	WFH-40	86	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	2.95	0.9999	TSRH	19.23	0.0001
002-549	WFH-41	88	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	4.19	0.9973	TSRH	12.1	0.0027
002-550	WFH-42	90	和田路山群	WDTY	WDTY	6.61	0.9986	WDHY	17.29	0.0014
002-551	WFH-43	92	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.6	0.9997	TSRH	16.17	0.0003
002-552	WFH-44	103	和田路山群	WDTY	WDTY	12.58	0.8343	WDHY	13.04	0.1667
002-553	WFH-45	111	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	5.14	0.9999	TSRH	20.11	0.0001
002-554	WFH-46	142	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	4.3	1	TSRH	20.21	0
002-555	WFH-47	154	豊岡貴ヶ谷群	WDHD	WDHD	6.19	1	SDHY	88.39	0
002-556	WFH-48	155	和田路山群	WDTY	WDTY	2	1	WDHY	31	0
002-557	WFH-49	162	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	11.34	1	TUFI	31.07	0
002-558	WFH-50	163	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	1.89	1	TSRH	29.11	0
002-559	WFH-51	165	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	1.04	1	TSRH	27.52	0
002-560	WFH-52	167	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	2.64	1	TUFI	28.64	0
002-561	WFH-53	169	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.39	1	TUFI	25.76	0
002-562	WFH-54	170	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	0.66	1	TSRH	20.9	0
002-563	WFH-55	171	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	2.91	1	TSRH	23.32	0
002-564	WFH-56	175	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	5.83	1	TSRH	40.49	0
002-565	WFH-57	176	和田路山群	WDTY	WDTY	7.19	0.8677	WDHY	2.43	0.1378
002-566	WFH-58	178	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	12.53	1	TSRH	46.26	0
002-567	WFH-59	179	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	1.19	0.9998	TSRH	14.5	0.0002
002-568	WFH-60	180	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	5.22	1	TSRH	23.6	0
002-569	WFH-61	181	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	1.36	0.9999	TSRH	16.91	0.0001
002-570	WFH-62	183	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	4.99	1	TSRH	23.46	0
002-571	WFH-63	185	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	4.96	1	TSRH	31.03	0
002-572	WFH-64	187	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	2.13	1	TSRH	21.79	0
002-573	WFH-65	189	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	15.33	1	TSRH	51.91	0
002-574	WFH-66	197	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	5.72	1	TSRH	43.14	0
002-575	WFH-67	201	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	2.92	1	TSRH	31.34	0
002-576	WFH-68	233	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	1.31	1	TSRH	21.78	0
002-577	WFH-69	204	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	11.07	1	TUFI	52.26	0
002-578	WFH-70	205	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	5.33	1	TUFI	27.03	0
002-579	WFH-71	213	豊岡嵐山群	WDTY	WDTY	4.84	0.9994	WDHY	17.24	0.0004
002-580	WFH-72	214	和田路山群	WDTY	WDTY	7.78	1	WDHY	32.86	0
002-581	WFH-73	215	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	0.5	1	TCHC	22.64	0
002-582	WFH-74	216	和田路山群	WDTY	WDTY	7.15	0.9322	WDHY	9.96	0.0678
002-583	WFH-75	220	和田路山群	WDTY	WDTY	2.72	1	WDHY	35.5	0
002-584	WFH-76	223	和田路山群	WDTY	WDTY	9.58	0.9936	WDHY	16.73	0.0064
002-585	WFH-77	224	和田路山群	WDTY	WDTY	5.48	1	WDHY	25.71	0
002-586	WFH-78	225	和田路山群	WDTY	WDTY	10.89	0.7911	WDHY	11.12	0.2088
002-587	WFH-79	228	和田路山群	WDTY	WDTY	4.73	0.8993	WDHY	16.92	0.0007
002-588	WFH-80	229	和田路山群	WDTY	WDTY	12.81	0.783	WDHY	12.94	0.217
002-589	WFH-81	232	和田路山群	WDTY	WDTY	11.77	1	WDHY	33.44	0
002-590	WFH-82	233	和田路山群	WDTY	WDTY	2.57	0.9994	WDHY	14.83	0.0006
002-591	WFH-83	236	和田路山群	WDTY	WDTY	2.53	0.9995	WDHY	16.48	0.0005
002-592	WFH-84	238	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	3.48	1	TSRH	20.98	0
002-593	WFH-85	239	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	0.88	1	TSRH	25.14	0
002-594	WFH-86	244	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	16.66	1	TUFI	59.18	0
002-595	WFH-87	246	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	4.45	1	TSHC	24.68	0
002-596	WFH-88	247	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	7.39	0.9890	TSRH	20.98	0.0002
002-597	WFH-89	250	風化							
002-598	WFH-90	251	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	12.47	0.9993	TUFI	32.07	0.0007
002-599	WFH-91	253	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	15.27	1	TSRH	52.82	0
002-600	WFH-92	254	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	10.23	1	TSHC	32.03	0
002-601	WFH-93	255	豊岡冷山群	WDTY	WDTY	8.78	1	WDHY	29.46	0
002-602	WFH-94	259	豊岡冷山群	TSTY	TSTY	10.93	1	TUFI	29.24	0

第2表 产地指定結果

2002 落し番号	分群番号	植物番号	推定生地	判別種 判別群	判別分析						
					第1統括度地			第2統括度地			
				判別群	説明	確率	判別群	説明	確率	判別群	説明
MR02-003	MFH-96	260	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.85	0.9591	TSNG	6.26	0.0409	
MR02-004	MFH-96	261	高化	高化				高化			
MR02-005	MFH-97	262	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	2.78		I	TSNG	18.99	0
MR02-006	MFH-98	264	蓼科冷山群	TSIY	TSTY	2.81	0.9985	TSNG	11.94	0.0015	
MR02-007	MFH-99	268	和田尾山群	WDTY	WDTY	1.87		I	NDHY	27.52	0
MR02-008	MFH-100	270	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.11		I	TSNG	37.19	0
MR02-009	MFH-101	271	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	7.54	0.9999	TSNG	22.73	0.0001	
MR02-010	MFH-102	276	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	11.34		I	TU11	33.16	0
MR02-011	MFH-103	278	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.39		I	TSNG	26.38	0
MR02-012	MFH-104	278	蓼科冷山群	TSIY	TSIY	6.04	0.9997	TSNG	18.15	0.0003	
MR02-013	MFH-105	287	和田尾山群群	WDTR	WDTR	12.67	0.9569	WDTY	19.54	0.0431	
MR02-014	MFH-106	289	蓼科冷山群	TSIY	TSIY	0.96		I	TSNG	19.27	0
MR02-015	MFH-107	291	和田尾山群	WDTY	WDTY	4.79		I	NDHY	26.73	0
MR02-016	MFH-108	306	蓼科冷山群	TSIY	TSIY	3.51	0.9991	TSNG	13.55	0.0009	
MR02-017	MFH-109	318	蓼科墨ヶ台群	SMD	SMD	4.25		I	SRIY	90.83	0
MR02-018	MFH-110	319	蓼科墨ヶ台群	SMD	SMD	3.79		I	WDTN	76.56	0
MR02-019	MFH-111	323	蓼科墨ヶ台群	SMD	SMHD	5.86		I	SBIY	98.53	0
MR02-020	MFH-112	330	蓼科墨ヶ台群	SMD	SMHD	8.58		I	SBIY	108.99	0
MR02-021	MFH-113	364	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	10.2	0.9993	TSNG	20.89	0.0007	
MR02-022	MFH-114	389	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.05		I	TSNG	17.23	0
MR02-023	MFH-115	406	和田尾山群西群	WDTR	WDTR	1.63		I	NDTK	29.64	0
MR02-024	MFH-116	436	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.32	0.9991	TSNG	11.39	0.0009	
MR02-025	MFH-117	437	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.22	0.9999	TSNG	16.31	0.0001	
MR02-026	MFH-118	458	蓼科冷山群	TSIY	TSTY	1.14		I	TSNG	19.72	0
MR02-027	MFH-119	492	御路墨ヶ台群	SMD	SMD	3.58		I	SBIY	78.68	0
MR02-028	MFH-120	502	御路墨ヶ台群	SMD	SMD	4.3		I	SBIY	107.64	0
MR02-029	MFH-121	504	和田尾山群	WDTY	WDTY	2.53		I	NDHY	27.42	0
MR02-030	MFH-122	568	和田尾山群北群	WDTR	WDTR	7.17	0.9464	WDTR	13.14	0.0535	
MR02-031	MFH-123	591	和田尾山群	WDTY	WDTY	5.43		I	NDTK	35.02	0
MR02-032	MFH-124	601	和田尾山群	WDTY	WDTY	2.86	0.9999	NDHY	18.3	0.0001	
MR02-033	MFH-125	606	和田尾山群	WDTY	WDTY	5.64		I	NDHY	36.19	0
MR02-034	MFH-126	613	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	7.07		I	TU11	27.72	0
MR02-035	MFH-127	614	利尻鹿群山	WDTY	WDTY	1.39	0.9999	NDHY	17.9	0.0001	
MR02-036	MFH-128	615	和田尾山群	WDTY	WDTY	4.2		I	NDHY	29.22	0
MR02-037	MFH-129	616	和田尾山群	WDTY	WDTY	1.96	0.9989	NDHY	13	0.0011	
MR02-038	MFH-130	617	和田尾山群	WDTY	WDTY	9.1		I	NDSY	41.84	0
MR02-039	MFH-131	621	和田尾山群	WDTY	WDTY	9.07		I	NDHY	34.41	0
MR02-040	MFH-132	622	和田尾山群	WDTY	WDTY	1.39		I	NDHY	23.96	0
MR02-041	MFH-133	624	和田尾山群	WDTY	WDTY	5.35		I	NDHY	26.45	0
MR02-042	MFH-134	630	蓼科冷山群	TSIY	TSTY	5.21		I	TSNG	26.42	0
MR02-043	MFH-135	631	蓼科冷山群	TSIY	TSIY	5.73		I	TSNG	28.15	0
MR02-044	MFH-136	632	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.71	0.9997	TSNG	17.33	0.0003	
MR02-045	MFH-137	634	蓼科冷山群	TSIY	TSTY	0.68	0.9999	TSNG	16.1	0.0001	
MR02-046	MFH-138	635	蓼科冷山群	TSIY	TSTY	1.26		I	TSNG	22.52	0
MR02-047	MFH-139	636	蓼科冷山群	TSIY	TSTY	4.37	0.9875	TSNG	9.21	0.0124	
MR02-048	MFH-140	637	蓼科冷山群	TSIY	TSIY	0.28		I	TSNG	22.7	0
MR02-049	MFH-141	638	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	4.48		I	TSNG	29.79	0
MR02-050	MFH-142	639	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	0.61		I	TSNG	25.53	0
MR02-051	MFH-143	640	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	4.8	0.999	TSNG	14.82	0.0021	
MR02-052	MFH-144	54	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	8.77		I	TSNG	32.8	0
MR02-053	MFH-145	218	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	10.69		I	TU11	42.69	0
MR02-054	MFH-146	633	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	6.62		I	TSNG	45.02	0
MR02-055	MFH-147	66	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	2.73		I	TSNG	35.15	0
MR02-056	MFH-148	182	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	5.39		I	TSNG	28.1	0
MR02-057	MFH-149	281	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	0.79		I	TSNG	21.61	0
MR02-058	MFH-150	33	蓼科冷山群	TSTY	TSIY	3.61	0.9999	TSNG	18.65	0.0001	

第25表 産地指定結果3





## 第5章 成果と課題

### 第1節 検出された石器群

#### 1 はじめに

今回検出された旧石器時代の石器群は1時期1様相ではなく、4つに大分することができる。第1に北区石器群、第2に南西区石器群、第3に南東区石器群、第4に礫群に伴う石器群である。

次項ではそれぞれの石器群の概略について触れることとする。

#### 2 各石器群の様相

##### (1) 北区石器群

###### 1. 該当するブロック

北区には6ヶ所のブロックが存在する。第2・3・5・6号ブロックは礫群と分布の重なりがほとんどなく、層位的分布も異なる。そのため、大部分が本石器群に属すると考えられるので、本石器群の評価の対象とする。第1・4ブロックは礫群と分布が重なっており、礫群に伴う石器群と混在している可能性がある。また、数點も少なく定形的な製品がないため、明確な位置付けが難しい。そのため、北区石器群の評価の対象には含めないものとする。

###### 2. 石器群の層位

どのブロックでもⅢ層からVb層の間に石器が分散して分布している。しかし、石器が本来の生活面より下層に分布する数は、上層に浮き上がる数より少ないことを考慮すると、Vb層でもまとまった数の石器が検出されていることから、本石器群の生活面はVa層からVb層の間にあると考える。

###### 3. 石器群の内容

本石器群に確実に伴うといえる製品が楔形石器である。楔形石器も第3号ブロックに集中しており、それ以外での影は薄い。さらに第3号ブロックは器種組成が楔形石器に偏る点から、ことなる石器群に細分できる可能性がある。

第3号ブロックと第6号ブロックからナイフ形石器が1点ずつ検出されており（報告番号2と3）、組成に加わる可能性が十分に考えられるものの、いずれもⅢ層出土であるため、より新しい時期の石器である疑いは晴れない。

第6号ブロックから検出されている台形石器（報告番号6）はIV層下部出土で生活面と予想される層準に近い。素材を縦に用いて表裏に平坦な剥離を施す特徴は、貴ノ木I石器文化第3地点（大竹2000）の台形石器との共通点が見られることから本石器群に組成する器種として考えられるが、1点のみであり、ブロック縁辺に分布している点から確実とはいきれない。

板状の石核から作業面をほぼ固定して貝殻状剥片を剥離する技術が認められるが、石核、剥片の形状に齊一性がなく性格付けをおこなうには厳しい。

したがって、製品として認定できる石器が少ない事が石器群の特徴として指摘される。

#### 4. 石器群の評価

全体的に石器数が少なく、製品と認定できる器種が楔形石器以外にない理由としては、今回の調査区が狭いため石器群の一部しか検出されていないと思われる点にある。したがって、調査区周囲の状況がわからないと判断しがたいが、見通しとしては層位と台形石器等の状況から、ATより下位の石器群として位置付けられよう。

##### (2) 南西区石器群

###### 1. 該当するブロック

南西区には第7～10号ブロックは石材や層位の共通が高いため、同時期に残されたブロックとして評価できる。

###### 2. 石器群の層位

III層からVb層の間に石器が分散して分布しているが、Va層が最も多く、Vb層の数も多いことから生活面はVa層からVb層の間にあると思われる。

###### 3. 石器群の内容

本石器群ではナイフ形石器、台形石器、石刃、斧形石器が組成している。ナイフ形石器と斧形石器は1点ずつしか検出されなかったが、平面的層位的な分布状況から本石器群に含まれるものと判断した。

ナイフ形石器は石刃を素材とする2側縁に加工が施されるもので、いわゆる「茂呂型」の範疇に含まれる。素材の打面を基部に置くが、打面は加工により除去され尖端は鋭く尖る。素材の剥離軸と石器の主軸はほぼ一致している。

台形石器は貝放状剥片もしくは縦長剥片を横に用いている。側縁には折れ面や打面等から平坦な剥離と、プランティング状の急角度の剥離が施されている。その結果比較切り立った側縁が作出されている。

石刃、石刃石核が組成しており、これらには打面調整、頭部調整等の石核調整が認められる。

###### 4. 石器群の評価

ナイフ形石器、台形石器、斧形石器、石刃の組成がみられ、石刃を目的とする製作が認められ、1つの石器文化の様相を示すことができる資料として捉えられることから、本石器群に「吹野原I石器文化」の呼称を与えることとする。

##### (3) 南東区石器群

###### 1. 該当するブロック

第11号ブロックのみである。

###### 2. 石器群の層位

Va層の遺物が多いためVa層に生活面があると考えられる。

###### 3. 石器群の内容

斧形石器、石刃が組成するものの、石器総点数が10点と限られている。製品や素材となりうる大形品が主体で、石器製作が認められないことから、いずれも単独で持ち込まれたものと思われる。

###### 4. 石器群の評価

ブロックが調査区隅にあり本体は調査区外にあると思われるため評価は難しい。

#### (4) 碑群に伴う石器群

##### 1. 該当するブロック

第1～3号碑群に伴うブロックとしては第1号ブロックと第4号ブロックがあげられるが、いずれのブロックも碑群より深い層からの石器の検出があり、確実に伴うとはいきれない。石器単体についても確実に碑群に伴うといえるものはない。

##### 2. 石器群の層位

碑群に伴なう石器がわからない状態だが、碑群の出土層位はIV層に集中しておりIV層中に生活面が想定される。

##### 3. 石器群の評価

碑群に伴なう石器がわからぬいためなんとも評価できないが、3基も碑群が存在することから、小規模かもしれないが、調査区内外にこれに伴なう石器群が存在するものと予想される。

### 3 検出された石器群の評価

今回の調査区は縦長く狭い上、現道により2ヶ所に分断されている。そのため、検出された4つの石器群も、南西区石器群以外は部分的で、遺跡の全体像を想定するには足りないものと思われる。

1 単位の石器文化の様相を見ることができる南西区石器群「吹野原I石器文化」については次節で詳しく触れることとする。

## 第2節 吹野原I石器文化の位置付けと問題点

### 1 吹野原I石器文化の層位の位置付け

Vb層に位置付けられる日向林I石器文化（谷2000）や貫ノ木I石器文化では、Va層の遺物数よりVb層の遺物数が多くなる。また、Vc層やVI層に至ると遺物数が激減する。吹野原I石器文化ではVb層よりVa層から多く遺物が検出され、Vb層にもそこそこの遺物数があることから、Va層の下半部からVb層上面付近に生活面が求められる。

### 2 吹野原I石器文化のナイフ形石器

吹野原I石器文化のナイフ形石器は石刀を素材として2側縁に加工が施される「茂呂型ナイフ形石器」として評価できる。石器主軸と素材剥離軸はほぼ同一方向で、斜めに折断されているというよりは、素材の剥離軸に沿ってプランティングが施されているといえよう。このナイフ形石器の特徴は裏ノ山II石器文化（谷2000）の大形のナイフ形石器とよく似ている。

### 3 吹野原I石器文化の台形石器

吹野原I石器文化の台形石器は貝殻状剥片もしくは縦長剥片を横に用いている。側縁には折れ面や打面等から平坦な剥離と、プランティング状の急角度の剥離が施されている。その結果、側縁は比較的切り立つ状態となる。

Vb層の石器文化である日向林I石器文化と比較すると、素材の用い方が多様な分、平面形の齊一性が低

く、側縁は切り立っているものが多い。この特徴は裏ノ山Ⅱ石器文化にも見られ、日向林Ⅰ石器文化との時期差として考えられようか。

#### 4 吹野原Ⅰ石器文化の斧形石器

本石器文化の1点の斧形石器は緑色燧灰岩製で、剥離および研磨による調整は細かく丁寧に施されている。そのため、野尻湖遺跡群に一般的に見られる蛇紋岩製の斧形石器とはやや異なる雰囲気を持っているといえよう。

野尻湖遺跡群のほとんどの斧形石器は、日向林Ⅰ石器文化とほぼ同時期の武藏野台地立川ローム層X～IX層下部段階に位置付けられると思われる。しかしながら、吹野原Ⅰ石器文化は前記したナイフ形石器や台形石器の特徴から、日向林Ⅰ石器文化より新しい石器文化として考えられる。関東地方の刃部に研磨が施される斧形石器は、旧石器時代終末の「神子柴型石斧」に類するものを除けば、武藏野台地立川ローム層IX層より新しく位置付けられるものはないと思われる。全国的にも同様で、刃部に研磨が施される斧形石器のほとんどが、武藏野台地立川ローム層X層・IX層下部段階に位置付けられていると認識している。

しかし、野尻湖遺跡群には武藏野台地立川ローム層IX層段階より、新しい可能性が指摘できる資料が数例あげられる。杉久保型ナイフ形石器と斧形石器がいっしょに存在する例が、杉久保A遺跡（林仙1970）と東裏遺跡特別養護老人ホーム地点（渡辺1994）で確認されている。また、本石器文化とほぼ同一層準に位置付けられる東裏HⅡ石器文化（谷2000）にも斧形石器が組成している。

本石器文化とナイフ形石器、台形石器との共通性が高い裏ノ山Ⅱ石器文化に斧形石器は組成していない。しかし、隣接する裏ノ山Ⅰ石器文化（谷2000）に組成している。裏ノ山Ⅰ石器文化は裏ノ山Ⅱ石器文化の遺物分布域の上層よりも若干厚い堆積があり、V層出土石器が中心となっているため、裏ノ山Ⅱ石器文化より古い石器文化としての位置付けをおこなっている。しかし、今回検出された吹野原Ⅰ石器文化に斧形石器が組成することから、裏ノ山Ⅱ石器文化から検出された2つの石器文化は同時期の可能性が考えられるようになったのではないだろうか。

このように野尻湖遺跡群には武藏野台地立川ローム層段階より新しいと思われる石器群に斧形石器が伴なう例が見られる。武藏野台地X・IX層下部段階の野尻湖遺跡群には、他地域を圧倒する数の斧形石器が検出されていることから、その後の段階に斧形石器が残っていても不自然ではないと思われる。

#### 5 吹野原Ⅰ石器文化の問題点

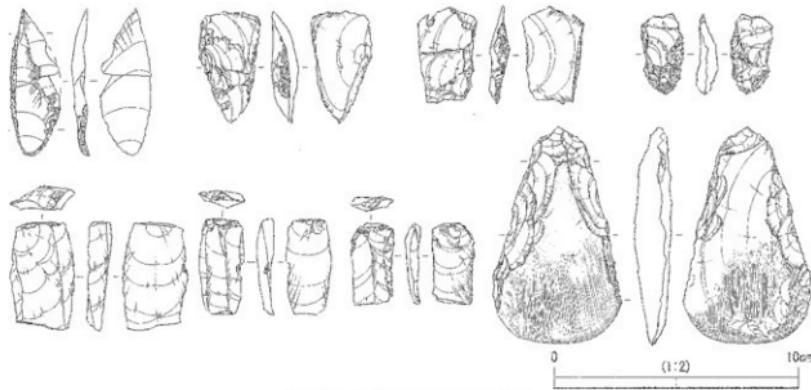
これまで記述してきたことをまとめると、吹野原Ⅰ石器文化は時間的にATより下位であるが、日向林Ⅰ石器文化に代表されるVb層の石器群よりは新しいと位置付けることができる。

空間的には茂呂型ナイフ形石器の存在や石材が黒曜石を主体としていることから、大局的ではあるが、中部高地から関東、東海地方に見られる石器群として評価できよう。

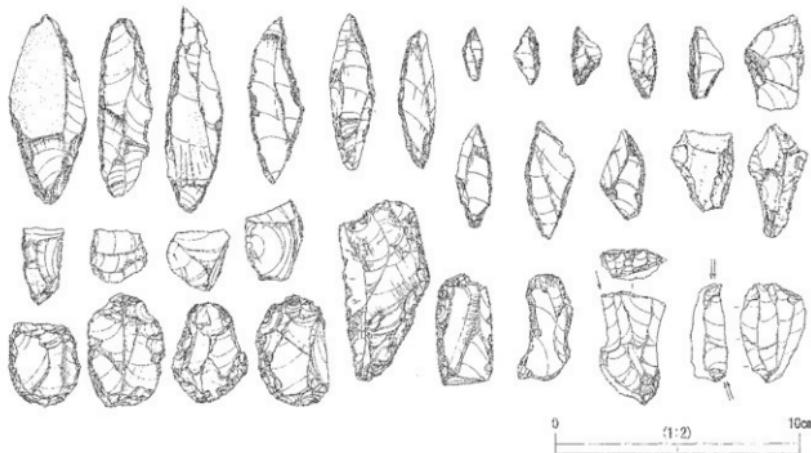
吹野原Ⅰ石器文化の生活面は野尻湖遺跡群のVa層からVb層上而が想定されるが、武藏野台地立川ローム層に対比すると、IX層上部からVI層の下部の幅を持つ。南関東ではこの間に、IX層段階（諫訪間段階Ⅱ・諫訪間1988）、VII層段階（諫訪間段階Ⅲ）、VI層段階（諫訪間段階Ⅳ）と石器群が変遷している。南関東とは地域が異なるため、野尻湖遺跡群でも同じように変遷しているとは思えないが、吹野原Ⅰ石器文化がほぼ1時期の様相を示しているのも事実であり、時間的に南関東のどの段階と並行しているのか知りたいところである。

新しい段階に対比すれば、南関東にはない斧形石器や台形石器が存在することとなり、古い段階に対比すると茂呂型ナイフ形石器および石刃の初現の問題が浮かびあがる。

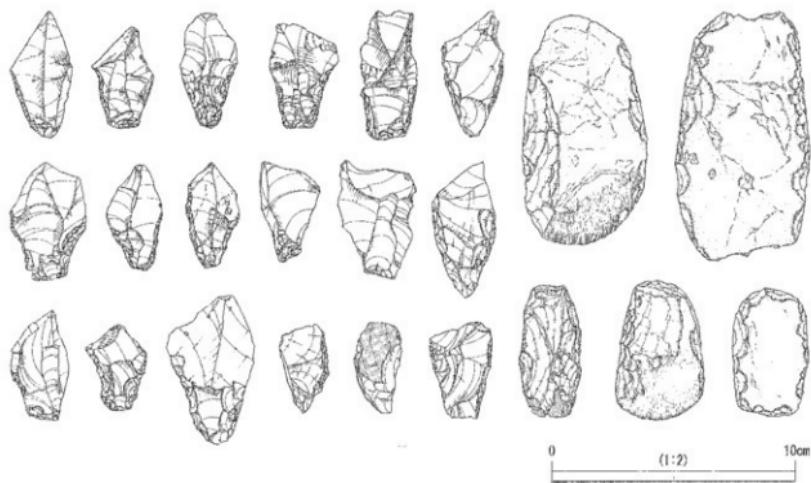
現在、野尻湖遺跡群では国道18号線のバイパス建設に伴なう大規模な緊急発掘調査および報告書作成に向けての整理作業が続けられている。これらの中には吹野原Ⅰ石器文化と同時期に該当すると思われる石器群が複数存在している。これらの調査や分析が進めば、新たな展開が期待できよう。そのため、より詳細な見解は次の機会にまわすこととした。



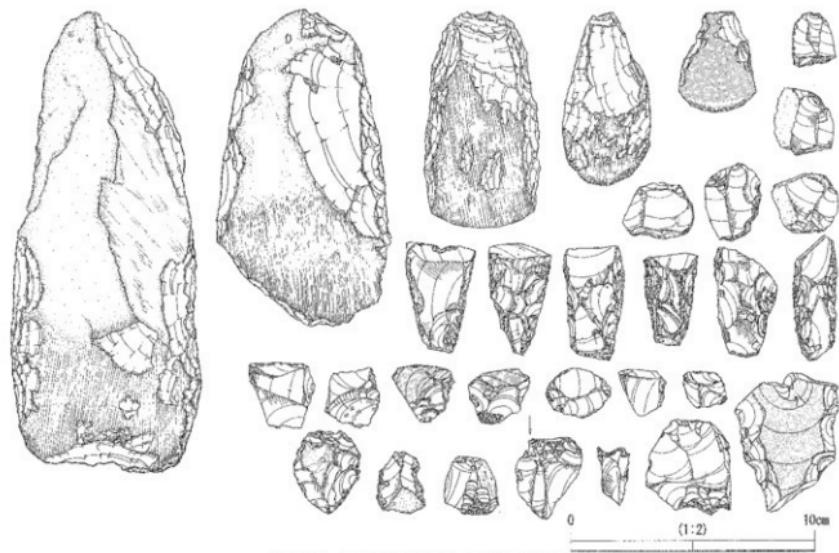
第52図 吹野原Ⅰ石器文化の石器



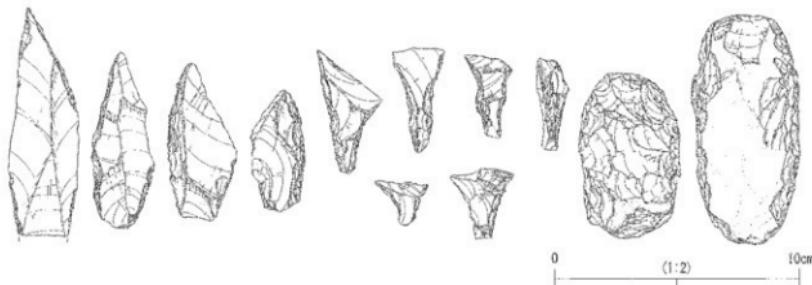
第53図 谷ノ山Ⅱ石器文化の石器（谷2009）



第54図 黒ノ木I石器文化（第3地点）の石器（大竹 2000）



第55図 日向林I石器文化の石器（谷 2006）



第 56 図 東裏社 II 石器文化の石器 (谷 2000)

#### 引用、参考文献

- 赤羽貞幸 1996 「野尻湖の生い立ちとその変遷」『アーバンクボタ』35  
 安藤政雄 1979 「2 石器の形態と機能」『日本考古学を学ぶ』(2) 有斐閣選書  
 内田勝一郎・渡辺哲也 2001 「信濃町吹原原 A 墓群の 12 年度調査」第 13 回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨  
 大竹憲昭 1983 「長野県の石斧」『旧石器時代の石斧 (斧形石器) をめぐって』北陸旧石器文化研究会  
 大竹憲昭 2000 「第 5 章 成果と課題」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 15 信濃町内その 1 貞ノ木遺跡・西岡 A 遺跡 旧石器時代編』  
 蔭笠 昭・野尻湖埋蔵調査 1986 「長野県野尻湖遺跡群の縄年と地域的様相」『日本考古学会第 62 回総会研究発表要旨』  
 酒井清一 1994 「野尻湖と歴史水期の研究」『アーバンクボタ』35  
 佐藤弘之 1983 「合形石器研究小説」『考古学雑誌』第 73 卷第 3 分  
 佐藤弘之 1993 「日本古石器文化の構造と進化」柏谷等  
 須藤隆司 1998 「群馬県坂東遺跡の石器文化—ナイフ形石器の型式学的考察—」明治大学考古学博物館研究報 No. 2  
 砂田佳弘 1983 「石斧について」『神奈川考古』第 15 号  
 齋藤閑順 1988 「和様の台地における石器群の変遷について」『神奈川考古』24  
 芹沢長介・麻生俊 1985 「北信・野尻湖底泥炭の丸太墳文化」『考古学雑誌』39-2  
 谷 和隆 1995 「野尻湖遺跡群における先土器時代の石器石材」『長野県信濃文化財発掘調査センター紀要』4  
 谷 和隆 1995 「野尻湖遺跡群と石斧」『考古学ジャーナル』No. 385  
 谷 和隆 2000 「第 7 章 成果と課題」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 15 信濃町内その 1 日向林 B 遺跡・日向林 A 遺跡・七ツ栗遺跡・大平 B 遺跡 旧石器時代編』  
 谷 和隆 2000 「第 6 章 成果と課題」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 15 信濃町内その 1 裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡 旧石器時代編』  
 谷 和隆 2002 「信濃町吹原 A 遺跡 (塙地地点) の発掘」第 14 回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨  
 戸戸丸則 1968 「塙玉掛砂岩遺跡の石器文化」『考古学叢書』4-1  
 長崎潤一 1990 「後羽州石器時代前半期の石斧—形態変化論を視点として—」『先史考古学研究』第 3 号  
 中村由克 1995 「長野・新潟における石器石材について」『石器石材～北関東の原石とその流通を中心として～』第 3 回岩宿フォーラム予稿集  
 中村由克 2000 「信濃町吹原 A 遺跡の 11 年度調査」第 12 回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨  
 横本勝雄 1995 「関東京南部における後期旧石器時代然半期の石斧」『考古学ジャーナル』No. 385  
 林茂樹・桶口昇一・森島修・澤井洋・小林孚・斎田充・北村直次 1970 「杉久保 A 遺跡緊急発掘調査報告」『長野県考古学会誌』第 8 号  
 矢島博雄・鈴木次郎 1976 「信濃野尻台地における先土器時代研究の現状」『神奈川考古』第 1 号  
 渡辺哲也 1997 「信濃町吹原 A 遺跡の調査」第 9 回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨  
 地学団体研究会編 1995 「新版地学辞典」平凡社  
 信濃町史編纂委員会 1964 「信濃町史」  
 信濃町教育委員会 1995 「貞ノ木遺跡、日向林 B 遺跡 (個人住宅地点) 発掘調査報告書」  
 日本道路公社・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 15 信濃町内その 1 日向林 B 遺跡・日向林 A 遺跡・七ツ栗遺跡・大平 B 遺跡 旧石器時代編」  
 日本道路公社・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 15 信濃町内その 2 裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡 旧石器時代編」  
 日本道路公社・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 15 信濃町内その 3 貞ノ木遺跡・西岡 A 遺跡 旧石器時代編」  
 日本道路公社・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 16 信濃町内その 4 五光山 A 遺跡・豊ノ山 B 遺跡・西岡 A 遺跡・貞ノ木遺跡・上ノ原遺跡・大久保南遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡・針ノ木遺跡・大平 A 遺跡・向林 A B 遺跡・日向林 B 遺跡・七ツ栗遺跡・曾光田遺跡・闇文・近世城」  
 日本道路公社・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 16 信濃町内その 5 信濃町データ編」  
 野尻湖人類考古グループ 1987 「野尻湖遺跡群の旧石器文化」『野尻湖遺跡の考古学的成果 第 1 節』  
 野尻湖人類考古グループ 1990 「野尻湖遺跡群の旧石器文化」『野尻湖遺跡の考古学的成果 第 2 節』  
 野尻湖人類考古グループ 1994 「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告』第 2 号  
 北陸旧石器文化研究会 1983 「野尻湖時代の石斧 (斧形石器) をめぐって」

## 第6章 結語

吹野原A遺跡は平成13年に調査がおこなわれた。吹野原A遺跡の所在する長野県上水内郡信濃町は、旧石器時代～縄文時代草創期の遺跡が密集しており、野尻湖遺跡群と呼ばれている。

平成5年～7年に当センターがおこなった上信越自動車建設に伴なう発掘調査では、貫ノ木、日向林B、東裏などの遺跡から約7万点の旧石器時代の石器が検出され多大なる成果が得られている。その中でも、始良丹沢火山灰(以下AT)降灰以前の石器群は充実しており、大量の斧形石器や台形石器のあり方は量的にも質的にも国内で最も充実した内容を持つといえよう。今回の調査ではそれに次ぐ時期の良好な石器群が検出されたことが大きな成果としてあげられる。

以下時期をおって主な成果をあげ、まとめとする。

### 旧石器時代 AT降灰以前～降灰直後

第7～第10号ブロックは、出土層位、器種・石材組成等に共通性が認められ、空間的にも他の時期の遺物の混入の可能性がほとんどないまとまった石器群であることから、吹野原I石器文化と位置付けることができた。

吹野原I石器文化はV<sub>a</sub>層下半部～V<sub>b</sub>層上面付近に生活面が想定できる層の分布状況である。ATを最も多く包含する地層はIV層下部～V<sub>a</sub>層となっている。日向林I石器文化等の斧形石器や台形石器を多量に組成する石器群の層位はV<sub>b</sub>層であることから、吹野原I石器文化は日向林I石器文化以降からAT降灰前後の間に時期的な位置付けが想定される。

吹野原I石器文化には完成された石刃製作技術が見られ、器種組成にナイフ形石器、台形石器、斧形石器が共存している。斧形石器、台形石器はひとつ前の時期であるV<sub>b</sub>層に生活面がもとめられる石器群を象徴する器種であり、AT降灰以降に継続して組成する器種として考えられていないかったと思われる。吹野原I石器文化にこれらが存在することは、斧形石器、台形石器がどこまで新しい時期まで組成するのか、または、縄文時代まで継続して組成する器種としての可能性を考えさせる貴重な成果として評価できよう。

### 旧石器時代 AT降灰以降

当該期の石器として明確なものは存在しないが、3基の礫群は象徴的である。

本遺跡の礫群は火の影響と思われる赤化が見られる礫が少なく、また、割れずに完形品が多い特徴を持つ。火を受け割れている礫が多いのが一般的な礫群の特徴であることから、本礫群は一般的な礫群とはやや性格が異なる可能性が考えられる。さらに、これらの礫が1辺1mから1.5mの「コ」の字状に配置されていることも、なにか特殊な機能や活動の痕跡をうかがわせている。

### 縄文時代以降

5基の陥し穴は長軸が1m強、短軸が80cm前後、深さ1m弱の規模を持ち、坑底部に1ヶ所のピットを有する特徴を持つ。しかし、出土遺物が皆無で時期的な位置付けができない。周辺遺跡の状況から縄文時代早期～前期に属する可能性が高いと思われる。

以上のような成果が得られたが、今回の報告は吹野原A遺跡の既調査部分の一部にすぎない。また、信濃町内では、国道18号バイパス等の開発事業による調査は続いており、今後の確実な資料増加が見えていく。今後、それら成果を含めて、野尻湖遺跡群が世界を代表する遺跡群として評価されていくことを期待する。

# 写 真 図 版

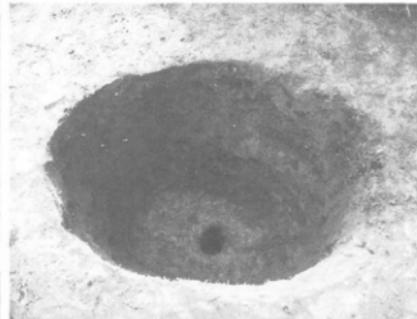
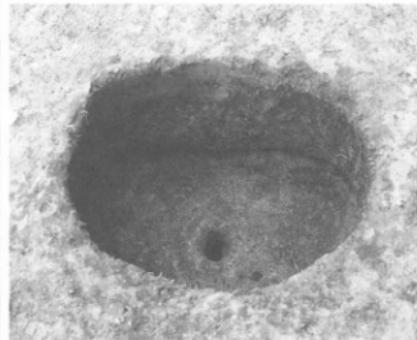




遺跡遠景  
(西より)



左：SD1・2(北より)  
右上：SK5(南より)  
右下：SK4(南より)





南西区（BL7～10）  
Ⅲ～V b層遺物分布状況（東より）



左：南西区（BL7～10）  
Ⅲ～V a層遺物分布状況（東より）  
右：南西区（BL7～10）  
Ⅲ～V b層遺物分布状況（西より）



左：斧形石器  
(報告番号77)  
出土状況（西より）  
右：斧形石器  
(報告番号77)  
インプレント  
(西より)



左：斧形石器出土状況  
(報告番号78)  
(北より)  
右：同インプレント  
(北より)



左：南東区(BL11)  
III～V b層遺物  
分布状況(西より)  
右：北区掘り下げ作業風景(西より)



北区III～IV層  
遺物分布状況  
礫群・陥し穴配列  
(西より)



北区Ⅲ～V b層  
遺物分布状況  
陥し穴配列  
(西より)



左：SH1砾分布状況  
(北より)  
(上半部のみ)  
右：SH2砾分布状況  
(南より)



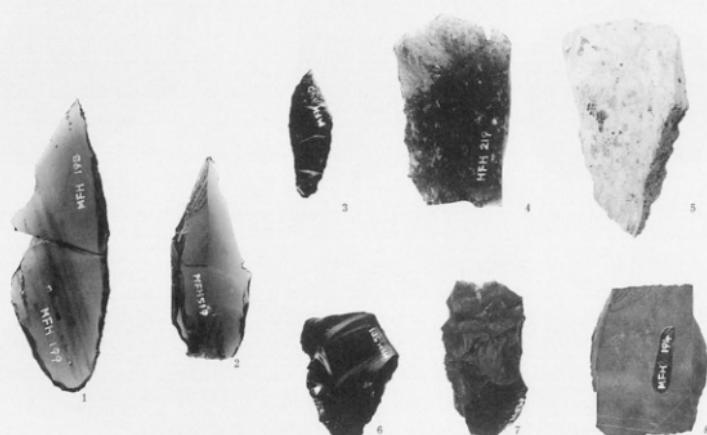
左：SH3砾分布状況  
(北西より)  
右：北区VI層面掘り  
げ作業風景





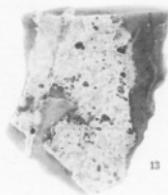
ナイフ形石器  
台形石器  
折断剥片  
表

(1 : 1)

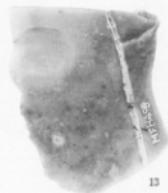


ナイフ形石器  
台形石器  
折断剥片  
裏

(1 : 1)

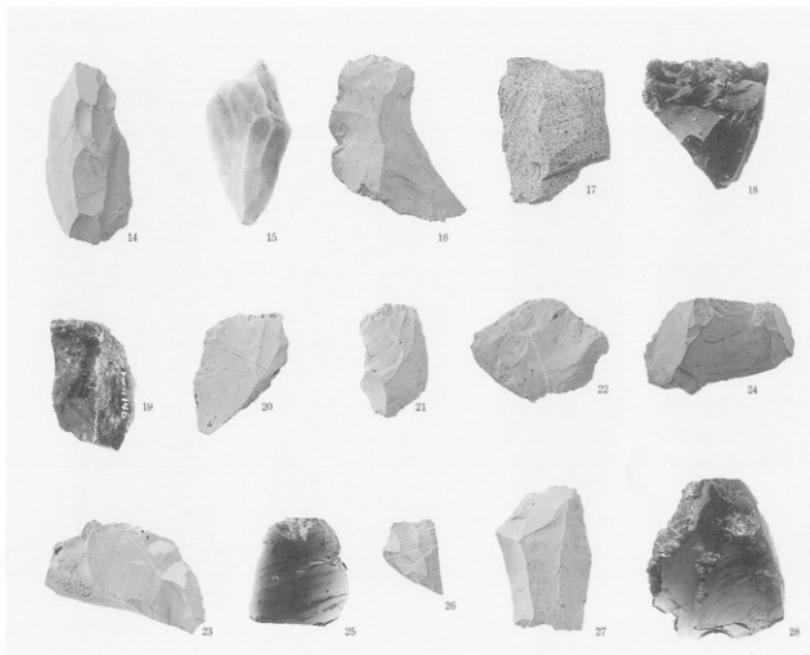


(1 : 1)  
搔器・削器  
表

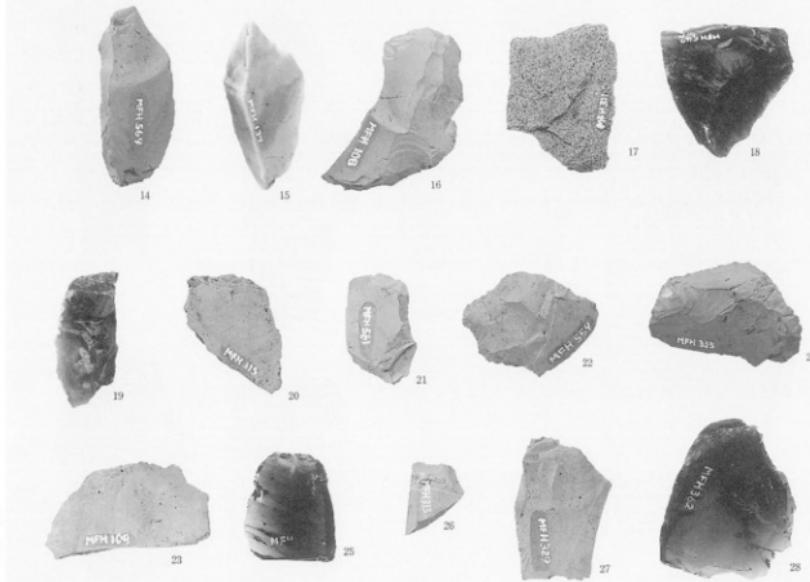


搔器・削器  
表

(1 : 1)

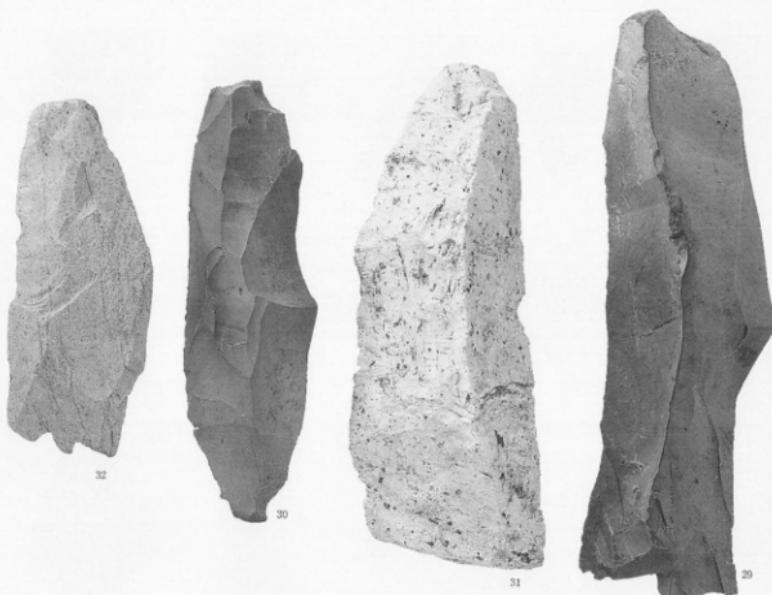


(1 : 1)

楔形石器  
表

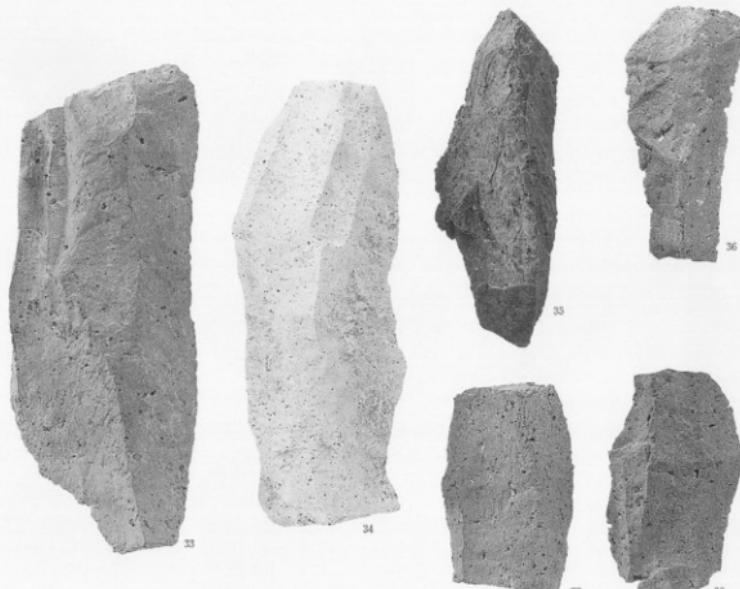
(1 : 1)

楔形石器  
裏



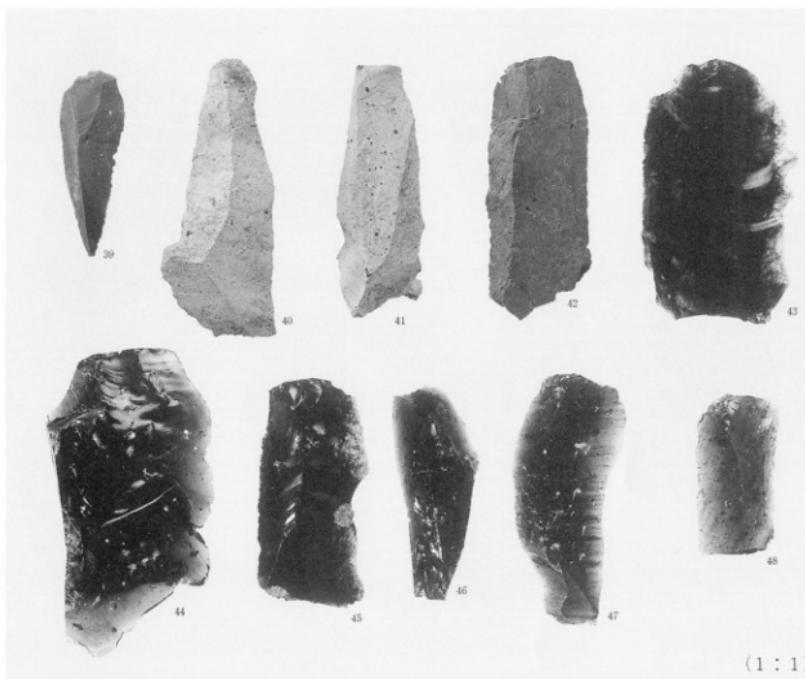
(1 : 1)

石刃1



石刃2

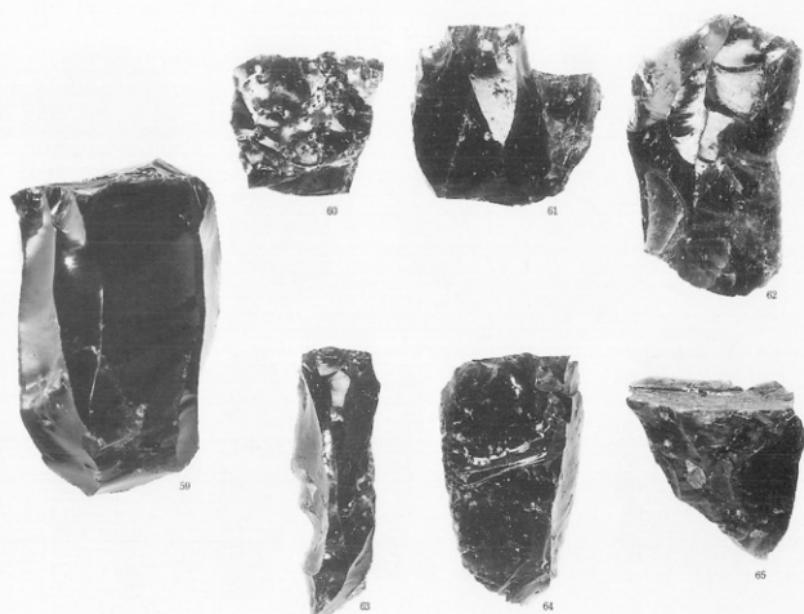
(1 : 1)



石刃3

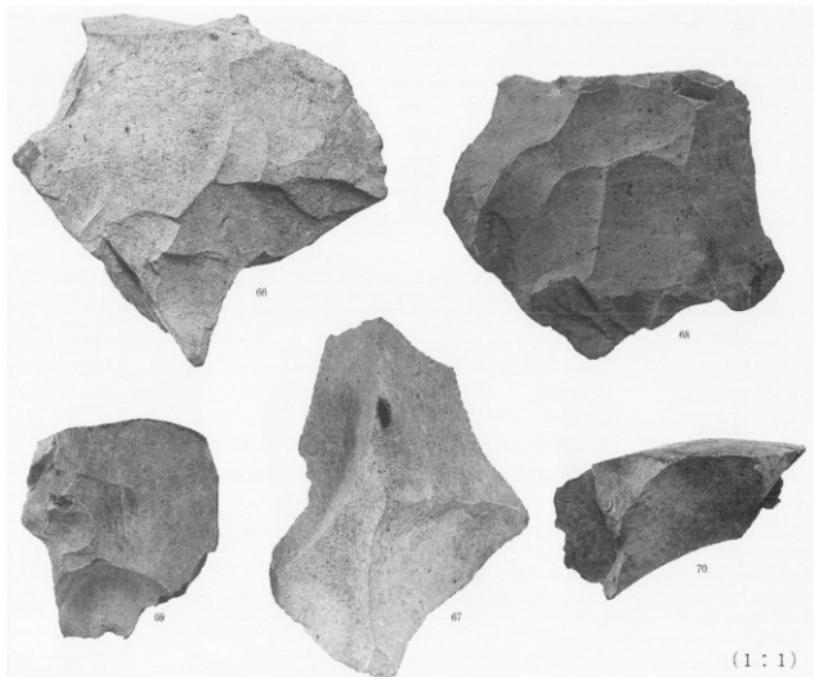


石刃4



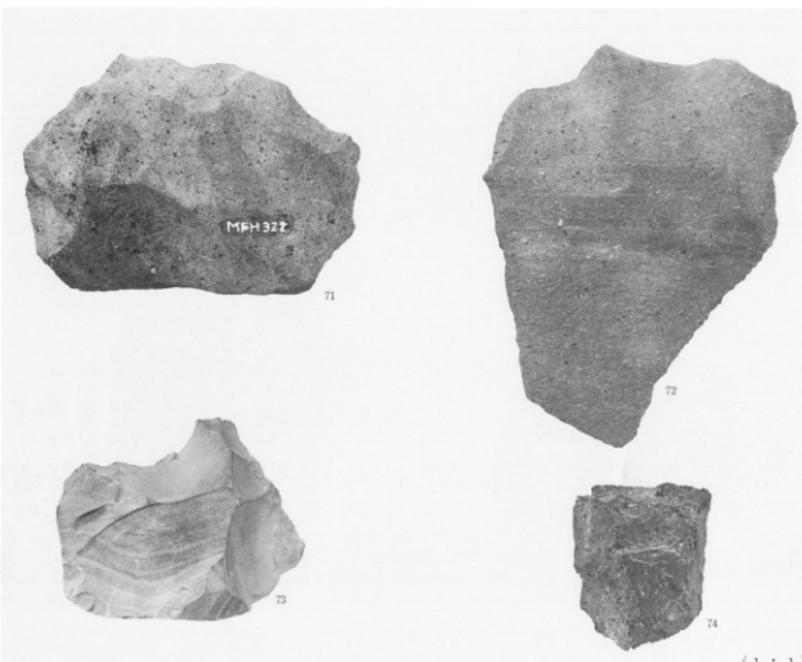
(1:1)

石核1



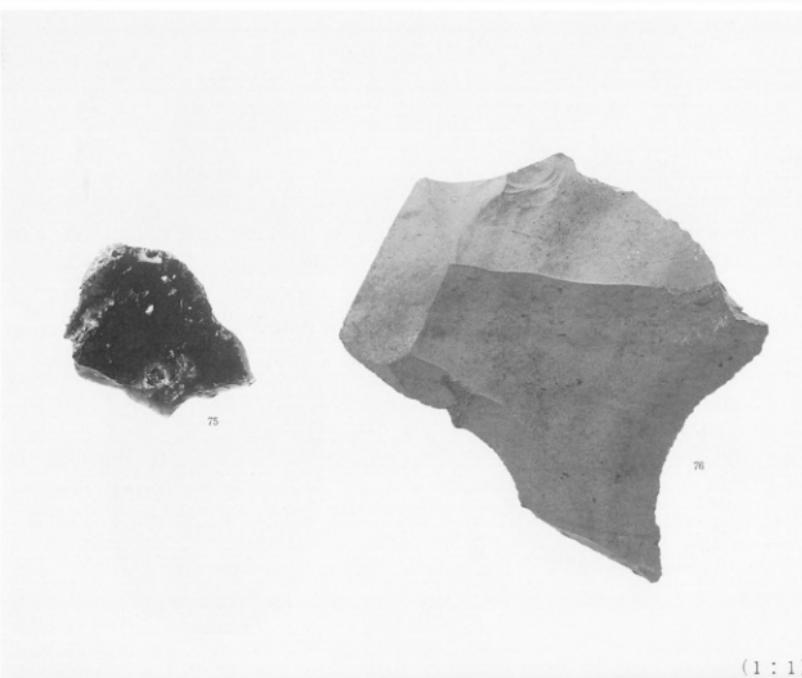
(1:1)

石核2



石核3

(1 : 1)



打面再生剥片

(1 : 1)



77



78

(1 : 1)

斧形石器  
表

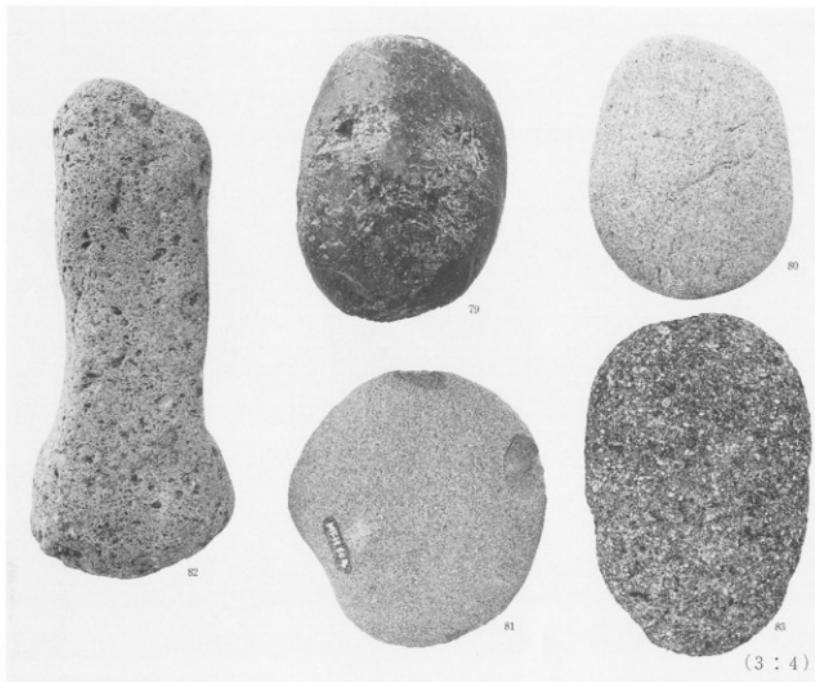
77



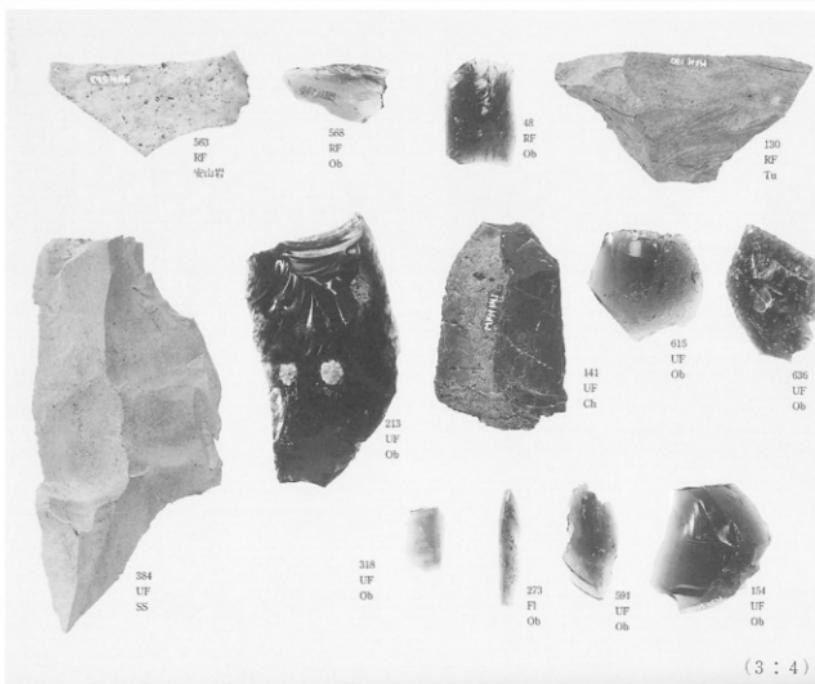
78

斧形石器  
裏

(1 : 1)



(3 : 4)

敲石  
磨石

実測図のない石器

(3 : 4)



(3 : 4)

実測図のない石器

北区調査終了状況  
(西より)

## 報告書抄録

ふりがな	けんたんどうらかいりょう いっぽんけんどうふもまでいしゃじょうせんmaiぞうぶんかざいはつくちょうきほうこくしょ
書名	県単道路改良（一）古間（停）線埋蔵文化財発掘調査報告書
削書名	信濃町内 吹野原A遺跡
巻次	
シリーズ名	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	59
編著者名	谷 和隆
編集機関	財団法人 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
所在地	〒387-0007 長野県更埴市県代260-6 TEL026-274-3891
発行年月日	2002年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	度数	調査期間	m <sup>2</sup>	
吹野原A遺跡	長野県上水内郡信濃町 大学古間学び野原	205834	92	36° 47' 36" N 138° 13' 35" E	2001年9月13日～ 2001年11月26日	1,600	県道拡幅工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吹野原A遺跡	集落	旧石器	石器集中地点（プロック）11・櫛群3	ナイフ形石器・台形石器 斧形石器・石刃	2側縁加工のナイフ形石器・台形石器に斧形石器が共伴
	土坑群	绳文	隙し穴5	なし	なし

### 長野県埋蔵文化財センター報告書 59

## 県単道路改良（一）古間（停）線 埋蔵文化財発掘調査報告書

—信濃町内—  
吹野原A遺跡

発行 平成14年3月29日  
発行者 長野県長野建設事務所  
長野県埋蔵文化財センター  
TEL026-274-3891 FAX274-3892  
印刷 カシヨ株式会社  
TEL026-251-0510 FAX251-0500

